

豊田市の環境に関する市民・事業者・小中高生向けアンケート 報告書

目次

1. アンケート調査概要	1
2. 市民向けアンケート集計結果	3
3. 事業所向けアンケート集計結果	44
4. 小中高生向けアンケート集計結果	88

(留意事項)

過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更等による影響が含まれる可能性がある。

1. アンケート調査概要

1.1 アンケート調査の目的

次期豊田市環境基本計画（以下、次期計画）の策定にあたり、さまざまな年代・立場の市民および事業者から現行計画に対する評価を把握し、市民・事業者目線で目指すべき将来像や重点課題の解決・施策展開の方向性を明らかにするとともに、市のイメージや特徴の強化に向けた施策展開の方向性を明らかにすることを目的にアンケート調査を実施する。

1.2 アンケート調査の概要

豊田市内に在住の市民、事業所を置く全事業者、市内小中高校の学生を対象にアンケートを実施し、豊田市の環境に関する事項を中心とした項目について紙面とWEBを併用した調査を行った。調査の実施概要を、表 2、

表 3 に示す。

表 1 市民・事業所向けアンケート実施概要

項目	市民	事業者
対象	2,000 人（市内在住の満 18 歳以上）	500 社（市内所在）
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出（地域および年代が同様となるような層化抽出）	業種別に層化し、無作為抽出（率先した環境行動が期待される大規模事業所（常用雇用者 300 人以上）は優先して抽出）
配布方法	郵送配布	
回収方法	同封の返信封筒による返送、貼付の二次元コードから WEB 回答	
調査期間	令和 6 年 8 月 27 日（木）発送 令和 6 年 9 月 16 日（月・祝）〆切	令和 6 年 9 月 2 日（月）発送 令和 6 年 9 月 25 日（水）〆切
回収数 目標	384 通 ※豊田市人口（約 42 万人）に対して、許容誤差 5%、信頼度 95%における必要サンプル数	150 通 ※回収率 35%（過去の事業者アンケート調査の回収率と同程度）
有効回収 数・回答 率	903 通（有効回収率：45.2%）	212 通（有効回収率：42.4%）

表 2 小中高生向けアンケート実施概要

項目	小中高生
対象	市内の公立小学校、公立中学校、高等学校等の在校生
抽出方法	小中高校それぞれについて都市地域から 2 校、山村地域から 1 校を抽出
配布方法	二次元コード配布
回収方法	WEB 回答（Microsoft 社の Microsoft Forms）
調査期間	令和 6 年 9～10 月、ホームルーム活動を使って回答／個別に高校等へ回答依頼
内容	市民向けアンケートの中から 4 問程度を抜粋。より答えやすい表現、選択肢として実施。
回収率	欠席生徒を除いて約 100% 目標
有効回収 数・回答 率	756 通（有効回収率 66.7%）

表 3 対象校・実施日程

	地域	学校名	実施日程
小学校	都市地域	四郷小学校（回答数：76）	令和 6 年 9 月 27 日（金）～10 月 4 日（金）
		土橋小学校（回答数：49）	令和 6 年 10 月 3 日（木）～10 月 8 日（火）
	山村地域	稲武小学校（回答数：35）	令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 11 日（金）
中学校	都市地域	竜神中学校（回答数：193）	令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 11 日（金）
		逢妻中学校（回答数：242）	令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 11 日（金）
	山村地域	小原中学校（回答数：60）	令和 6 年 10 月 1 日（火）～10 月 11 日（金）
高校	都市地域	豊田東高校（回答数：69）	令和 6 年 10 月 7 日（月）～10 月 17 日（木）
		猿投農林高校（回答数：11）	令和 6 年 10 月 7 日（月）～10 月 17 日（木）
	山村地域	足助高校（回答数：42）	令和 6 年 10 月 7 日（月）～10 月 17 日（木）

※回答数は令和 6 年 10 月 25 日現在

2. 市民向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

2.1 結果の概要

市民向けアンケート結果の概要を示す。

表 4 市民向けアンケート結果概要

結果概要
【周辺の環境全般について】 ➤ 『10.全体として周辺の環境への満足度』は「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値が 54.6% となった。【問 1】 ➤ 【ごみの分別や減量】、【その他】の項目は取組が進んでいるが、【エネルギー】、【環境学習】の項目は取組が進んでいないものが多い。その理由として「エ.取り組む機会がない」、「ケ.自分だけ取り組んでも意味がない」、「コ.取組の方法について相談できる窓口がない」の回答が多い。【問 2】
【気候変動について】 ➤ LED など高効率照明や省エネ家電製品については既に導入が進んでおり、そのほかの機器については導入費用や賃貸住宅、マンション等が理由で導入が進んでいない。【問 3】 ➤ 気候変動に対する不安を感じる項目には農業への影響や熱中症、生活コストの上昇が多く回答された。【問 4】 ➤ 気候変動が及ぼす影響に対して、日頃から取り組んでいることとして、不安を感じる項目に対する取り組んでいる割合が高い結果となった。【問 5】
【生物多様性について】 ➤ 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は 33.1%となった。【問 6】 ➤ 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は 35.0%となった。【問 7】 ➤ 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は 67.3%となった。【問 8】 ➤ 「1.自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）」のみが 10%を超える結果となった。関心はあると回答した割合が概ね 50%以上となっているが取組には至っていないと示唆される。【問 9】
【資源循環について】 ➤ ごみ分別カレンダーや広報とよたでのごみに関する市からの情報入手を希望する回答者が多い。【問 10】 ➤ ごみの減量・資源化に関する取組は販売店でのリサイクルや集団回収の取組が比較的進んでいる。【問 11】
【市の環境への取組について】 ➤ 『2.新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進』や『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』は満足度が低く、重要度が高い結果となった。【問 12】 ➤ ごみ問題や環境教育、交通手段についての意見が比較的多くあがった。【問 13】

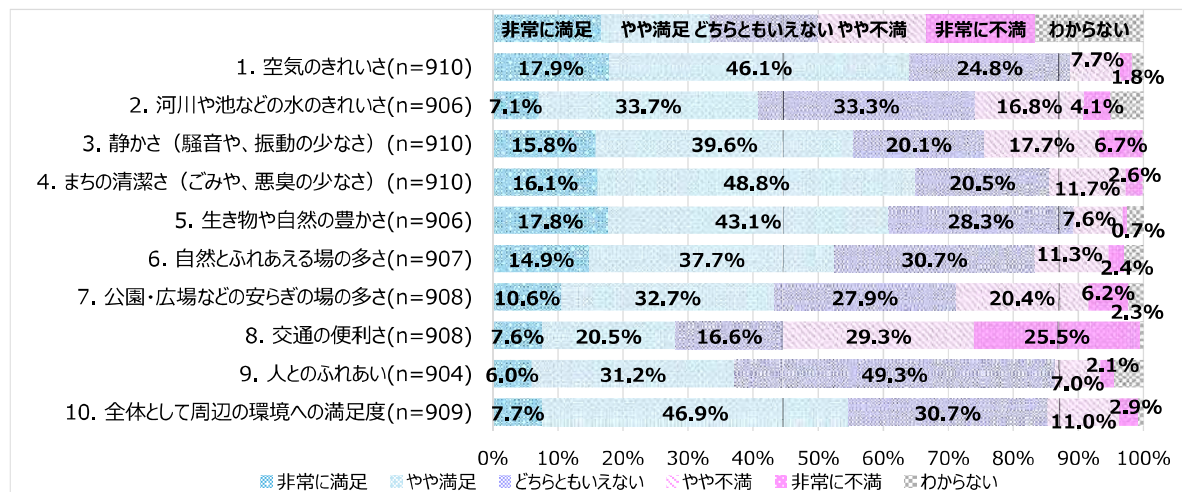
2.2 単純集計結果

以下に問 1～問 19 の結果を示す。

周辺の環境全般について

【問 1】 お住まい周辺の環境の満足度について、それぞれ 1 つずつ 選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	非常に満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	非常に不満	わからない
1. 空気のきれいさ	911	163	420	226	70	16	16
	100.0%	17.9%	46.1%	24.8%	7.7%	1.8%	1.8%
2. 河川や池などの水のきれいさ	907	64	306	302	152	37	46
	100.0%	7.1%	33.7%	33.3%	16.8%	4.1%	5.1%
3. 静かさ（騒音や、振動の少な さ）	911	144	361	183	161	61	1
	100.0%	15.8%	39.6%	20.1%	17.7%	6.7%	0.1%
4. まちの清潔さ（ごみや、悪臭の 少なさ）	911	147	445	187	107	24	1
	100.0%	16.1%	48.8%	20.5%	11.7%	2.6%	0.1%
5. 生き物や自然の豊かさ	907	161	391	257	69	6	23
	100.0%	17.8%	43.1%	28.3%	7.6%	0.7%	2.5%
6. 自然とふれあえる場の多さ	908	135	342	279	103	22	27
	100.0%	14.9%	37.7%	30.7%	11.3%	2.4%	3.0%
7. 公園・広場などの安らぎの場の多 さ	909	96	297	254	185	56	21
	100.0%	10.6%	32.7%	27.9%	20.4%	6.2%	2.3%
8. 交通の便利さ	909	69	186	151	266	232	5
	100.0%	7.6%	20.5%	16.6%	29.3%	25.5%	0.6%
9. 人とのふれあい	905	54	282	446	63	19	41
	100.0%	6.0%	31.2%	49.3%	7.0%	2.1%	4.5%
10. 全体として周辺の環境への満 足度	910	70	427	279	100	26	8
	100.0%	7.7%	46.9%	30.7%	11.0%	2.9%	0.9%



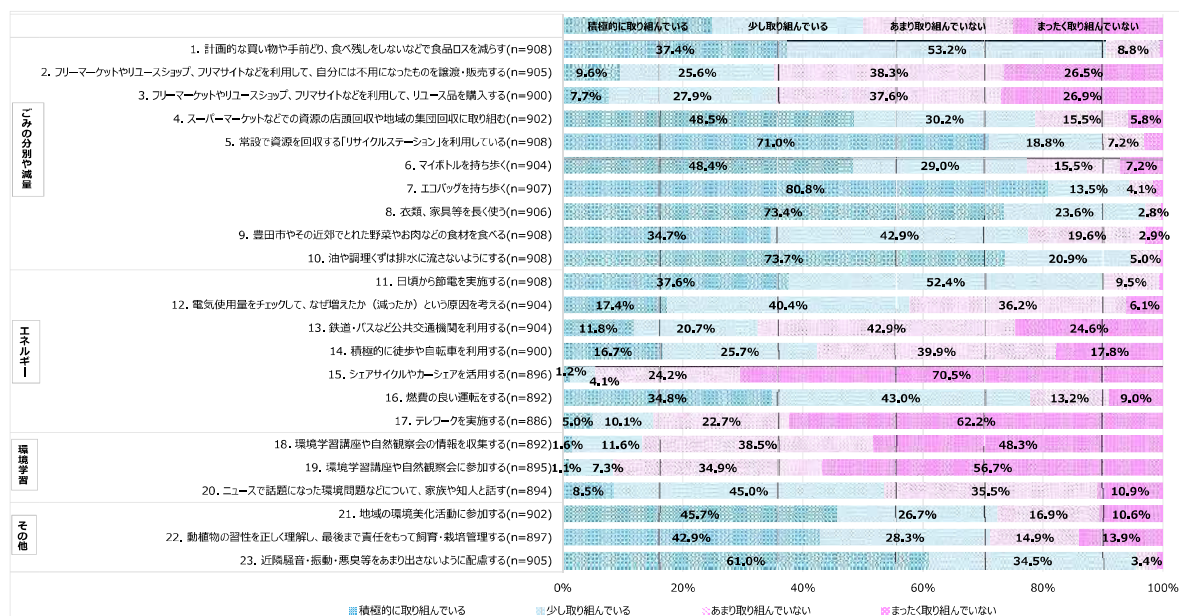
問 1 の結果概要

- 『1.空気のきれいさ』の満足度は「1.非常に満足」が 17.9%と最も高い結果となった。一方、『8.交通の便利さ』は「5.非常に不満」が 25.5%と最も不満度が高い結果となった。
- 「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値を項目 1～10.で比較すると、『4.まちの清潔さ（ごみや、悪臭の少なさ）』の満足度についての満足度が 64.9%と最も高く、『8.交通の便利さ』の満足度が 28.1%と最も低いことが示された。

- 『10.全体として周辺の環境への満足度』は「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値が54.6%と過半数を超えた。

日々の生活における環境に配慮した行動について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。また、「4.まったく取り組んでいない」を回答された場合は、その理由を表の【理由の選択肢】のア～サから1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %		合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	909	340	484	80	5
		100.0%	37.4%	53.2%	8.8%	0.6%
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する	906	87	232	347	240
		100.0%	9.6%	25.6%	38.3%	26.5%
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	901	69	251	339	242
		100.0%	7.7%	27.9%	37.6%	26.9%
	4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	903	438	273	140	52
		100.0%	48.5%	30.2%	15.5%	5.8%
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	909	645	171	65	28
		100.0%	71.0%	18.8%	7.2%	3.1%
	6. マイボトルを持ち歩く	905	438	262	140	65
		100.0%	48.4%	29.0%	15.5%	7.2%
エネルギー	7. エコバッグを持ち歩く	908	734	123	37	14
		100.0%	80.8%	13.5%	4.1%	1.5%
	8. 衣類、家具等を長く使う	907	666	214	25	2
		100.0%	73.4%	23.6%	2.8%	0.2%
	9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	909	315	390	178	26
		100.0%	34.7%	42.9%	19.6%	2.9%
	10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	909	670	190	45	4
		100.0%	73.7%	20.9%	5.0%	0.4%
	11. 日頃から節電を実施する	909	342	476	86	5
		100.0%	37.6%	52.4%	9.5%	0.6%
	12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったか）という原因を考える	904	157	365	327	55
		100.0%	17.4%	40.4%	36.2%	6.1%
環境学習	13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する	905	107	187	388	223
		100.0%	11.8%	20.7%	42.9%	24.6%
	14. 積極的に徒歩や自転車を利用する	900	150	231	359	160
		100.0%	16.7%	25.7%	39.9%	17.8%
	15. シェアサイクルやカーシェアを活用する	897	11	37	217	632
		100.0%	1.2%	4.1%	24.2%	70.5%
	16. 燃費の良い運転をする	893	311	384	118	80
		100.0%	34.8%	43.0%	13.2%	9.0%
	17. テレワークを実施する	887	44	90	201	552
		100.0%	5.0%	10.1%	22.7%	62.2%
	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	893	14	104	344	431
		100.0%	1.6%	11.6%	38.5%	48.3%
その他	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	896	10	65	313	508
		100.0%	1.1%	7.3%	34.9%	56.7%
	20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	895	76	403	318	98
		100.0%	8.5%	45.0%	35.5%	10.9%
	21. 地域の環境美化活動に参加する	903	413	241	153	96
		100.0%	45.7%	26.7%	16.9%	10.6%
	22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する	898	385	254	134	125
		100.0%	42.9%	28.3%	14.9%	13.9%
	23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する	906	553	313	31	9
		100.0%	61.0%	34.5%	3.4%	1.0%



問 2 の結果概要

【ごみの分別や減量】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『7.エコバッグを持ち歩く』が 80.8%と最も高く、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』が 7.7%と最も低い結果となった。

【エネルギー】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『11.日頃から節電を実施する』が 37.6%と最も高く、『15.シェアサイクルやカーシェアを活用する』が 1.2%と最も低い結果となった。

【環境学習】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『20.ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す』が 8.5%と最も高く、『19.環境学習講座や自然観察会に参加する』が 1.1%と最も低い結果となった。

【その他】

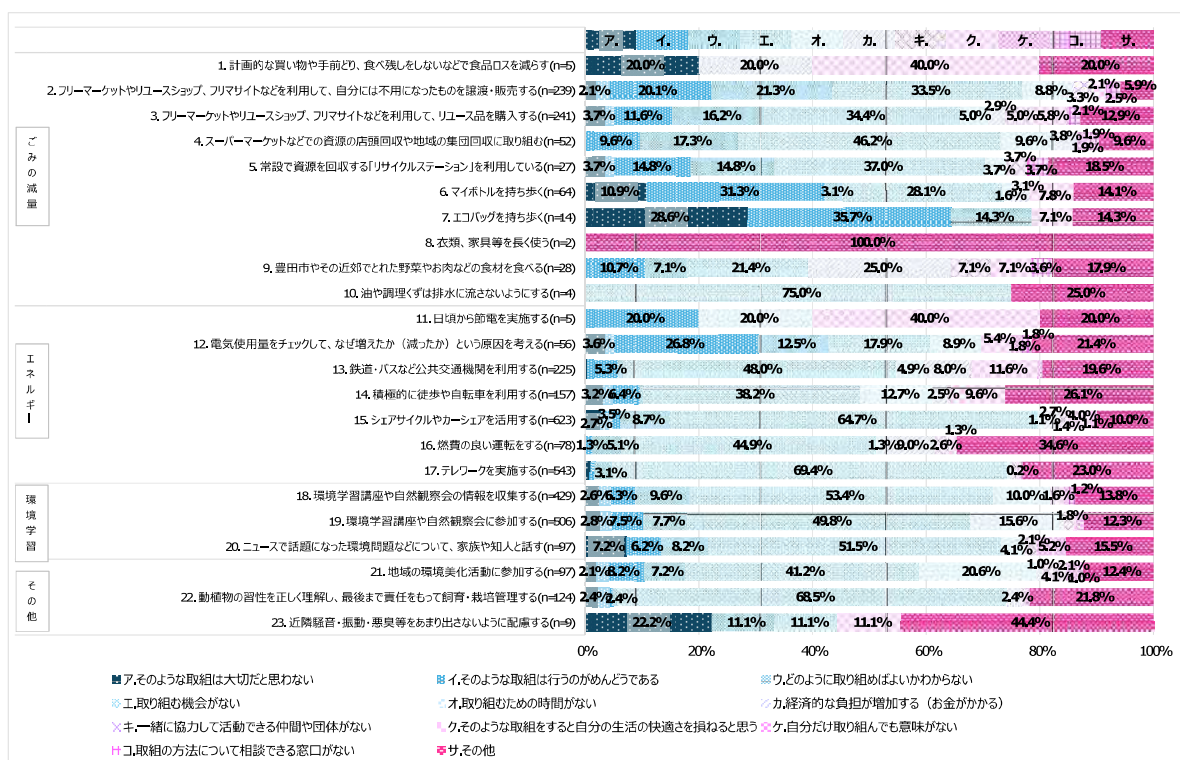
- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『23.近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する』が 61.0%と最も高く、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』が 42.9%と最も低い結果となった。

【全項目】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『7.エコバッグを持ち歩く』(80.9%)、『10.油や調理くずは排水に流さないようにする』(73.7%) が上位 2 項目となり、【ごみの分別や減量】は取組が浸透している結果となった。
- 「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値を項目ごとと比較すると、【ごみの分別や減量】、【その他】の項目はほとんど 70%以上であるが、【エネルギー】、【環境学習】の項目は 50%を下回る結果となった。

「4.まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由（一部複数回答含む）

上段:度数 下段: %		合計	そのような取組は大切なと思わない	そのような取組は行おうかあんなうである	どのように取組めばよいかわからない	取組む機会がない	取組むための時間がない	経済的な負担が増加する(お金がかかる)	一緒に協力して活動できる仲間や団体がない	そのような取組をするとう自分の生活の快適さを損ねると思う	自分だけ取組んでも意味がない	取組の方法について相談できる窓口がない	その他
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	5	1	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1
		100.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になつたものを譲渡・販売する	239	5	48	51	80	21	1	8	5	-	6	14
		100.0%	2.1%	20.1%	21.3%	33.5%	8.8%	0.4%	3.3%	2.1%	0.0%	2.5%	5.9%
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	241	9	28	39	83	12	7	12	14	1	5	31
		100.0%	3.7%	11.6%	16.2%	34.4%	5.0%	2.9%	5.0%	5.8%	0.4%	2.1%	12.9%
	4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	52	-	5	9	24	5	2	-	-	1	1	5
		100.0%	0.0%	9.6%	17.3%	46.2%	9.6%	3.8%	0.0%	0.0%	1.9%	1.9%	9.6%
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	27	1	4	4	10	1	-	1	-	-	1	5
		100.0%	3.7%	14.8%	14.8%	37.0%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	3.7%	18.5%
	6. マイボトルを持ち歩く	64	7	20	2	18	1	2	-	5	-	-	9
		100.0%	10.9%	31.3%	3.1%	28.1%	1.6%	3.1%	0.0%	7.8%	0.0%	0.0%	14.1%
	7. エコバッグを持ち歩く	14	4	5	2	-	-	-	-	1	-	-	2
		100.0%	28.6%	35.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%
	8. 衣類、家具等を長く使う	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	28	-	3	2	6	-	7	2	2	-	1	5
		100.0%	0.0%	10.7%	7.1%	21.4%	0.0%	25.0%	7.1%	7.1%	0.0%	3.6%	17.9%
	10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
エネルギー	11. 日頃から節電を実施する	5	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	1
		100.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったか）という原因を考える	56	2	15	7	10	5	-	-	3	1	1	12
		100.0%	3.6%	26.8%	12.5%	17.9%	8.9%	0.0%	0.0%	5.4%	1.8%	1.8%	21.4%
	13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する	225	1	12	2	108	11	18	1	26	1	1	44
		100.0%	0.4%	5.3%	0.9%	48.0%	4.9%	8.0%	0.4%	11.6%	0.4%	0.4%	19.6%
	14. 積極的に徒歩や自転車を利用する	157	5	10	1	60	20	4	1	15	-	-	41
		100.0%	3.2%	6.4%	0.6%	38.2%	12.7%	2.5%	0.6%	9.6%	0.0%	0.0%	26.1%
	15. シェアサイクルやカーシェアを活用する	623	17	22	54	403	7	17	9	25	-	7	62
		100.0%	2.7%	3.5%	8.7%	64.7%	1.1%	2.7%	1.4%	4.0%	0.0%	1.1%	10.0%
	16. 燃費の良い運転をする	78	-	1	4	35	1	7	2	1	-	-	27
		100.0%	0.0%	1.3%	5.1%	44.9%	1.3%	9.0%	2.6%	1.3%	0.0%	0.0%	34.6%
	17. テレワークを実施する	543	5	4	17	377	3	2	4	2	1	3	125
		100.0%	0.9%	0.7%	3.1%	69.4%	0.6%	0.4%	0.7%	0.4%	0.2%	0.6%	23.0%
環境学習	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	429	11	27	41	229	43	-	7	3	4	5	59
		100.0%	2.6%	6.3%	9.6%	53.4%	10.0%	0.0%	1.6%	0.7%	0.9%	1.2%	13.8%
	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	506	14	38	39	252	79	4	9	2	4	3	62
		100.0%	2.8%	7.5%	7.7%	49.8%	15.6%	0.8%	1.8%	0.4%	0.8%	0.6%	12.3%
	20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	97	7	6	8	50	4	-	2	-	5	-	15
		100.0%	7.2%	6.2%	8.2%	51.5%	4.1%	0.0%	2.1%	0.0%	5.2%	0.0%	15.5%
その他	21. 地域の環境美化活動に参加する	97	2	8	7	40	20	1	4	-	2	1	12
		100.0%	2.1%	8.2%	7.2%	41.2%	20.6%	1.0%	4.1%	0.0%	2.1%	1.0%	12.4%
	22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する	124	3	3	1	85	-	3	1	-	1	-	27
		100.0%	2.4%	2.4%	0.8%	68.5%	0.0%	2.4%	0.8%	0.0%	0.8%	0.0%	21.8%
	23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する	9	2	-	1	1	-	-	-	1	-	-	4
		100.0%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	44.4%



※1.0%未満の凡例はデータラベルを付けていない。

「4.まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由の概要

【ごみの分別や減量】

- 特に取組の進んでいない『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』はいずれも「エ.取組む機会がない」が30%以上となった。
- 2.のみ「イ.そのような取組は行うのがめんどろである」、「ウ.どのように取組めばよいかわからない」が20%以上、「オ.取組むための時間がない」が8.8%となった。一方、3.のみ「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」は5.8%となった。このことから、不用品の譲渡・販売は取組む機会の少なさのほかに時間や労力が取組障壁となっており、リユース品の購入は取組む機会の少なさのほかに生活の快適さを損ねるという認識が取組障壁となっていると示唆される。
- 『4.スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む』は「エ.取組む機会がない」が46.2%となった。
- 『6.マイボトルを持ち歩く』は「イ.そのような取組は行うのがめんどろである」が31.3%、「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」が7.8%となった。

【エネルギー】

- 『11.日頃から節電を実施する』以外のすべての項目において「エ.取組む機会がない」が15%以上となった。

- ・ 『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』、『14.積極的に徒歩や自転車を利用する』は「ク.そのような取組をすると自分の生活の快適さを損ねると思う」が10%程度となった。また、「カ.経済的な負担が増加する（お金がかかる）」が7.6%となった。
- ・ 特に取組が進んでいない『15.シェアサイクルやカーシェアを活用する』、『17.テレワークを実施する』は「エ.取り組む機会がない」が60%以上となっており、市民の生活に浸透していないことが示唆される。

【環境学習】

- ・ 特に取組が進んでいない『18.環境学習講座や自然観察会の情報を収集する』、『19.環境学習講座や自然観察会に参加する』は「エ.取り組む機会がない」が約半数、「イ.そのような取組は行わないのがめんどろである」、「ウ.どのように取り組めばよいかわからない」、「オ.取り組むための時間がない」が5%以上となった。

【その他】

- ・ 特に取組が進んでいない『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』、『23.近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する』はいずれも「エ.取り組む機会がない」が40%以上となった。

【全項目】

- ・ ほとんどの項目においても「エ.取り組む機会がない」の回答率が高かった。

気候変動について

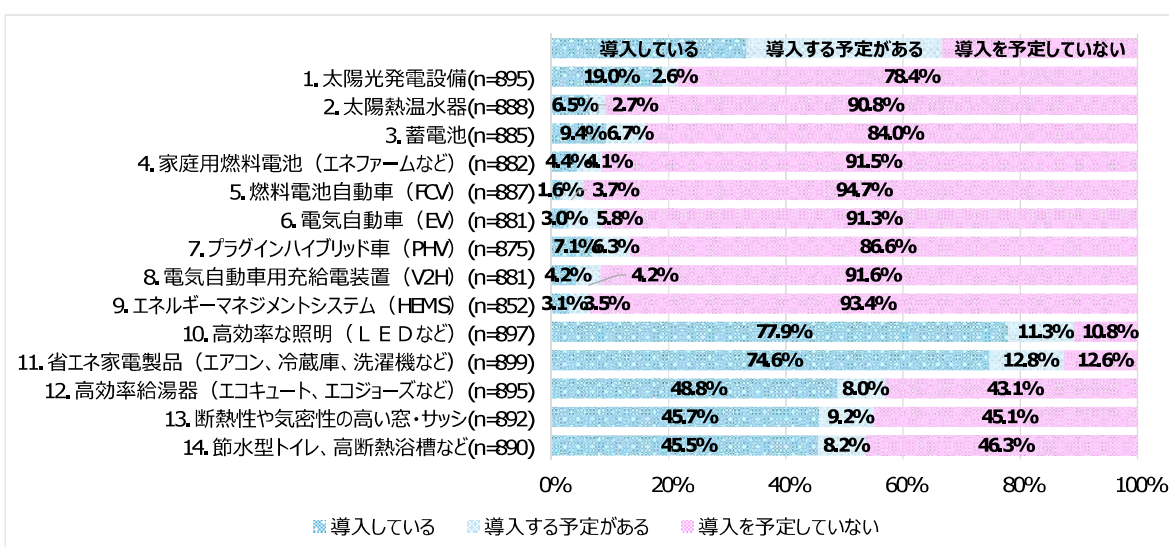
あなたのご家庭では、次のようなエネルギーに関連する機器類を導入していますか。

それぞれ 1 つずつ選んで○をつけてください。

【問 3】

また、「3.導入を予定していない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のA～ケから 1 つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない
1. 太陽光発電設備	895	170	23	702
	100.0%	19.0%	2.6%	78.4%
2. 太陽熱温水器	888	58	24	806
	100.0%	6.5%	2.7%	90.8%
3. 蓄電池	885	83	59	743
	100.0%	9.4%	6.7%	84.0%
4. 家庭用燃料電池（エネファームなど）	882	39	36	807
	100.0%	4.4%	4.1%	91.5%
5. 燃料電池自動車（FCV）	887	14	33	840
	100.0%	1.6%	3.7%	94.7%
6. 電気自動車（EV）	881	26	51	804
	100.0%	3.0%	5.8%	91.3%
7. プラグインハイブリッド車（PHV）	875	62	55	758
	100.0%	7.1%	6.3%	86.6%
8. 電気自動車用充電装置（V2H）	881	37	37	807
	100.0%	4.2%	4.2%	91.6%
9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）	852	26	30	796
	100.0%	3.1%	3.5%	93.4%
10. 高効率な照明（LEDなど）	897	699	101	97
	100.0%	77.9%	11.3%	10.8%
11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）	899	671	115	113
	100.0%	74.6%	12.8%	12.6%
12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）	895	437	72	386
	100.0%	48.8%	8.0%	43.1%
13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ	892	408	82	402
	100.0%	45.7%	9.2%	45.1%
14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など	890	405	73	412
	100.0%	45.5%	8.2%	46.3%

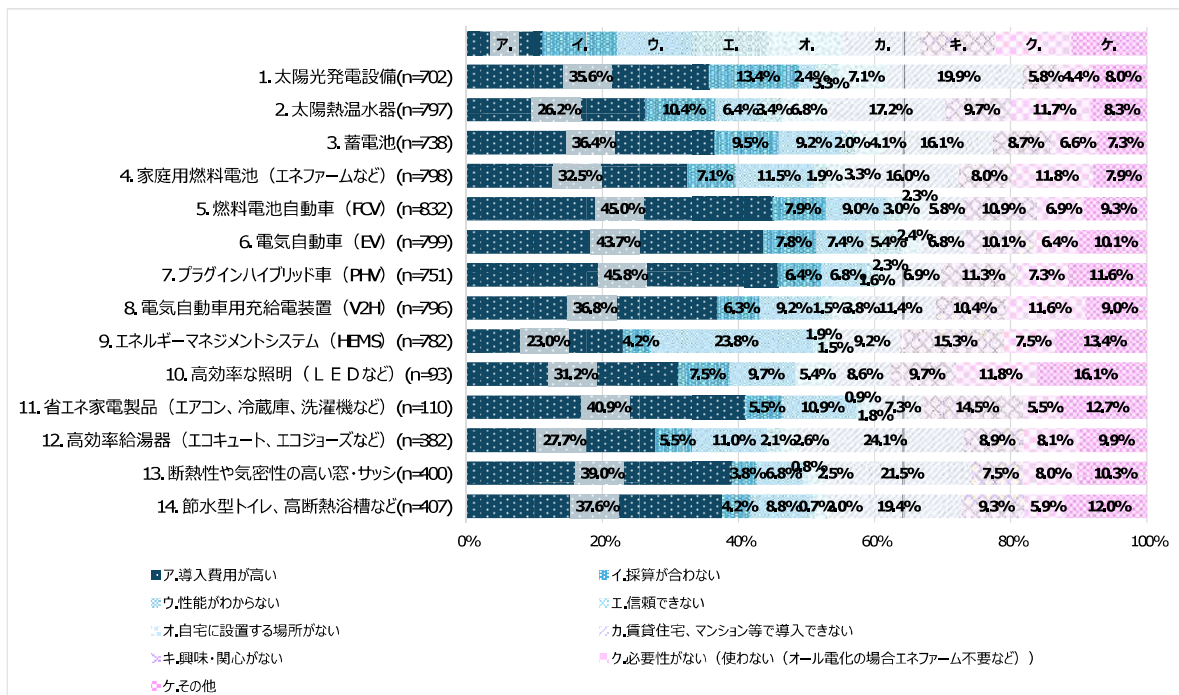


問3の結果概要

- ・ 「10.高効率な照明（LED など）」と「11.省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）」の導入率が70%以上、「12.高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）」、「13.断熱性や気密性の高い窓・サッシ」、「14.節水型トイレ、高断熱浴槽など」は導入率が40%以上と高い結果となった。
- ・ 一方、「1.太陽光発電設備」から「9.エネルギーマネジメントシステム（HEMS）」までの項目は『導入を予定していない』が70%以上となった。
- ・ いずれの項目も『導入する予定がある』は15%未満となっている。

「3.導入を予定していない」を回答した場合の理由（一部複数回答含む）

上段:度数 下段: %	合計	導入費用が高い	採算が合わない	性能がわからない	信頼できない	自宅に設置する場所がない	賃貸住宅、マンション等で導入できない	興味・関心がない	必要性がない（使わない（オール電化の場合エネファーム不要など））	その他
1. 太陽光発電設備	702	250	94	17	23	50	140	41	31	56
	100.0%	35.6%	13.4%	2.4%	3.3%	7.1%	19.9%	5.8%	4.4%	8.0%
2. 太陽熱温水器	797	209	83	51	27	54	137	77	93	66
	100.0%	26.2%	10.4%	6.4%	3.4%	6.8%	17.2%	9.7%	11.7%	8.3%
3. 蓄電池	738	269	70	68	15	30	119	64	49	54
	100.0%	36.4%	9.5%	9.2%	2.0%	4.1%	16.1%	8.7%	6.6%	7.3%
4. 家庭用燃料電池（エネファームなど）	798	259	57	92	15	26	128	64	94	63
	100.0%	32.5%	7.1%	11.5%	1.9%	3.3%	16.0%	8.0%	11.8%	7.9%
5. 燃料電池自動車（FCV）	832	374	66	75	25	19	48	91	57	77
	100.0%	45.0%	7.9%	9.0%	3.0%	2.3%	5.8%	10.9%	6.9%	9.3%
6. 電気自動車（EV）	799	349	62	59	43	19	54	81	51	81
	100.0%	43.7%	7.8%	7.4%	5.4%	2.4%	6.8%	10.1%	6.4%	10.1%
7. プラグインハイブリッド車（PHV）	751	344	48	51	12	17	52	85	55	87
	100.0%	45.8%	6.4%	6.8%	1.6%	2.3%	6.9%	11.3%	7.3%	11.6%
8. 電気自動車用充電装置（V2H）	796	293	50	73	12	30	91	83	92	72
	100.0%	36.8%	6.3%	9.2%	1.5%	3.8%	11.4%	10.4%	11.6%	9.0%
9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）	782	180	33	186	15	12	72	120	59	105
	100.0%	23.0%	4.2%	23.8%	1.9%	1.5%	9.2%	15.3%	7.5%	13.4%
10. 高効率な照明（LED など）	93	29	7	9	0	5	8	9	11	15
	100.0%	31.2%	7.5%	9.7%	0.0%	5.4%	8.6%	9.7%	11.8%	16.1%
11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）	110	45	6	12	1	2	8	16	6	14
	100.0%	40.9%	5.5%	10.9%	0.9%	1.8%	7.3%	14.5%	5.5%	12.7%
12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）	382	106	21	42	8	10	92	34	31	38
	100.0%	27.7%	5.5%	11.0%	2.1%	2.6%	24.1%	8.9%	8.1%	9.9%
13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ	400	156	15	27	3	10	86	30	32	41
	100.0%	39.0%	3.8%	6.8%	0.8%	2.5%	21.5%	7.5%	8.0%	10.3%
14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など	407	153	17	36	3	8	79	38	24	49
	100.0%	37.6%	4.2%	8.8%	0.7%	2.0%	19.4%	9.3%	5.9%	12.0%



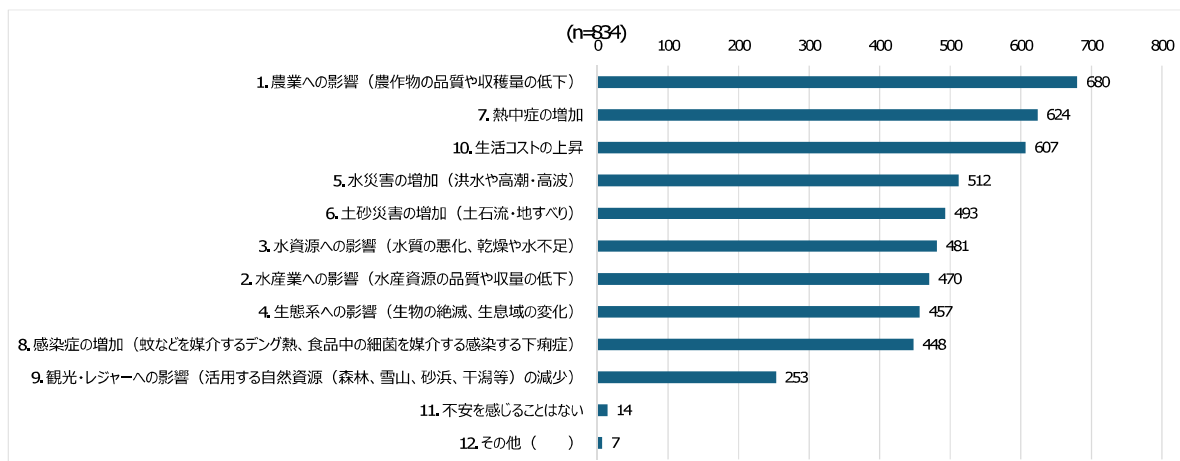
「3.導入を予定していない」を回答した場合の理由の概要

- いずれの項目も「ア.導入費用が高い」の回答が 20%以上と高く、経済的な理由が導入の障壁となっていることが示唆される。また、「カ.賃貸住宅、マンション等で導入できない」の回答率も 15%以上となる項目が複数あった。
- 『9.エネルギーマネジメントシステム（HEMS）』は「ウ.性能がわからない」が 23.8%と最も高い結果となった。

【問 4】 気候変動の影響で不安に感じることは何ですか。
 当てはまるものを全てに○をつけてください。

回答数の多い順に上から並べた。

	回答数	割合
1. 農業への影響（農作物の品質や収穫量の低下）	680	81.5%
7. 熱中症の増加	624	74.8%
10. 生活コストの上昇	607	72.8%
5. 水災害の増加（洪水や高潮・高波）	512	61.4%
6. 土砂災害の増加（土石流・地すべり）	493	59.1%
3. 水資源への影響（水質の悪化、乾燥や水不足）	481	57.7%
2. 水産業への影響（水産資源の品質や収量の低下）	470	56.4%
4. 生態系への影響（生物の絶滅、生息域の変化）	457	54.8%
8. 感染症の増加（蚊などを媒介するデング熱、食品中の細菌を媒介する感染する下痢症）	448	53.7%
9. 観光・レジャーへの影響（活用する自然資源（森林、雪山、砂浜、干潟等）の減少）	253	30.3%
11. 不安を感じることはない	14	1.7%
12. その他（ ）	7	0.8%



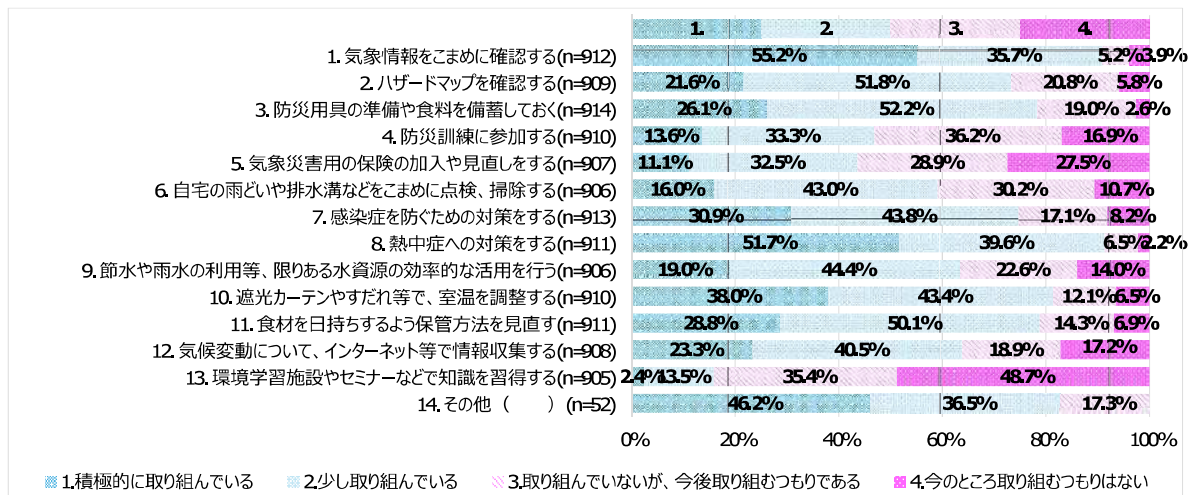
問 4 の結果概要

- 『1. 農業への影響（農作物の品質や収穫量の低下）』が最も多く不安を感じられており、次いで『7. 熱中症の増加』、『10. 生活コストの上昇』の回答が多い。
- 一方、『9. 観光・レジャーへの影響（活用する自然資源（森林、雪山、砂浜、干潟等）の減少）』や『8. 感染症の増加（蚊などを媒介するデング熱、食品中の細菌を媒介する感染する下痢症）』の回答は少ない。

【問 5】

気候変動が及ぼす影響に対して、日頃から取り組んでいることは何ですか。
それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. 気象情報をこまめに確認する	912 100.0%	503 55.2%	326 35.7%	47 5.2%	36 3.9%
2. ハザードマップを確認する	909 100.0%	196 21.6%	471 51.8%	189 20.8%	53 5.8%
3. 防災用具の準備や食料を備蓄しておく	914 100.0%	239 26.1%	477 52.2%	174 19.0%	24 2.6%
4. 防災訓練に参加する	910 100.0%	124 13.6%	303 33.3%	329 36.2%	154 16.9%
5. 気象災害用の保険の加入や見直しをする	907 100.0%	101 11.1%	295 32.5%	262 28.9%	249 27.5%
6. 自宅の雨どいや排水溝などをこまめに点検、掃除する	906 100.0%	145 16.0%	390 43.0%	274 30.2%	97 10.7%
7. 感染症を防ぐための対策をする	913 100.0%	282 30.9%	400 43.8%	156 17.1%	75 8.2%
8. 熱中症への対策をする	911 100.0%	471 51.7%	361 39.6%	59 6.5%	20 2.2%
9. 節水や雨水の利用等、限りある水資源の効率的な活用を行う	906 100.0%	172 19.0%	402 44.4%	205 22.6%	127 14.0%
10. 遮光カーテンやすだれ等で、室温を調整する	910 100.0%	346 38.0%	395 43.4%	110 12.1%	59 6.5%
11. 食材を日持ちするよう保管方法を見直す	911 100.0%	262 28.8%	456 50.1%	130 14.3%	63 6.9%
12. 気候変動について、インターネット等で情報収集する	908 100.0%	212 23.3%	368 40.5%	172 18.9%	156 17.2%
13. 環境学習施設やセミナーなどで知識を習得する	905 100.0%	22 2.4%	122 13.5%	320 35.4%	441 48.7%
14. その他 ()	52 100.0%	24 46.2%	19 36.5%	9 17.3%	- 0.0%



問 5 の結果概要

- 「1.積極的に取り組んでいる」割合は『1.気象情報をこまめに確認する』、『8.熱中症への対策をする』の2項目は50%以上となった。
- さらに、『1.気象情報をこまめに確認する』、『8.熱中症への対策をする』は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値が90%以上となっており、取組が浸透していることが示唆される。
- 一方、『4.防災訓練に参加する』、『5.気象災害用の保険の加入や見直しをする』、『13.環境学習施設やセミナーなどで知識を習得する』が50%未満となり、時間や労力が障壁であることが示唆される。

生物多様性について

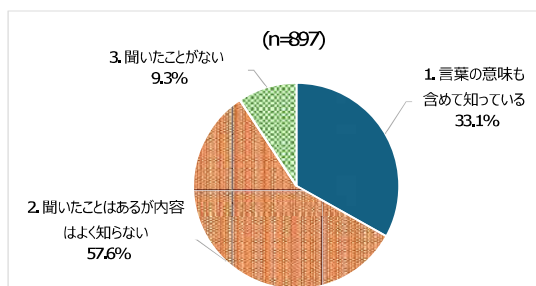
「生物多様性」※という言葉を知っていますか。

当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

【問 6】

※生物多様性：いろいろな生き物がいること、生き物が複雑に関わりあって様々な環境に合わせて生活していること。

	合計	割合
1. 言葉の意味も含めて知っている	297	33.1%
2. 聞いたことはあるが内容はよく知らない	517	57.6%
3. 聞いたことがない	83	9.3%
有効回答数	897	



問 6 の結果概要

- 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は 33.1%となった。

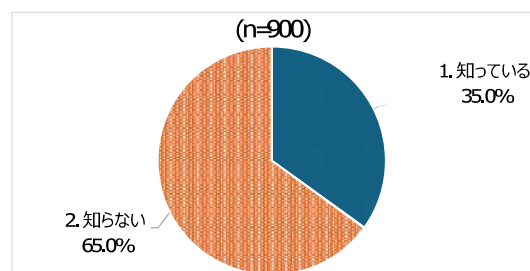
希少野生動植物種※が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。

当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

【問 7】

※希少野生動植物種：気候変動や人間による開発行為の影響で生息・生育環境が悪化し、絶滅の危機にさらされている生き物のこと。豊田市に生息・生育しているのは、ウシモツゴ、カワバタモロコ、シデコブシ、ギフチョウなど。

	合計	割合
1. 知っている	315	35.0%
2. 知らない	585	65.0%
有効回答数	900	



問 7 の結果概要

- 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は 35.0%となった。

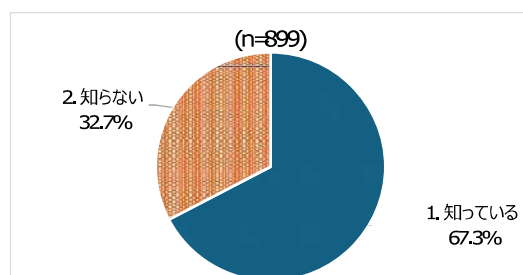
特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。

当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

【問 8】

※特定外来生物：外国やその他の地域からやってきた生き物のうち、生態系等へ被害を及ぼす恐れがある生き物として、環境省が指定しているもの。豊田市に生息・生育しているのは、アライグマ、アカミミガメ、オオクチバス、セアカゴケグモ、オオキンケイギクなど。

	合計	割合
1. 知っている	605	67.3%
2. 知らない	294	32.7%
有効回答数	899	



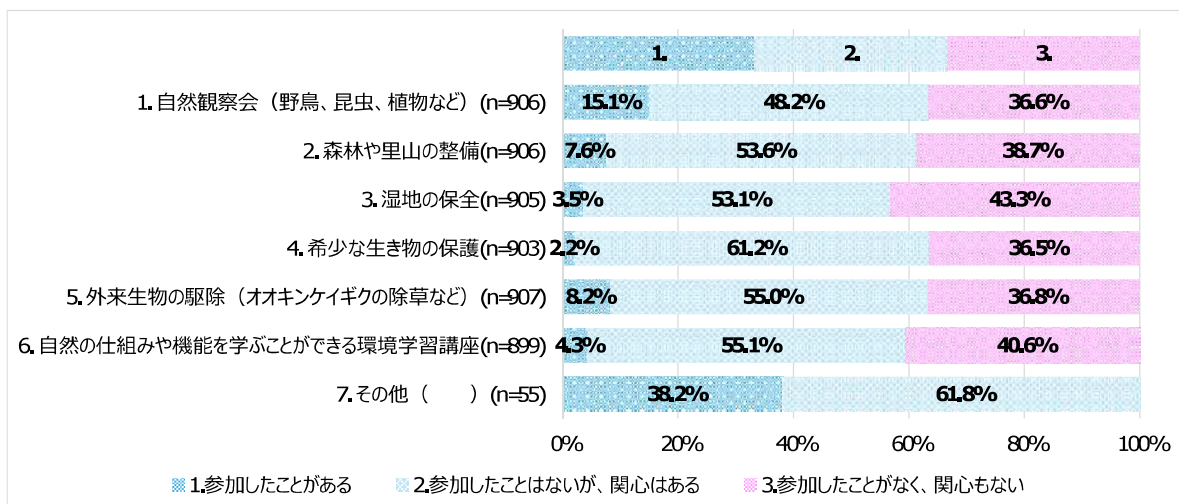
問 8 の結果概要

- 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は 67.3%となった。

【問 9】

生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことがありますか。
それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	参加したことがある	参加したことはないが、関心はある	参加したことがなく、関心もない
1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	906	137	437	332
	100.0%	15.1%	48.2%	36.6%
2. 森林や里山の整備	906	69	486	351
	100.0%	7.6%	53.6%	38.7%
3. 湿地の保全	905	32	481	392
	100.0%	3.5%	53.1%	43.3%
4. 希少な生き物の保護	903	20	553	330
	100.0%	2.2%	61.2%	36.5%
5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	907	74	499	334
	100.0%	8.2%	55.0%	36.8%
6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	899	39	495	365
	100.0%	4.3%	55.1%	40.6%
7. その他（ ）	55	21	34	-
	100.0%	38.2%	61.8%	0.0%



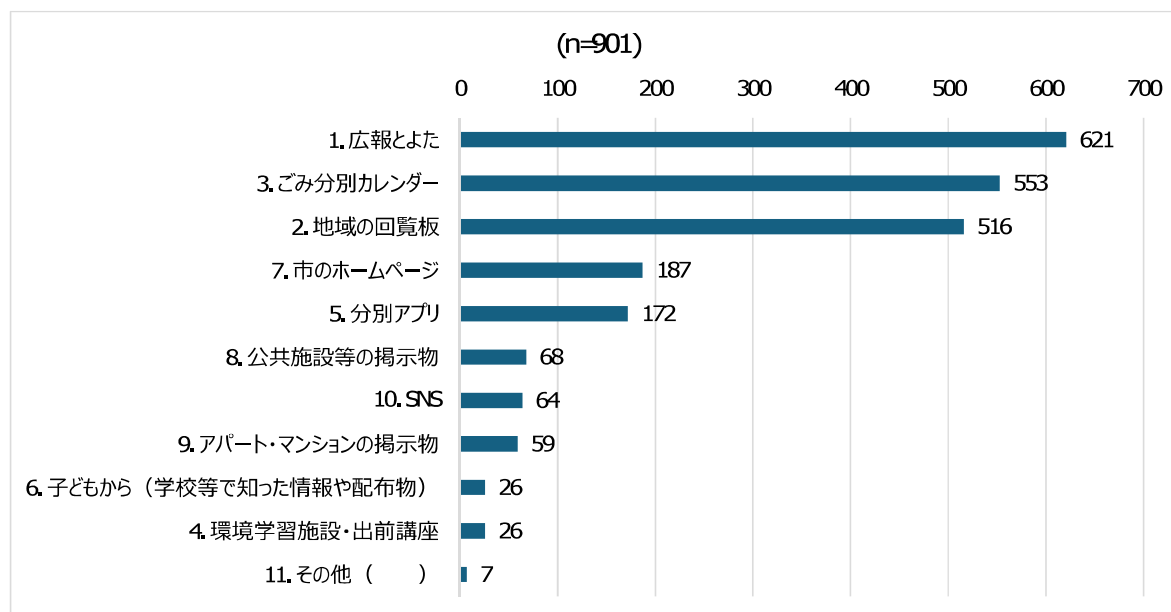
問 9 の結果概要

- ・ 「1.自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）」のみが10%以上となった。
- ・ 関心はありと回答した割合は概ね50%以上となっている。

資源循環について

- 【問 10】 ごみに関する市からの情報について、どのような方法で入手したいと思いますか。
当てはまるもの全てに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 広報とよた	621	68.9%
3. ごみ分別カレンダー	553	61.4%
2. 地域の回覧板	516	57.3%
7. 市のホームページ	187	20.8%
5. 分別アプリ	172	19.1%
8. 公共施設等の掲示物	68	7.5%
10. SNS	64	7.1%
9. アパート・マンションの掲示物	59	6.5%
6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）	26	2.9%
4. 環境学習施設・出前講座	26	2.9%
11. その他（ ）	7	0.8%
合計	2,299	
有効回答数	901	

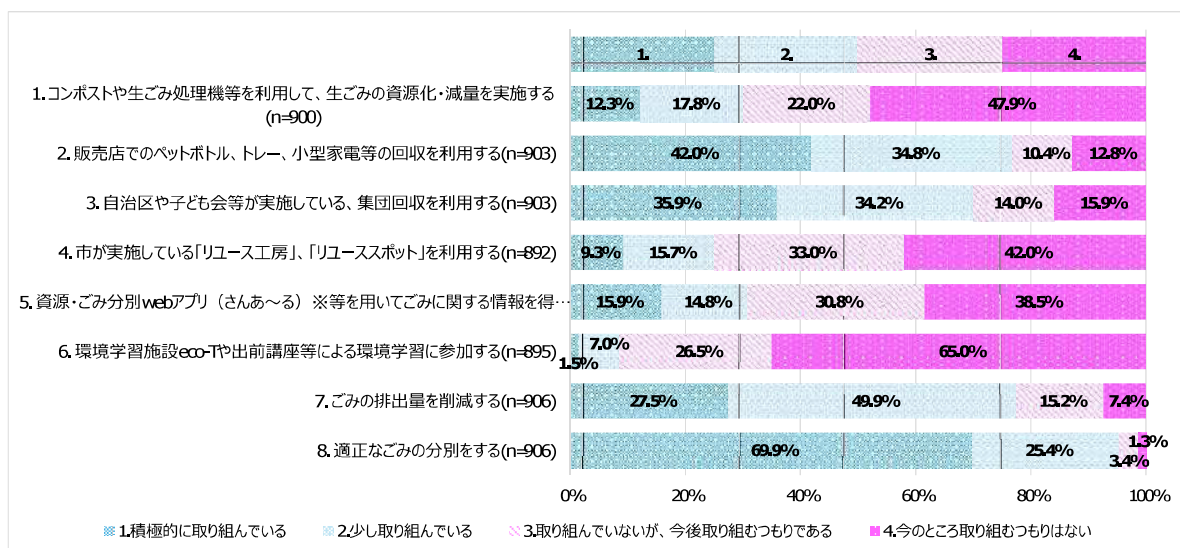


問 10 の結果概要

- 『1.広報とよた』、『3.ごみ分別カレンダー』、『2.地域の回覧板』の回答数が多くっており、回答者数の半数以上がこれらの方法を希望する結果となった。
- 一方、『8.公共施設等の掲示物』、『10.SNS』、『9.アパート・マンションの掲示物』、『6.子どもから（学校等で知った情報や配布物）』、『4.環境学習施設・出前講座』が10%未満となった。

- 【問 11】 ごみの減量・資源化に関する取組で日頃から取り組んでいることは何ですか。
それぞれの取組について、当てはまる取組状況を 1 つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する	900	111	160	198	431
	100.0%	12.3%	17.8%	22.0%	47.9%
2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する	903	379	314	94	116
	100.0%	42.0%	34.8%	10.4%	12.8%
3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する	903	324	309	126	144
	100.0%	35.9%	34.2%	14.0%	15.9%
4. 市が実施している「リユース工房」、「リユーススポット」を利用する	892	83	140	294	375
	100.0%	9.3%	15.7%	33.0%	42.0%
5. 資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜る）※等を用いてごみに関する情報を得る	893	142	132	275	344
	100.0%	15.9%	14.8%	30.8%	38.5%
6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する	895	13	63	237	582
	100.0%	1.5%	7.0%	26.5%	65.0%
7. ごみの排出量を削減する	906	249	452	138	67
	100.0%	27.5%	49.9%	15.2%	7.4%
8. 適正なごみの分別をする	906	633	230	31	12
	100.0%	69.9%	25.4%	3.4%	1.3%



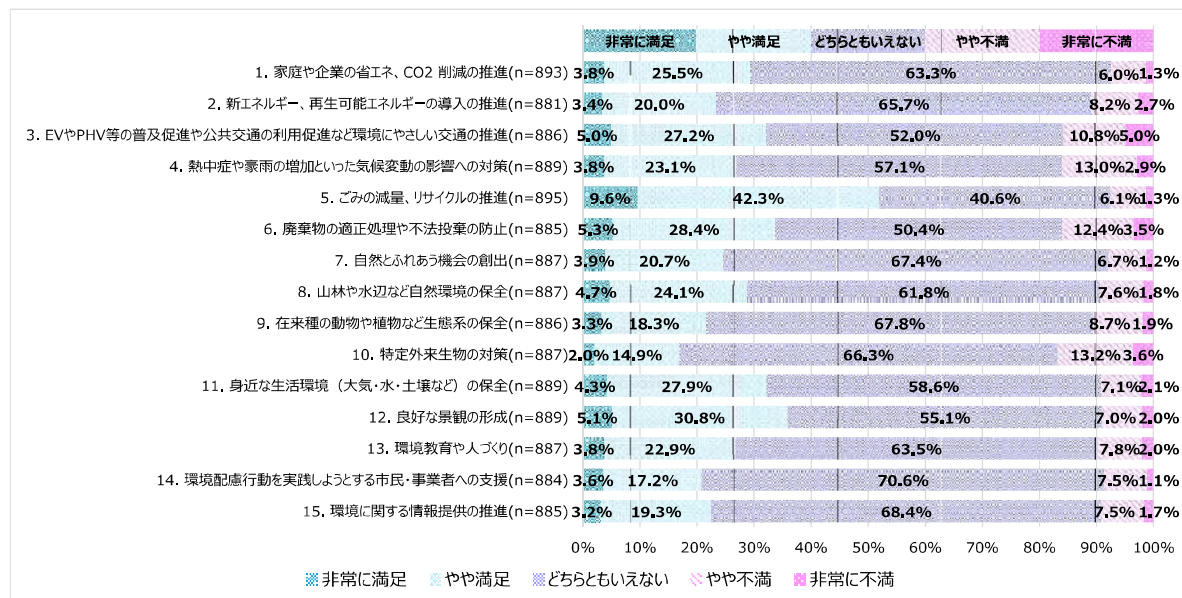
問 11 の結果概要

- 「1.積極的に取り組んでいる」と回答が多い項目は『8.適正なごみの分別をする』が 69.9%と最も高く、次いで『2.販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する』が 42.0%となった。「2.少し取り組んでいる」と合わせた回答率については『7.ごみの排出量を削減する』が 8.に次いで高く 77.4%となった。
- 一方、「4.今のところ取り組むつもりはない」と回答が多い項目は『6.環境学習施設 eco-T や出前講座等による環境学習に参加する』が 65.0%、『1.コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する』が 47.9%となった。

市の環境への取組について

【問 12】 市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思いますか。満足度、重要度について、当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

【満足度】上段:度数 下段: %	合計	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	893	34	228	565	54	12
	100.0%	3.8%	25.5%	63.3%	6.0%	1.3%
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	881	30	176	579	72	24
	100.0%	3.4%	20.0%	65.7%	8.2%	2.7%
3. EV やPHV 等の普及促進や公共交通の利用促進	886	44	241	461	96	44
	100.0%	5.0%	27.2%	52.0%	10.8%	5.0%
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への	889	34	205	508	116	26
	100.0%	3.8%	23.1%	57.1%	13.0%	2.9%
5. ごみの減量、リサイクルの推進	895	86	379	363	55	12
	100.0%	9.6%	42.3%	40.6%	6.1%	1.3%
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	885	47	251	446	110	31
	100.0%	5.3%	28.4%	50.4%	12.4%	3.5%
7. 自然とふれあう機会の創出	887	35	184	598	59	11
	100.0%	3.9%	20.7%	67.4%	6.7%	1.2%
8. 山林や水辺など自然環境の保全	887	42	214	548	67	16
	100.0%	4.7%	24.1%	61.8%	7.6%	1.8%
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	886	29	162	601	77	17
	100.0%	3.3%	18.3%	67.8%	8.7%	1.9%
10. 特定外来生物の対策	887	18	132	588	117	32
	100.0%	2.0%	14.9%	66.3%	13.2%	3.6%
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	889	38	248	521	63	19
	100.0%	4.3%	27.9%	58.6%	7.1%	2.1%
12. 良好な景観の形成	889	45	274	490	62	18
	100.0%	5.1%	30.8%	55.1%	7.0%	2.0%
13. 環境教育や人づくり	887	34	203	563	69	18
	100.0%	3.8%	22.9%	63.5%	7.8%	2.0%
14. 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援	884	32	152	624	66	10
	100.0%	3.6%	17.2%	70.6%	7.5%	1.1%
15. 環境に関する情報提供の推進	885	28	171	605	66	15
	100.0%	3.2%	19.3%	68.4%	7.5%	1.7%



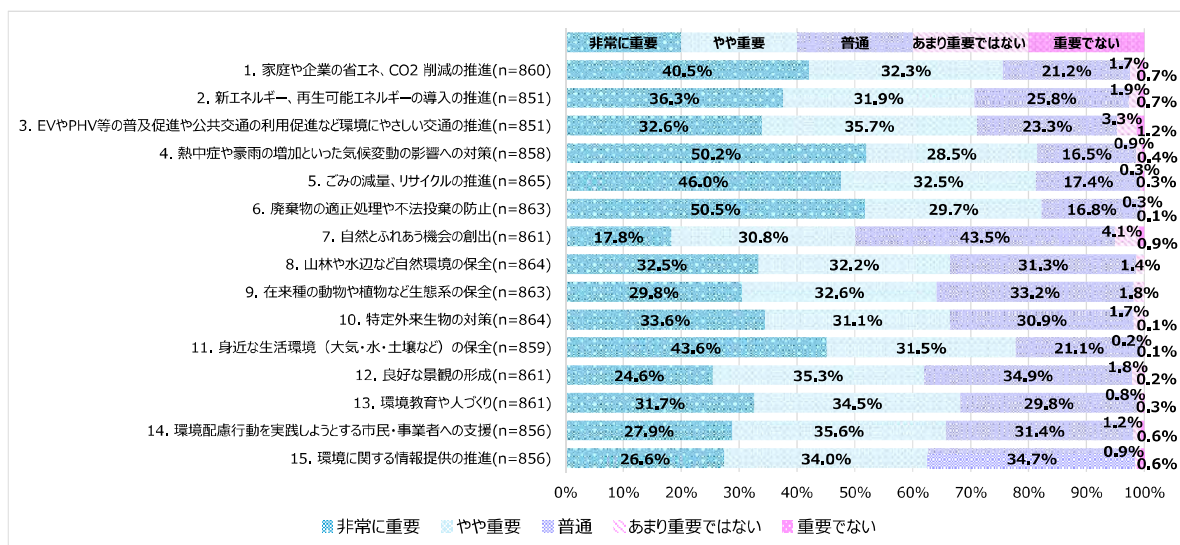
問 12【満足度】の結果概要

- 「1.非常に満足」の回答率が高い項目は『5.ごみの減量、リサイクルの推進』が9.6%となった。「1.非常に満足」または「2.やや満足」の回答率が高い項目は『5.ごみの減量、リサイクルの推進』が52.0%、『12.良好な景観の形成』が35.9%となった。

- 一方、「5.非常に不満」の回答率が高い項目は『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』で 5.0%となった。「5.非常に不満」または「4.やや不満」の回答率が高い項目は『10.特定外来生物の対策』が 16.8%、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が 15.9%となった。

【重要度】

【重要度】上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要ではない	重要でない
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	860	362	288	189	15	6
	100.0%	40.5%	32.3%	21.2%	1.7%	0.7%
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	851	320	281	227	17	6
	100.0%	36.3%	31.9%	25.8%	1.9%	0.7%
3. EV やPHV 等の普及促進や公共交通の利用促進	851	289	316	206	29	11
	100.0%	32.6%	35.7%	23.3%	3.3%	1.2%
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への	858	446	253	147	8	4
	100.0%	50.2%	28.5%	16.5%	0.9%	0.4%
5. ごみの減量、リサイクルの推進	865	412	291	156	3	3
	100.0%	46.0%	32.5%	17.4%	0.3%	0.3%
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	863	447	263	149	3	1
	100.0%	50.5%	29.7%	16.8%	0.3%	0.1%
7. 自然とふれあう機会の創出	861	158	273	386	36	8
	100.0%	17.8%	30.8%	43.5%	4.1%	0.9%
8. 山林や水辺など自然環境の保全	864	288	286	278	12	-
	100.0%	32.5%	32.2%	31.3%	1.4%	0.0%
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	863	264	289	294	16	-
	100.0%	29.8%	32.6%	33.2%	1.8%	0.0%
10. 特定外来生物の対策	864	298	276	274	15	1
	100.0%	33.6%	31.1%	30.9%	1.7%	0.1%
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	859	388	280	188	2	1
	100.0%	43.6%	31.5%	21.1%	0.2%	0.1%
12. 良好な景観の形成	861	219	314	310	16	2
	100.0%	24.6%	35.3%	34.9%	1.8%	0.2%
13. 環境教育や人づくり	861	281	306	264	7	3
	100.0%	31.7%	34.5%	29.8%	0.8%	0.3%
14. 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援	856	247	315	278	11	5
	100.0%	27.9%	35.6%	31.4%	1.2%	0.6%
15. 環境に関する情報提供の推進	856	235	301	307	8	5
	100.0%	26.6%	34.0%	34.7%	0.9%	0.6%



問 12【重要度】の結果概要

- 「1.非常に重要」の回答率は『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が 50.5%、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』が 50.2%となった。「1.非常に重要」または「2.やや重要」の回答率についても『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』が 80.2%、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』が 78.6%と上位となった。
- 一方、「5.重要でない」の回答率は『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』が 1.2%と最も高い結果となった。「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」の回答率が上位となった項目は『7.自然とふれあう機会の創出』で 5.0%、『3.EV や PHV 等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進』で 4.5%となった。

【満足度と重要度の関係】

各項目の満足度、重要度について、以下の計算式、配点により点数化した。

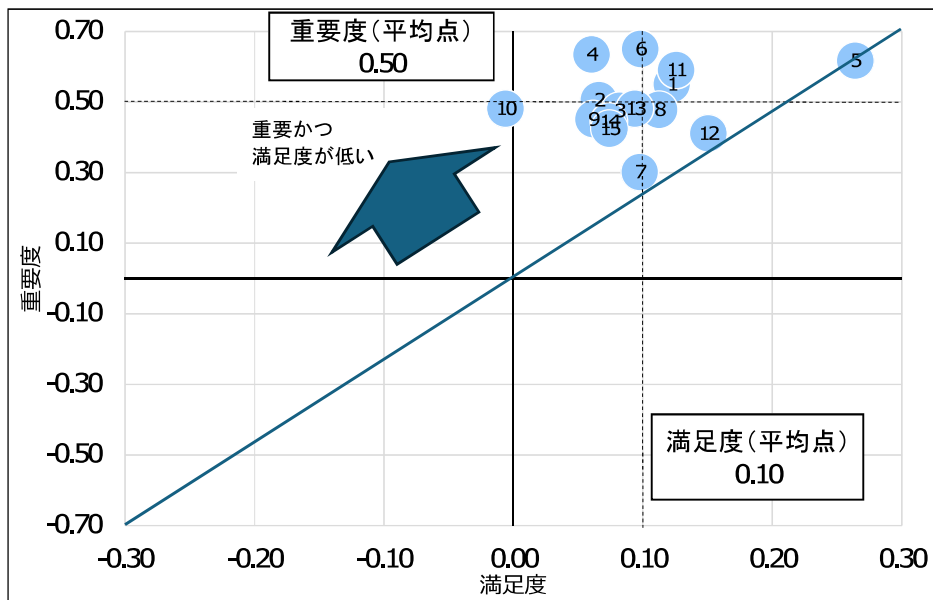
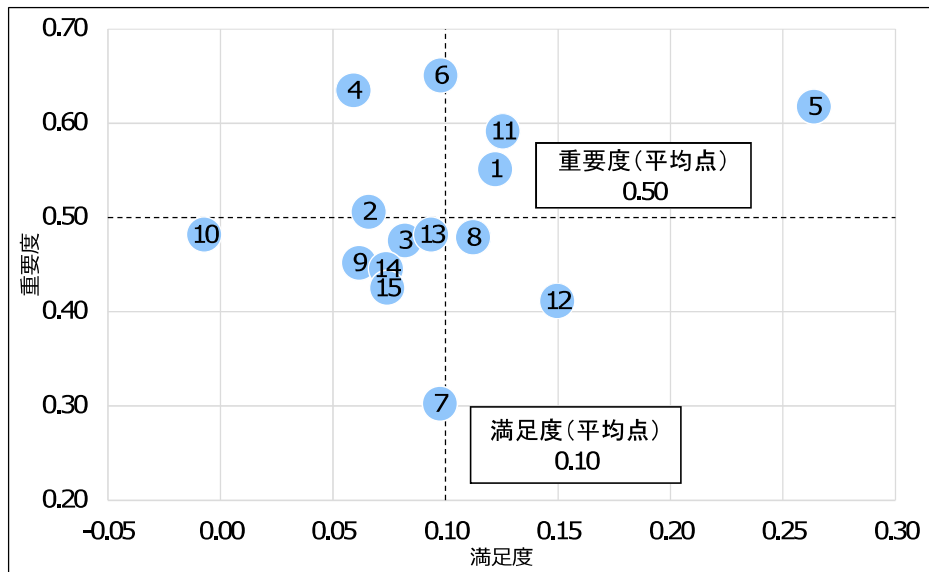
(計算式) 点数 = Σ (満足度・重要度の選択肢別回答率) × (満足度・重要度の選択肢別配点)

表 ポートフォリオ分析における選択肢別配点

満足度	満足	やや満足	どちらともいえない	満足	やや満足
重要度	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要ではない	重要でない
配点	1	0.5	0	-0.5	-1

青：満足度 < 0.10(満足度の平均値)、赤：重要度 > 0.50(重要度の平均値)

	満足度	重要度
1. 家庭や企業の省エネ、CO2 削減の推進	0.12	0.55
2. 新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進	0.07	0.51
3. EVやPHV等の普及促進や公共交通の利用促進など環境にやさしい交通の推進	0.08	0.48
4. 熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策	0.06	0.63
5. ごみの減量、リサイクルの推進	0.26	0.62
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	0.10	0.65
7. 自然とふれあう機会の創出	0.10	0.30
8. 山林や水辺など自然環境の保全	0.11	0.48
9. 在来種の動物や植物など生態系の保全	0.06	0.45
10. 特定外来生物の対策	-0.01	0.48
11. 身近な生活環境（大気・水・土壌など）の保全	0.13	0.59
12. 良好な景観の形成	0.15	0.41
13. 環境教育や人づくり	0.09	0.48
14. 環境配慮行動を実践しようとする市民・事業者への支援	0.07	0.45
15. 環境に関する情報提供の推進	0.07	0.43
	0.10	0.50



問 12 の結果概要

- 満足度が平均点以下、重要度が平均点以上となっている項目は『2.新エネルギー、再生可能エネルギーの導入の推進』（満足度：0.07、重要度：0.51）、『4.熱中症や豪雨の増加といった気候変動の影響への対策』（満足度：0.06、重要度：0.63）、『6.廃棄物の適正処理や不法投棄の防止』（満足度：0.10、重要度：0.65）の3つとなった。
- 『10.特定外来生物の対策』は重要度が0.48と平均点を下回っているが、満足度が-0.01と唯一0.0を下回っている。

【問 13】 その他、身の回りの環境について困っていることや良いと思っていることをご自由にお書きください。

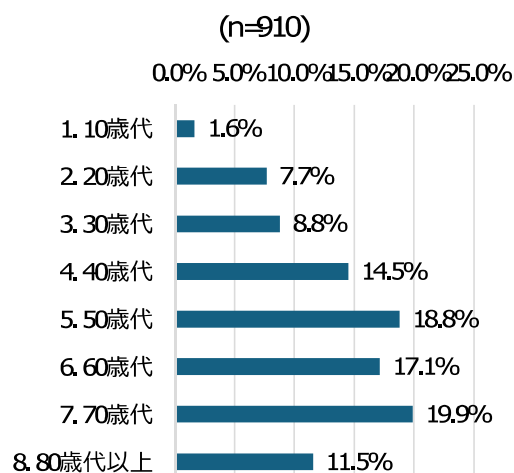
結果の抜粋（原文まま）

- ・ 陸の孤島状態の地域に在住、買い物にタクシー利用。公共交通手段の便を計られたい。
- ・ 近年、20～30年前と比較して、カラスが住宅周辺へ大量発生しています。人間と住み別けられない環境へ進んでいるのではないのでしょうか。
- ・ 美しい豊田を守る前に道路ゆきにすてられているゴミ（食べた後の弁当のからや飲みものの紙コップ、缶、ビンなどの不法投棄の対策）強化。私は毎日散歩してますがすてられた生活ゴミを見ると心が痛みます！心ない人に対して残念な気持ちになります。
- ・ リユーススポットとても良いです！安価にいつでも行けてすぐ購入できるのでリユース工房より使い勝手が良い。毎日開いているとありがたいです！
- ・ 山間地においては、住民の高齢化もあり、側溝のつまりや道路添いの草等の住民による整備が困難な状況にあります。
- ・ 各小中学校において環境についての授業を積極的に取り組んでいる。これが家庭へうまく伝わっていくこと、大人がもっと意識する手立てを！

ご自身について

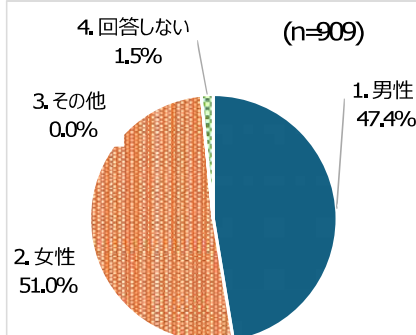
【問 14】 年齢について当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 10歳代	15	1.6%
2. 20歳代	70	7.7%
3. 30歳代	80	8.8%
4. 40歳代	132	14.5%
5. 50歳代	171	18.8%
6. 60歳代	156	17.1%
7. 70歳代	181	19.9%
8. 80歳代以上	105	11.5%
有効回答数	910	



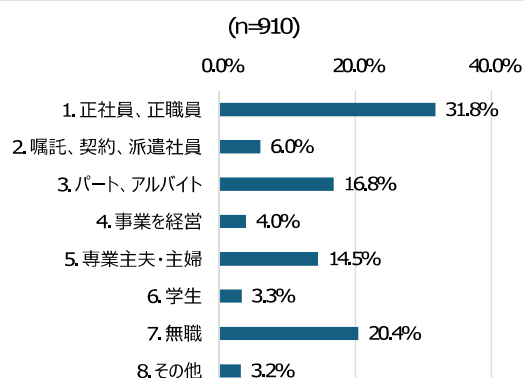
【問 15】 性別について当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	合計	割合
1. 男性	431	47.4%
2. 女性	464	51.0%
3. その他	0	0.0%
4. 回答しない	14	1.5%
有効回答数	909	

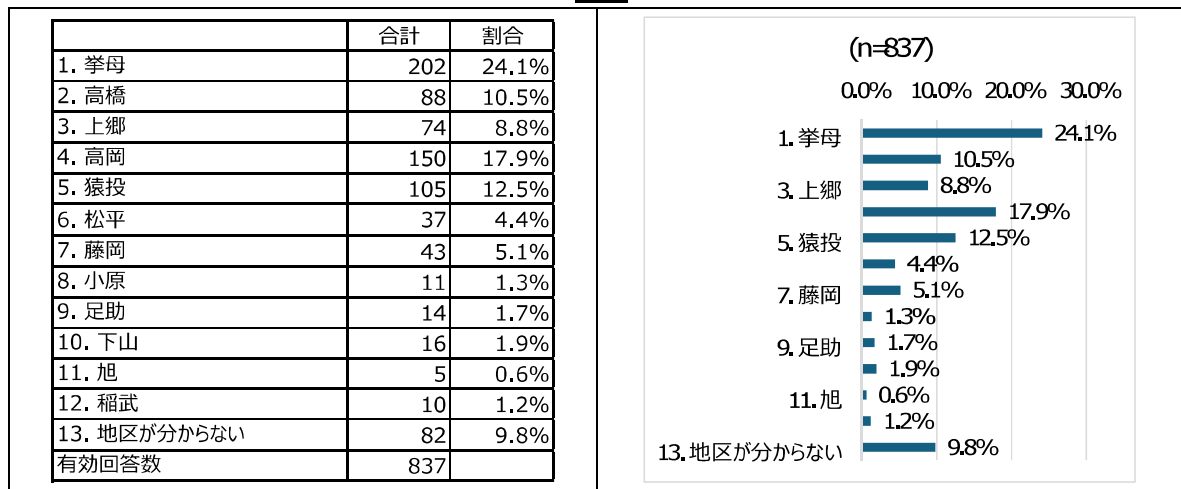


【問 16】 職業について当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

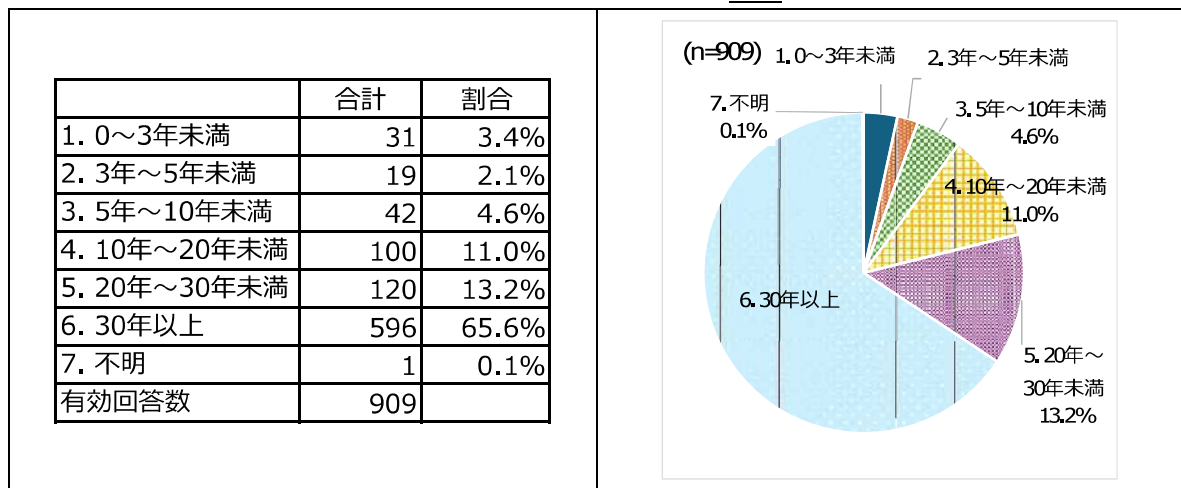
	合計	割合
1. 正社員、正職員	289	31.8%
2. 嘱託、契約、派遣社員	55	6.0%
3. パート、アルバイト	153	16.8%
4. 事業を経営	36	4.0%
5. 専業主夫・主婦	132	14.5%
6. 学生	30	3.3%
7. 無職	186	20.4%
8. その他	29	3.2%
有効回答数	910	



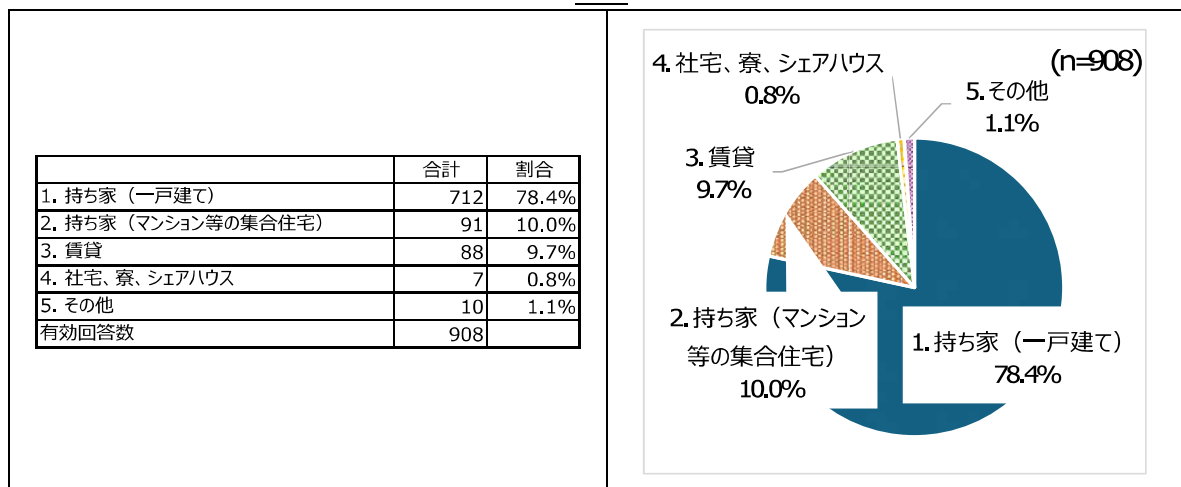
【問 17】 居住地区について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 18】 豊田市内での居住年数について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 19】 居住形態について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



2.3 詳細集計結果

2.3.1 クロス集計

以下にクロス集計結果を示す。

表 5 クロス集計一覧

No.	表頭	表側
1	問 1（周辺環境の満足度）	問 17（居住地区）
2	問 2（環境に配慮した行動の取組状況）	問 14（年齢）
3	問 3（エネルギー関連機器の導入状況）	問 19（居住形態）
4	問 4（気候変動の影響で不安に感じる事）	問 5（気候変動影響に対する取組状況）
5	問 6（生物多様性の認知度）	問 9（自然とふれ合う活動・イベントの参加状況）
6	問 10（ごみに関する情報入手方法）	問 14（年齢）
7	問 11（ごみに関する取組状況）	問 17（居住地区）
8	問 7（希少野生動物種の認知度）	問 9（自然とふれ合う活動・イベントの参加状況）
9	問 8（特定外来生物の認知度）	問 9（自然とふれ合う活動・イベントの参加状況）

(1) 居住地区と周辺環境の満足度の関係 (問1×問17のクロス集計)

結果概要

- 都市地域と山村地域における周辺環境の満足度の平均値を比較すると、『1.空気のきれいさ』、『2.河川や池などの水のきれいさ』、『3.静かさ(騒音や、振動の少なさ)』、『4.まちの清潔さ(ごみや、悪臭の少なさ)』、『5.生き物や自然の豊かさ』、『6.自然とふれあえる場の多さ』、『9.人とのふれあい』、『10.全体として周辺の環境への満足度』と10項目中8項目において都市地域よりも山村地域において満足度が高い結果となった。

			問1 周辺環境の満足度										
			全体	1. 空気のきれいさ		2. 河川や池などの水の きれいさ		3. 静かさ（騒音や、 振動の少なさ）		4. まちの清潔さ（ご みや、悪臭の少な さ）		5. 生き物や自然の 豊かさ	
				満足して いる	不満足で ある	満足して いる	不満足で ある	満足して いる	不満足で ある	満足して いる	不満足で ある	満足して いる	不満足で ある
問 1 7 居 住 地 区	都 市	1. 挙母	(n=202)	53.0%	47.0%	38.7%	61.3%	41.8%	58.2%	63.0%	37.0%	53.6%	46.4%
		2. 高橋	(n=88)	74.7%	25.3%	52.9%	47.1%	70.5%	29.5%	76.1%	23.9%	79.5%	20.5%
		3. 上郷	(n=74)	56.2%	43.8%	35.8%	64.2%	57.5%	42.5%	54.8%	45.2%	49.3%	50.7%
		4. 高岡	(n=150)	59.6%	40.4%	35.0%	65.0%	49.0%	51.0%	59.1%	40.9%	53.5%	46.5%
		5. 猿投	(n=105)	75.2%	24.8%	39.2%	60.8%	63.5%	36.5%	70.2%	29.8%	74.7%	25.3%
		6. 松平	(n=37)	83.8%	16.2%	55.6%	44.4%	75.7%	24.3%	81.1%	18.9%	77.8%	22.2%
		7. 藤岡	(n=43)	78.6%	21.4%	54.8%	45.2%	58.1%	41.9%	67.4%	32.6%	76.7%	23.3%
	山 村	8. 小原	(n=11)	100.0%	0.0%	81.8%	18.2%	90.9%	9.1%	90.9%	9.1%	72.7%	27.3%
		9. 足助	(n=14)	85.7%	14.3%	78.6%	21.4%	78.6%	21.4%	78.6%	21.4%	78.6%	21.4%
		10. 下山	(n=16)	93.8%	6.3%	53.3%	46.7%	93.8%	6.3%	87.5%	12.5%	100.0%	0.0%
		11. 旭	(n=5)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%
		12. 稲武	(n=10)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	90.0%	10.0%	70.0%	30.0%
		13. 地区が分からない	(n=82)	54.3%	45.7%	39.2%	60.8%	47.6%	52.4%	54.9%	45.1%	55.8%	44.2%

			問1 周辺環境の満足度										
			全体	6. 自然とふれあえる場の多さ		7. 公園・広場などの安らぎの場の多さ		8. 交通の便利さ		9. 人とのふれあい		10. 全体として周辺の環境への満足度	
				満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
問17 居住地区	都市	1. 挙母 (n=202)	44.3%	55.7%	45.4%	54.6%	34.7%	65.3%	35.8%	64.2%	54.8%	45.2%	
		2. 高橋 (n=88)	69.0%	31.0%	56.3%	43.7%	19.3%	80.7%	43.5%	56.5%	65.5%	34.5%	
		3. 上郷 (n=74)	39.4%	60.6%	40.8%	59.2%	26.0%	74.0%	39.1%	60.9%	47.9%	52.1%	
		4. 高岡 (n=150)	44.5%	55.5%	41.2%	58.8%	28.2%	71.8%	32.9%	67.1%	48.3%	51.7%	
		5. 猿投 (n=105)	63.0%	37.0%	42.7%	57.3%	42.3%	57.7%	43.4%	56.6%	65.4%	34.6%	
		6. 松平 (n=37)	70.3%	29.7%	35.1%	64.9%	5.4%	94.6%	20.0%	80.0%	62.2%	37.8%	
		7. 藤岡 (n=43)	74.4%	25.6%	50.0%	50.0%	12.2%	87.8%	37.2%	62.8%	48.8%	51.2%	
	山村	8. 小原 (n=11)	81.8%	18.2%	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%	63.6%	36.4%	81.8%	18.2%	
		9. 足助 (n=14)	71.4%	28.6%	27.3%	72.7%	14.3%	85.7%	35.7%	64.3%	57.1%	42.9%	
		10. 下山 (n=16)	81.3%	18.8%	12.5%	87.5%	18.8%	81.3%	50.0%	50.0%	62.5%	37.5%	
		11. 旭 (n=5)	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	20.0%	80.0%	100.0%	0.0%	80.0%	20.0%	
		12. 稲武 (n=10)	70.0%	30.0%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	70.0%	30.0%	
		13. 地区が分らない (n=82)	51.3%	48.7%	47.4%	52.6%	29.3%	70.7%	39.5%	60.5%	56.3%	43.8%	

凡例 満足している：「1.非常に満足」または「2.やや満足」

不満である：「3.どちらともいえない」、「4.やや不満」または「5.非常に不満」 * 「6.わからない」「無回答」を除く

(2) 年齢と環境に配慮した行動の取組状況の関係 (問2×問14のクロス集計)

結果概要

- 『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『9.豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる』、『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』、『16.燃費の良い運転をする』、『21.地域の環境美化活動に参加する』、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』において、取り組んでいる割合について最も取り組んでいる年代と最も取り組んでいない年代の差が30%以上という結果となった。
- このうち、30歳代以下の年代において最も取り組まれている項目は『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『13.鉄道・バスなど公共交通機関を利用する』であり、40歳代から60歳代で最も取り組まれる項目は『16.燃費の良い運転をする』、70歳代以上の年代において最も取り組まれる項目は『9.豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる』、『21.地域の環境美化活動に参加する』、『22.動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する』という結果となった。

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
		1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす		2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する		3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する		4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む		5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問14 年齢	1. 10歳代 (n=15)	86.7%	13.3%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%
	2. 20歳代 (n=70)	91.4%	8.6%	47.1%	52.9%	51.4%	48.6%	71.4%	28.6%	87.1%	12.9%
	3. 30歳代 (n=80)	88.6%	11.4%	50.6%	49.4%	48.1%	51.9%	78.5%	21.5%	91.0%	9.0%
	4. 40歳代 (n=132)	91.7%	8.3%	50.0%	50.0%	50.8%	49.2%	83.3%	16.7%	92.4%	7.6%
	5. 50歳代 (n=171)	90.6%	9.4%	39.2%	60.8%	36.3%	63.7%	85.2%	14.8%	91.8%	8.2%
	6. 60歳代 (n=156)	88.9%	11.1%	34.8%	65.2%	34.4%	65.6%	78.6%	21.4%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	91.6%	8.4%	21.5%	78.5%	21.7%	78.3%	76.8%	23.2%	86.0%	14.0%
	8. 80歳代以上 (n=105)	91.3%	8.7%	15.8%	84.2%	19.2%	80.8%	73.3%	26.7%	82.7%	17.3%

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
		6. マイボトルを持ち歩く		7. エコバッグを持ち歩く		8. 衣類、家具等を長く使う		9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる		10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問14 年齢	1. 10歳代 (n=15)	66.7%	33.3%	93.3%	6.7%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	93.3%	6.7%
	2. 20歳代 (n=70)	74.3%	25.7%	88.6%	11.4%	95.7%	4.3%	57.1%	42.9%	94.2%	5.8%
	3. 30歳代 (n=80)	74.7%	25.3%	94.9%	5.1%	96.2%	3.8%	73.4%	26.6%	92.4%	7.6%
	4. 40歳代 (n=132)	81.8%	18.2%	93.2%	6.8%	96.2%	3.8%	72.0%	28.0%	91.7%	8.3%
	5. 50歳代 (n=171)	73.7%	26.3%	97.1%	2.9%	97.7%	2.3%	78.9%	21.1%	95.3%	4.7%
	6. 60歳代 (n=156)	78.7%	21.3%	94.2%	5.8%	98.7%	1.3%	78.7%	21.3%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	76.0%	24.0%	95.5%	4.5%	96.0%	4.0%	85.3%	14.7%	96.1%	3.9%
	8. 80歳代以上 (n=105)	83.3%	16.7%	93.2%	6.8%	97.1%	2.9%	88.5%	11.5%	95.2%	4.8%

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」、「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

		問2 環境に配慮した行動の取組状況																		
		エネルギー																		
		全体		11. 日頃から節電を実施する		12. 電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったか）という原因を考える		13. 鉄道・バスなど公共交通機関を利用する		14. 積極的に徒歩や自転車を利用する		15. シェアサイクルやカーシェアを活用する		16. 燃費の良い運転をする		17. テレワークを実施する				
問1 4 年 齢	取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない	
	1. 10歳代	(n=15)	86.7%	13.3%	46.7%	53.3%	80.0%	20.0%	60.0%	40.0%	6.7%	93.3%	46.7%	53.3%	26.7%	73.3%				
	2. 20歳代	(n=70)	81.4%	18.6%	41.4%	58.6%	52.9%	47.1%	41.4%	58.6%	10.0%	90.0%	73.9%	26.1%	15.7%	84.3%				
	3. 30歳代	(n=80)	83.8%	16.3%	55.0%	45.0%	26.3%	73.8%	38.8%	61.3%	5.0%	95.0%	73.4%	26.6%	21.3%	78.8%				
	4. 40歳代	(n=132)	86.4%	13.6%	56.1%	43.9%	27.5%	72.5%	38.6%	61.4%	1.5%	98.5%	83.2%	16.8%	20.6%	79.4%				
	5. 50歳代	(n=171)	91.8%	8.2%	55.0%	45.0%	34.5%	65.5%	40.4%	59.6%	2.9%	97.1%	84.8%	15.2%	12.9%	87.1%				
	6. 60歳代	(n=156)	91.6%	8.4%	61.9%	38.1%	22.7%	77.3%	44.4%	55.6%	5.2%	94.8%	81.2%	18.8%	17.6%	82.4%				
	7. 70歳代	(n=181)	93.2%	6.8%	61.6%	38.4%	31.1%	68.9%	41.6%	58.4%	4.6%	95.4%	74.4%	25.6%	6.0%	94.0%				
年 齢	8. 80歳代以上	(n=105)	95.1%	4.9%	68.0%	32.0%	36.6%	63.4%	48.5%	51.5%	13.5%	86.5%	71.6%	28.4%	15.8%	84.2%				

		問2 環境に配慮した行動の取組状況													
		全体	環境学習				その他								
			18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する		19. 環境学習講座や自然観察会に参加する		20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す		21. 地域の環境美化活動に参加する		22. 動植物の習性を正しく理解し、最後まで責任をもって飼育・栽培管理する		23. 近隣騒音・振動・悪臭等をあまり出さないように配慮する		
			取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問1 4 年 齢	1. 10歳代	(n=15)	13.3%	86.7%	6.7%	93.3%	53.3%	46.7%	80.0%	20.0%	46.7%	53.3%	93.3%	6.7%	
	2. 20歳代	(n=70)	10.0%	90.0%	5.7%	94.3%	42.0%	58.0%	44.3%	55.7%	60.0%	40.0%	97.1%	2.9%	
	3. 30歳代	(n=80)	7.5%	92.5%	3.8%	96.3%	50.0%	50.0%	52.5%	47.5%	60.0%	40.0%	93.8%	6.3%	
	4. 40歳代	(n=132)	15.3%	84.7%	9.2%	90.8%	59.8%	40.2%	67.4%	32.6%	71.8%	28.2%	94.7%	5.3%	
	5. 50歳代	(n=171)	9.9%	90.1%	6.4%	93.6%	62.6%	37.4%	69.6%	30.4%	70.8%	29.2%	97.1%	2.9%	
	6. 60歳代	(n=156)	15.7%	84.3%	9.7%	90.3%	48.7%	51.3%	81.9%	18.1%	75.3%	24.7%	96.8%	3.2%	
	7. 70歳代	(n=181)	9.9%	90.1%	8.0%	92.0%	52.0%	48.0%	81.6%	18.4%	76.9%	23.1%	94.3%	5.7%	
	8. 80歳代以上	(n=105)	23.7%	76.3%	14.6%	85.4%	53.1%	46.9%	87.1%	12.9%	76.8%	23.2%	95.1%	4.9%	

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」
 取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」、「4.まったく取り組んでいない」 * 「無回答」を除く

(3) 居住形態とエネルギー関連機器の導入状況の関係（問3×問19のクロス集計）

結果概要

- エネルギー関連機器の導入している割合について、『12.高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）』、『13.断熱性や気密性の高い窓・サッシ』、『14.節水型トイレ、高断熱浴槽など』における導入比率は最も高い居住形態と最も低い居住形態での差が40%以上となり、いずれも『持ち家（一戸建て）』の居住形態において導入比率が最も高い結果となった。
- エネルギー関連機器の導入する予定がある割合については、ほとんどの項目において導入している割合が低い居住形態において高い傾向が示された。

		問3 エネルギー関連機器の導入状況														
		1. 太陽光発電設備			2. 太陽熱温水器			3. 蓄電池			4. 家庭用燃料電池（エネファームなど）			5. 燃料電池自動車（FCV）		
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない
問19 居住形態	持ち家（一戸建て） (n=712)	23.1%	2.7%	74.1%	8.0%	2.8%	89.3%	11.1%	7.0%	81.9%	5.6%	4.1%	90.4%	1.9%	3.8%	94.3%
	持ち家（マンション等の集合住宅） (n=91)	4.5%	1.1%	94.3%	1.1%	3.4%	95.5%	2.3%	6.8%	90.9%	0.0%	4.5%	95.5%	1.1%	5.7%	93.2%
	賃貸 (n=88)	2.3%	3.5%	94.2%	0.0%	2.3%	97.7%	4.7%	3.5%	91.9%	1.2%	3.5%	95.3%	0.0%	2.3%	97.7%
	社宅、寮、シェアハウス (n=7)	14.3%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他（ ） (n=10)	10.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%	100.0%

		問3 エネルギー関連機器の導入状況															
		6. 電気自動車（EV）			7. プラグインハイブリッド車（PHV）			8. 電気自動車用充電装置（V2H）			9. エネルギーマネジメントシステム（HEMS）			10. 高効率な照明（LEDなど）			
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	
問19 居住形態	持ち家（一戸建て）	(n=712)	2.9%	6.0%	91.1%	7.8%	7.2%	85.0%	5.1%	4.5%	90.3%	3.5%	3.2%	93.3%	79.3%	11.3%	9.3%
	持ち家（マンション等の集合住宅）	(n=91)	4.5%	8.0%	87.5%	7.0%	4.7%	88.4%	1.1%	3.4%	95.5%	2.3%	3.5%	94.2%	75.3%	11.2%	13.5%
	賃貸	(n=88)	0.0%	3.5%	96.5%	2.4%	2.4%	95.3%	1.2%	2.4%	96.5%	1.2%	6.0%	92.9%	69.8%	12.8%	17.4%
	社宅、寮、シェアハウス	(n=7)	14.3%	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	100.0%	85.7%	0.0%	14.3%
	その他（ ）	(n=10)	10.0%	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	11.1%	88.9%	80.0%	0.0%	20.0%

		問3 エネルギー関連機器の導入状況														
		11. 省エネ家電製品（エアコン、冷蔵庫、洗濯機など）			12. 高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズなど）			13. 断熱性や気密性の高い窓・サッシ			14. 節水型トイレ、高断熱浴槽など					
		導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない	導入している	導入する予定がある	導入を予定していない
問19 居住形態	持ち家（一戸建て）	(n=712)	76.5%	12.8%	10.7%	58.4%	7.2%	34.4%	52.3%	9.2%	38.5%	51.0%	8.6%	40.4%		
	持ち家（マンション等の集合住宅）	(n=91)	77.8%	15.6%	6.7%	26.7%	8.9%	64.4%	33.3%	9.2%	57.5%	44.9%	7.9%	47.2%		
	賃貸	(n=88)	59.3%	11.6%	29.1%	4.7%	9.3%	86.0%	8.1%	8.1%	83.7%	7.0%	5.8%	87.2%		
	社宅、寮、シェアハウス	(n=7)	57.1%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	71.4%	28.6%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	85.7%		
	その他（ ）	(n=10)	80.0%	0.0%	20.0%	10.0%	30.0%	60.0%	40.0%	0.0%	60.0%	40.0%	10.0%	50.0%		

* 「無回答」を除く

(4) 生物多様性等の認知度と自然とふれ合う活動・イベントの参加状況の関係（問6×問9、問7×問9、問8×問9のクロス集計）

結果概要

- ・ 自然とふれ合う活動・イベントに参加したことがあるかどうかで比較すると、自然とふれ合う活動・イベントに参加したことがある回答者の方が参加したことがない回答者に比べて生物多様性、希少野生動植物種、特定外来生物のいずれも「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答する割合が高い傾向が示された。

			問6 生物多様性の認知度			
			合計	1. 言葉の意味も含めて知っている	2. 聞いたことはあるが内容はよく知らない	3. 聞いたことがない
問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加状況	1. 自然観察会（野鳥、昆虫、植物など）	参加したことがある	(n=137)	48.1%	48.1%	3.8%
		参加したことはないが、関心はある	(n=437)	37.7%	57.0%	5.3%
		参加したことがなく、関心もない	(n=332)	21.0%	62.0%	17.0%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	59.7%	38.8%	1.5%
		参加したことはないが、関心はある	(n=486)	38.4%	55.8%	5.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=351)	20.7%	63.6%	15.7%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	51.7%	44.8%	3.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=481)	40.7%	54.7%	4.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=392)	22.6%	61.8%	15.6%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	57.9%	36.8%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=553)	38.0%	56.8%	5.3%
		参加したことがなく、関心もない	(n=330)	23.6%	60.2%	16.1%
	5. 外来生物の駆除（オオキンケイギクの除草など）	参加したことがある	(n=74)	52.1%	45.2%	2.7%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	38.2%	56.1%	5.7%
		参加したことがなく、関心もない	(n=334)	21.5%	62.4%	16.1%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	64.9%	29.7%	5.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=495)	39.5%	55.0%	5.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=365)	20.9%	64.1%	15.0%
	7. その他（ ）	参加したことがある	(n=21)	84.2%	10.5%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	53.1%	46.9%	0.0%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%

				問7 希少野生動物種の認知	
			合計	1. 知っている	2. 知らない
状況 問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加	1. 自然観察会 (野鳥、昆虫、植物など)	参加したことがある	(n=137)	52.6%	47.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=437)	41.2%	58.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=332)	19.4%	80.6%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	71.0%	29.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=486)	41.2%	58.8%
		参加したことがなく、関心もない	(n=351)	19.2%	80.8%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	61.3%	38.7%
		参加したことはないが、関心はある	(n=481)	44.5%	55.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=392)	21.0%	79.0%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	73.7%	26.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=553)	42.5%	57.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=330)	20.4%	79.6%
	5. 外来生物の駆除 (オオキンケイギクの除草など)	参加したことがある	(n=74)	61.6%	38.4%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	41.9%	58.1%
		参加したことがなく、関心もない	(n=334)	18.8%	81.2%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	57.9%	42.1%
		参加したことはないが、関心はある	(n=495)	43.4%	56.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=365)	20.8%	79.2%
	7. その他 ()	参加したことがある	(n=21)	70.0%	30.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	65.6%	34.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%

				問8 特定外来生物の認知度	
			合計	1. 知っている	2. 知らない
状況 問9 自然とふれ合う活動・イベントの参加	1. 自然観察会 (野鳥、昆虫、植物など)	参加したことがある	(n=137)	79.3%	20.7%
		参加したことはないが、関心はある	(n=437)	73.8%	26.2%
		参加したことがなく、関心もない	(n=332)	54.0%	46.0%
	2. 森林や里山の整備	参加したことがある	(n=69)	89.9%	10.1%
		参加したことはないが、関心はある	(n=486)	72.3%	27.7%
		参加したことがなく、関心もない	(n=351)	56.1%	43.9%
	3. 湿地の保全	参加したことがある	(n=32)	87.1%	12.9%
		参加したことはないが、関心はある	(n=481)	75.6%	24.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=392)	56.0%	44.0%
	4. 希少な生き物の保護	参加したことがある	(n=20)	89.5%	10.5%
		参加したことはないが、関心はある	(n=553)	75.5%	24.5%
		参加したことがなく、関心もない	(n=330)	52.6%	47.4%
	5. 外来生物の駆除 (オオキンケイギクの除草など)	参加したことがある	(n=74)	94.5%	5.5%
		参加したことはないが、関心はある	(n=499)	75.6%	24.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=334)	49.1%	50.9%
	6. 自然の仕組みや機能を学ぶことができる環境学習講座	参加したことがある	(n=39)	94.7%	5.3%
		参加したことはないが、関心はある	(n=495)	74.4%	25.6%
		参加したことがなく、関心もない	(n=365)	55.0%	45.0%
	7. その他 ()	参加したことがある	(n=21)	95.0%	5.0%
		参加したことはないが、関心はある	(n=34)	80.6%	19.4%
		参加したことがなく、関心もない	(n=0)	0.0%	0.0%

* 「無回答」を除く

(5) 年齢とごみに関する情報入手方法の関係（問 10×問 14 のクロス集計）

結果概要

- ・ ごみに関する情報入手方法について、20 歳代以下は『3.ごみ分別カレンダー』の割合が最も高く、40 歳代以上は『1.広報とよた』の割合が最も高い結果となった。

		問10 ごみに関する情報入手方法（複数回答）										
		1. 広報とよた	2. 地域の 回覧板	3. ごみ分別 カレンダー	4. 環境学 習施設・出 前講座	5. 分別ア プリ	6. 子ども から（学校等 で知った情 報や配布 物）	7. 市のホー ムページ	8. 公共施 設等の掲示 物	9. アパート・ マンションの 掲示物	10. SNS	11. その他 （ ）
問 1 4 年 齢	1. 10歳代	46.7%	46.7%	66.7%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	2. 20歳代	44.3%	42.9%	45.7%	2.9%	17.1%	1.4%	15.7%	4.3%	4.3%	8.6%	2.9%
	3. 30歳代	52.5%	48.8%	53.8%	0.0%	25.0%	7.5%	20.0%	3.8%	3.8%	11.3%	2.5%
	4. 40歳代	63.6%	53.8%	51.5%	1.5%	16.7%	2.3%	11.4%	4.5%	3.0%	3.8%	0.8%
	5. 50歳代	74.9%	53.2%	51.5%	2.9%	14.0%	1.2%	21.6%	7.0%	10.5%	8.2%	0.0%
	6. 60歳代	74.4%	55.8%	73.1%	1.9%	23.1%	0.6%	28.8%	3.8%	10.3%	3.8%	0.0%
	7. 70歳代	73.5%	65.7%	66.9%	4.4%	17.7%	3.3%	23.8%	8.3%	6.6%	7.7%	0.6%
	8. 80歳代以上	71.4%	63.8%	66.7%	5.7%	22.9%	6.7%	15.2%	21.9%	2.9%	6.7%	1.0%

* 「無回答」を除く

(6) 居住地区とごみに関する取組状況の関係（問 11×問 17 のクロス集計）

結果概要

- 都市地域と山村地域における積極的に取り組んでいる割合の地域別の平均値を比較すると、『2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する』以外の 8 項目中 7 項目において都市地域よりも山村地域において積極的に取り組んでいる割合が高い結果となった。

			問11 ごみに関する取組状況																	
			1、コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する				2、販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する				3、自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する				4、市が実施している「リユース工房」「リユーススポット」を利用する					
			積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない		
問 17	都市	全体	(n=202)	12.5%	17.5%	22.0%	48.0%	41.2%	39.2%	9.0%	10.6%	30.5%	36.5%	15.0%	18.0%	9.1%	17.2%	34.3%	39.4%	
		(n=88)	12.8%	16.3%	29.1%	41.9%	47.1%	26.4%	10.3%	16.1%	47.1%	25.9%	12.9%	14.1%	13.3%	13.3%	37.3%	36.1%		
		(n=74)	12.3%	13.7%	17.8%	56.2%	42.5%	37.0%	6.8%	13.7%	33.8%	33.8%	16.2%	16.2%	15.1%	13.7%	37.0%	34.2%		
		(n=150)	10.1%	17.6%	20.9%	51.4%	45.6%	30.2%	13.4%	10.7%	39.6%	35.6%	11.4%	13.4%	5.4%	15.6%	29.9%	49.0%		
		(n=105)	5.9%	17.6%	24.5%	52.0%	45.2%	34.6%	7.7%	12.5%	37.9%	42.7%	9.7%	9.7%	5.9%	19.6%	29.4%	45.1%		
	山村	6. 松平	(n=37)	19.4%	16.7%	22.2%	41.7%	42.9%	37.1%	8.6%	11.4%	36.1%	38.9%	11.1%	13.9%	5.7%	22.9%	28.6%	42.9%	
		7. 藤岡	(n=43)	11.9%	16.7%	14.3%	57.1%	34.9%	41.9%	4.7%	18.6%	27.9%	41.9%	9.3%	20.9%	14.0%	7.0%	34.9%	44.2%	
		8. 小原	(n=11)	36.4%	9.1%	9.1%	45.5%	36.4%	9.1%	36.4%	18.2%	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	63.6%	
		9. 足助	(n=14)	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	14.3%	57.1%	21.4%	7.1%	14.3%	14.3%	14.3%	35.7%	35.7%	
		10. 下山	(n=16)	12.5%	12.5%	12.5%	62.5%	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%	18.8%	75.0%	
		11. 堀	(n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	
		12. 稲武	(n=10)	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	22.2%	33.3%	11.1%	33.3%	
		13. 回答が分からない	(n=82)	11.0%	14.6%	23.2%	51.2%	32.9%	37.8%	13.4%	15.9%	19.5%	29.3%	18.3%	32.9%	6.1%	15.9%	31.7%	46.3%	
			問11 ごみに関する取組状況																	
			5、資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜る）※等を用いてごみに関する情報を得る※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ				6、環境学習施設eco+Tや出前講座等による環境学習に参加する				7、ごみの排出量を削減する				8、適正なごみの分別をする					
			積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組みたい	今のところ取り組みたくない		
問 17	都市	全体	(n=202)	16.6%	14.1%	31.2%	38.2%	1.0%	7.5%	23.5%	68.0%	27.2%	54.5%	13.4%	5.0%	71.8%	25.7%	1.5%	1.0%	
		(n=88)	16.5%	11.8%	29.4%	42.4%	1.2%	4.8%	32.1%	61.9%	31.4%	40.7%	17.4%	10.5%	69.0%	23.0%	5.7%	2.3%		
		(n=74)	13.7%	12.3%	43.8%	30.1%	1.4%	6.8%	34.2%	57.5%	21.6%	58.1%	12.2%	8.1%	67.6%	28.4%	4.1%	0.0%		
		(n=150)	17.1%	15.1%	24.7%	43.2%	2.0%	6.8%	22.3%	68.9%	21.5%	52.3%	17.4%	8.7%	77.6%	18.4%	2.7%	1.4%		
		(n=105)	17.5%	15.5%	32.0%	35.0%	1.0%	5.8%	28.2%	65.0%	29.1%	51.5%	14.6%	4.9%	66.3%	29.8%	3.8%	0.0%		
	山村	6. 松平	(n=37)	8.3%	19.4%	33.3%	38.9%	0.0%	8.3%	30.6%	61.1%	32.4%	45.9%	16.2%	5.4%	56.8%	37.8%	2.7%	2.7%	
		7. 藤岡	(n=43)	18.6%	16.3%	34.9%	30.2%	2.4%	4.8%	31.0%	61.9%	28.6%	57.1%	7.1%	7.1%	76.2%	19.0%	0.0%	4.8%	
		8. 小原	(n=11)	9.1%	27.3%	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	
		9. 足助	(n=14)	7.1%	7.1%	35.7%	50.0%	0.0%	21.4%	21.4%	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	
		10. 下山	(n=16)	18.8%	6.3%	31.3%	43.8%	6.3%	6.3%	12.5%	75.0%	12.5%	43.8%	37.5%	6.3%	56.3%	37.5%	0.0%	6.3%	
		11. 堀	(n=5)	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		12. 稲武	(n=10)	22.2%	44.4%	11.1%	22.2%	10.0%	10.0%	20.0%	60.0%	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%	
		13. 回答が分からない	(n=82)	19.5%	14.6%	26.8%	39.0%	2.4%	8.5%	22.0%	67.1%	28.0%	43.9%	15.9%	12.2%	59.8%	35.4%	2.4%	2.4%	

* 「無回答」を除く

2.3.2 指標・経年比較

以下に経年比較・指標の算定結果を示す。

平成 28 年度から令和 2 年度にかけて指標値が向上した指標について、令和 6 年度において減少する結果となった。

(市民の指標一覧)

項目	内容	H28 年度	R2 年度	R6 年度	比較
「気候変動への適応」の認知度	「気候変動への適応」という言葉の意味も含めて「知っていた」と回答した市民の割合	23.1%	32.5%		
	気候変動への取組項目のうち、過半数で「1.積極的に取り組んでいる」又は「2.少し取り組んでいる」と回答した市民の割合			60.7%	
「自然とふれあえる場の多さ」として満足している市民の割合	「1.非常に満足」「2.やや満足」と回答した市民の割合	44.4%	53.6%	52.5%	↘
生物多様性を理解している市民の割合	生物多様性という言葉の意味も含めて「知っていた」と回答した市民の割合	30.1%	35.0%	33.1%	↘
希少野生動植物種が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	「知っていた」と回答した市民の割合	35.5%	38.6%	35.0%	↘
特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	「知っていた」と回答した市民の割合	68.4%	74.0%	67.3%	↘
生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合※1	「参加している」と回答している市民の割合	13.2%	10.2%	21.8%	↗
周辺環境への満足度（全体）	「全体として周辺の環境への満足	44.9%	66.6%	54.6%	↘

	度」について、 「1. 非常に満足」 又は「2. やや満足」と回答した市民の割合				
環境配慮行動を実践している市民の割合	環境取組項目のうち、過半数で「1. 積極的に取り組んでいる」又は「2. 少し取り組んでいる」と回答した市民の割合	65.6%	76.3%	76.8%	↗

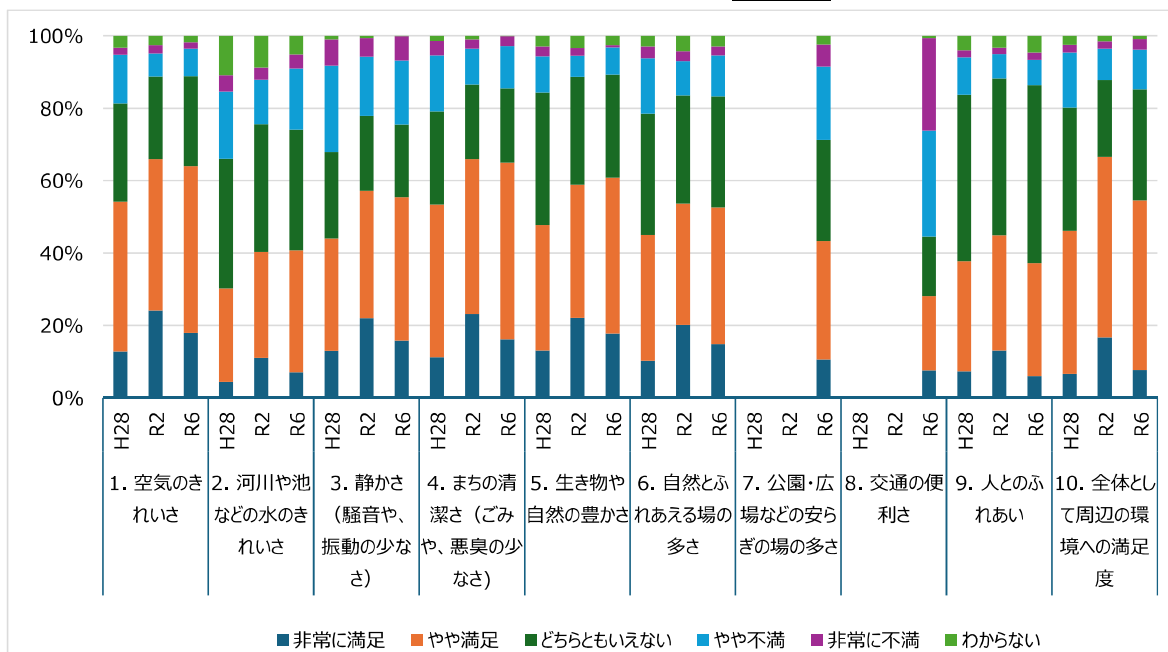
※1 令和6年度においては問9における7つの項目のいずれかに「1.参加したことがある」と回答した場合は生き物や自然と触れ合う活動・イベントに「1.参加したことがある」として計上した。

(経年比較)

過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更等による影響が含まれる可能性があることに留意が必要である。

周辺の環境全般について

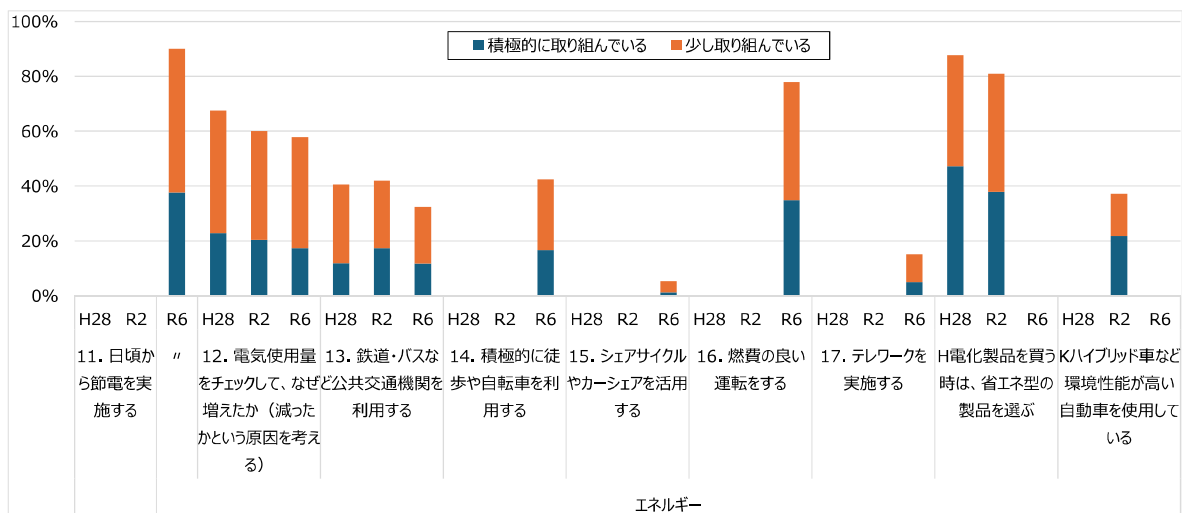
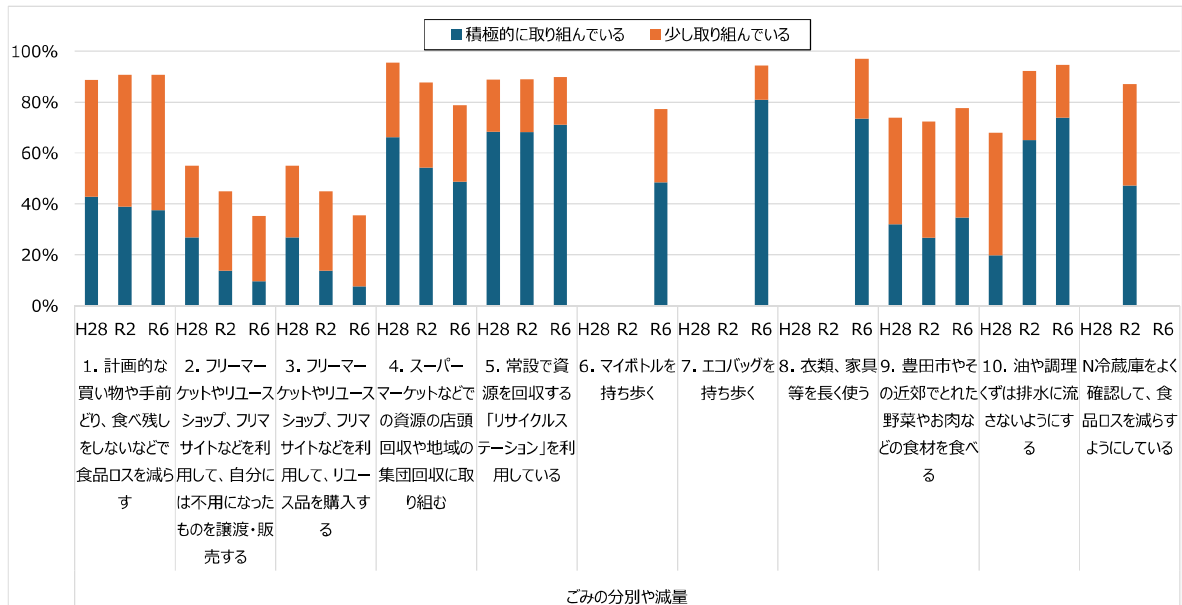
【問 1】 お住まい周辺の環境の満足度について、それぞれ 1 つずつ 選んで○をつけてください。



結果概要

- ・ 周辺の環境の満足度について「1.非常に満足」の割合はいずれも令和2年が最も高い結果となった。
- ・ 各項目における「1.非常に満足」と「2.やや満足」の合計値については『2.河川や池などの水のきれいさ』、『5.生き物や自然の豊かさ』は令和6年が最も高い結果となった。

日々の生活における環境に配慮した行動について、それぞれ 1 つずつ選んで○をつけてください。また、「4.まったく取り組んでいない」を回答された場合は、その理由を表の【理由の選択肢】のA～サから1つ選んで、記入してください。



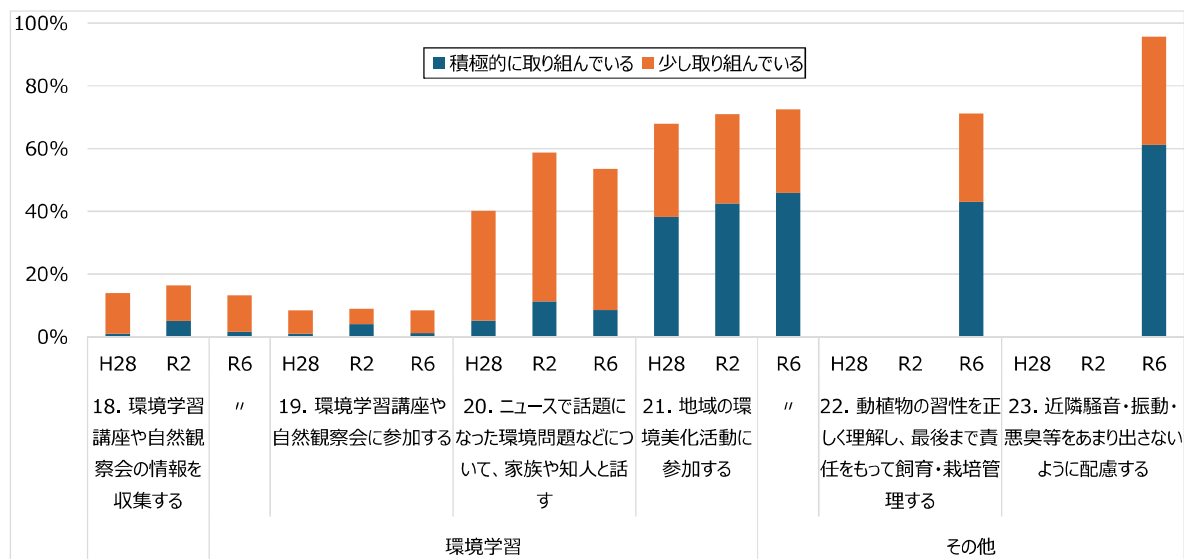
結果概要

【ごみの分別や減量】

- 『2.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不要になったものを譲渡・販売する』、『3.フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する』、『4.スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む』は取り組んでいる割合が減少している傾向が示された。『5.常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している』、『10.油や調理くずは排水に流さないようにする』は取り組んでいる割合が増加している傾向が示された。

【エネルギー】

- 『12.電気使用量をチェックして、なぜ増えたか（減ったかという原因を考える）』の取組状況が減少している結果となった。



結果概要

【環境学習】

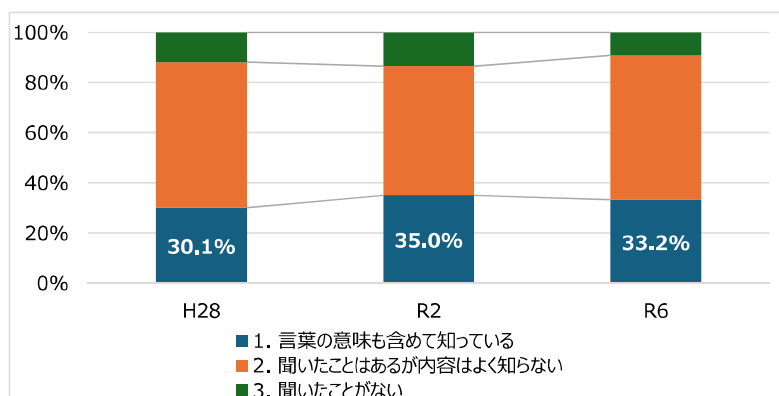
- 『21.地域の環境美化活動に参加する』は取り組んでいる割合が増加している傾向が示された。

【その他】

- 過年度において該当する設問項目なし

生物多様性について

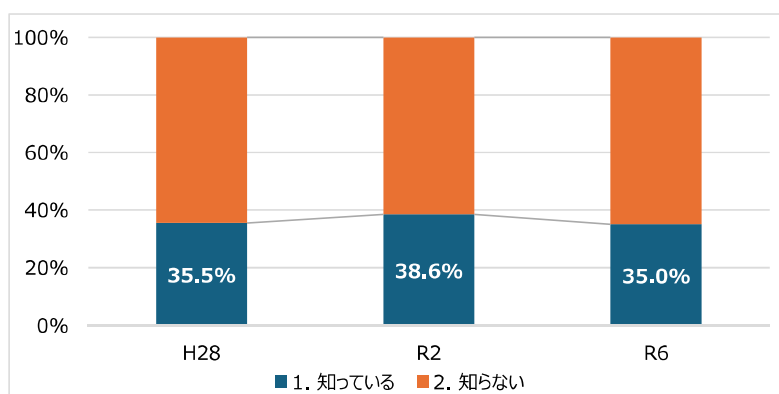
- 「生物多様性」※という言葉を知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【問 6】 ※生物多様性：いろいろな生き物がいること、生き物が複雑に関わりあって様々な環境に合わせて生活していること。



結果概要

- 生物多様性について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合は令和 6 年度において令和 2 年度から 1.9%減少した。

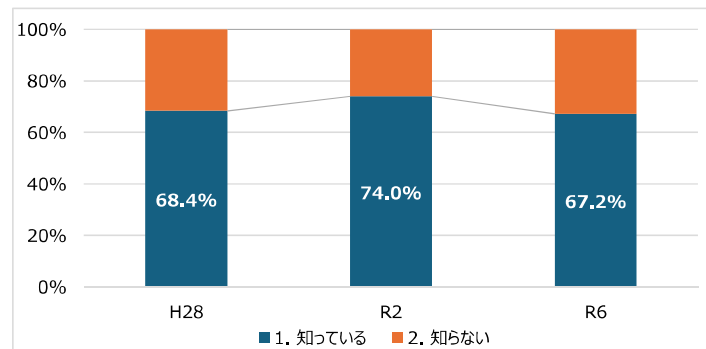
- 希少野生動植物種※が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
【問 7】 ※希少野生動植物種：気候変動や人間による開発行為の影響で生息・生育環境が悪化し、絶滅の危機にさらされている生き物のこと。豊田市に生息・生育しているのは、ウシモツゴ、カワバタモロコ、シデコブシ、ギフチョウなど。



結果概要

- 希少野生動植物種について「知っている」と回答した割合は令和 6 年度において令和 2 年度から 3.6%減少した。

- 【問 8】 特定外来生物が豊田市にも生息・生育していることを知っていますか。
 当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。
 ＊特定外来生物：外国やその他の地域からやってきた生き物のうち、生態系等へ被害を及ぼす恐れがある生き物として、環境省が指定しているもの。豊田市に生息・生育しているのは、アライグマ、アカミミガメ、オオクチバス、セアカゴケグモ、オオキンケイギクなど。

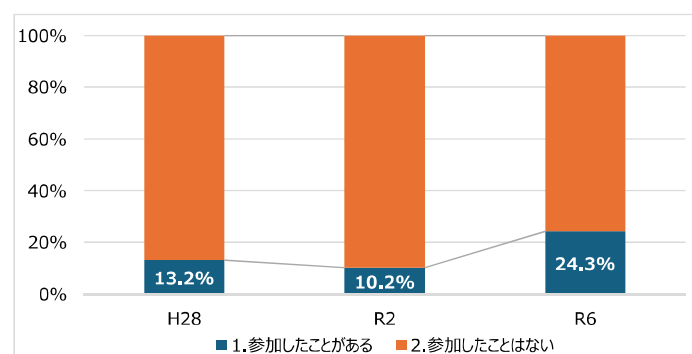


結果概要

- ・ 特定外来生物について「知っている」と回答した割合は令和 6 年度において令和 2 年度から 6.7%減少した。

- 【問 9】 生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことがありますか。
 それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

令和 6 年においては問 9 における 7 つの項目のいずれかに「1.参加したことがある」と回答した場合は生き物や自然と触れ合う活動・イベントに「1.参加したことがある」として計上した。

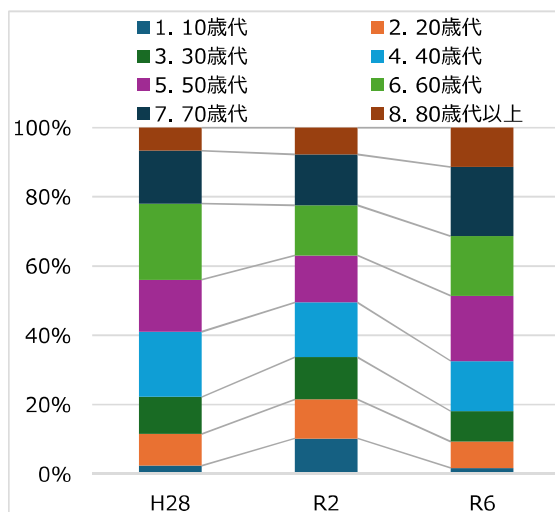


結果概要

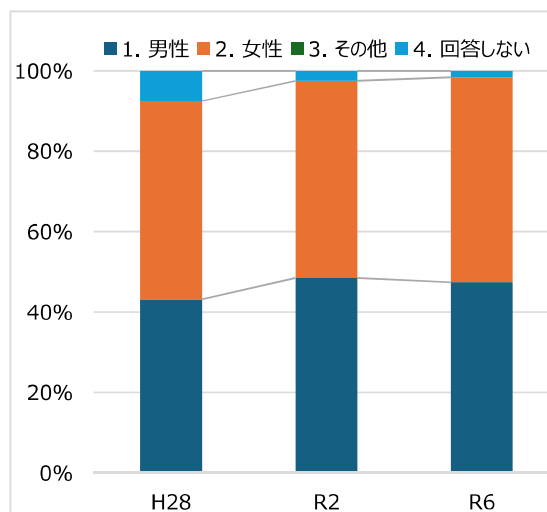
- ・ 生き物や自然と触れ合う活動・イベントに参加したことある市民の割合は令和 6 年度において令和 2 年度から 11.6%増加した。

ご自身について

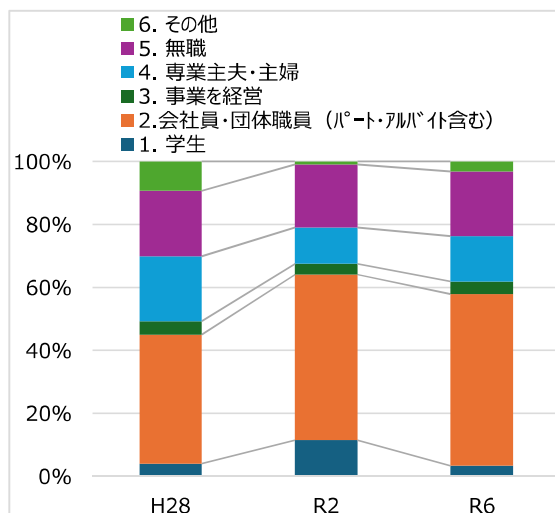
【問 14】 年齢について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。※1



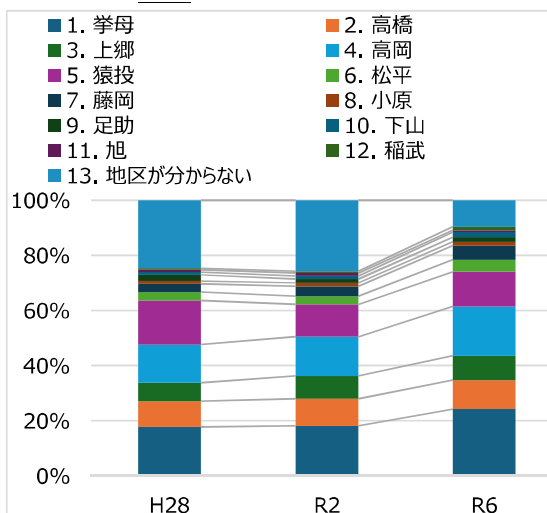
【問 15】 性別について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 16】 職業について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



【問 17】 居住地区について当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。



結果概要

【年齢】

- 令和2年度においては10歳代の割合が10.2%であり、30歳代以下の割合が3回の調査のなかで最も高い。令和6年度においては60歳代以上の割合が48.6%となっており、3回の調査のなかで最も高い結果となった。

【性別】

- いずれの年度も男性よりも女性の割合の方が高い。

【職業】

- いずれの年度も「2.会社員・団体職員（パート・アルバイト含む）」の割合が最も高く、増加傾向を示した。
- 「1.学生」の割合について令和2年度において11.5%となり、平成28年度、令和6年度よりも高い結果となった。

【居住地区】

- いずれの年度においても「1.挙母」の割合が高く、令和6年度において24.1%と平成28年度、令和2年度よりも増加した。

※1 アンケート調査対象者の年齢について、令和2年度までは16歳以上、令和6年度は18歳以上である。

3. 事業者向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

3.1 結果の概要

事業者向けアンケート結果の概要を表 0-1 に示す。

表 0-1 事業者向けアンケート結果概要

結果概要
【環境全般について】 ➤ 環境に関連する取組状況について、【エネルギー】や【ごみの減量】、【その他】の項目は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値がほとんどの項目において 50%以上であるが、【環境学習】、【緑・生き物】の項目は 50%を下回る項目が過半数を占めていた。【問 1】 ➤ ほとんどの項目において「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高かった。【問 1 取り組んでいない理由】 ➤ 環境に関する経営方針や管理手法のうち「1.既に実施している」と回答した割合は『1.ISO14001 の認証取得』が 37.8%と最も高く、次いで『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』が 28.4%と最も高い結果となった。実施率が低い項目は「5.どのようなものか知らない」の回答率が 30%以上となっており、認識が広まっていないことが示唆される。【問 2】 ➤ 環境に関する経営方針や管理手法実施による効果は「イ.環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった」の回答率が比較的高い結果となった。【問 2 実施による効果】
【気候変動について】 ➤ 『2.高効率照明（LED 等）の導入』が 85.6%と最も高い結果となった。「3.関心はあるが、導入予定なし」は『3.蓄電池の導入』、『8.燃料電池自動車（FCEV）の導入』において 50%以上と高い結果となった。【問 3】 ➤ いずれの項目においても「ウ.費用負担が大きい」の回答率が高い結果となった。そのほかに項目により「ケ.業務上使用しない」や「キ.情報がない（よく知らない）」、「ア.テナント等で設置する権限がない」、「カ.管理に手間がかかる」の回答率が高くなった【問 3 導入予定なしの理由】 ➤ 「1.既に再エネ電力を調達している」割合は 25.0%となった。関心を示している事業者は 36.5%となった。【問 4】 ➤ 「3.電力会社から再エネ電力を購入する」の回答率が最も高い結果となった。調達予定、関心のある事業者は「2.PPA モデルで発電設備を導入して発電電力を自家消費する」が 3 番目に多い結果となった。【問 5】 ➤ 『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』、『5.自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）』『1.影響を受けていると強く感じている』の回答率が高い結果となった。【問 6】
【生物多様性について】 ➤ 『5.事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達の予防等）』、『6.従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供』について重要と考える事業者が比較的高い結果となった。【問 7】
【資源循環について】 ➤ 『2.ごみの分別の徹底』、『3.リサイクル（再生利用・再資源化）』において「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が高い結果となった。【問 8】 ➤ 『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』が「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が最も高い結果となった。【問 9】
【市の環境への取組について】 ➤ 『4.環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実』、『5.環境保全のための助成制度の充実』について重要と考える事業者が比較的高い結果となった。【問 10】 ➤ 市からの情報提供や補助金項目の追加・増加を希望する意見が多くなった。【問 11】

【貴事業所について】

- 従業員数 100 人未満の事業者が過半数であり、賃貸、テナントで事業を行う事業者が 20%以上となった。【問 12～問 17】

3.2 単純集計結果

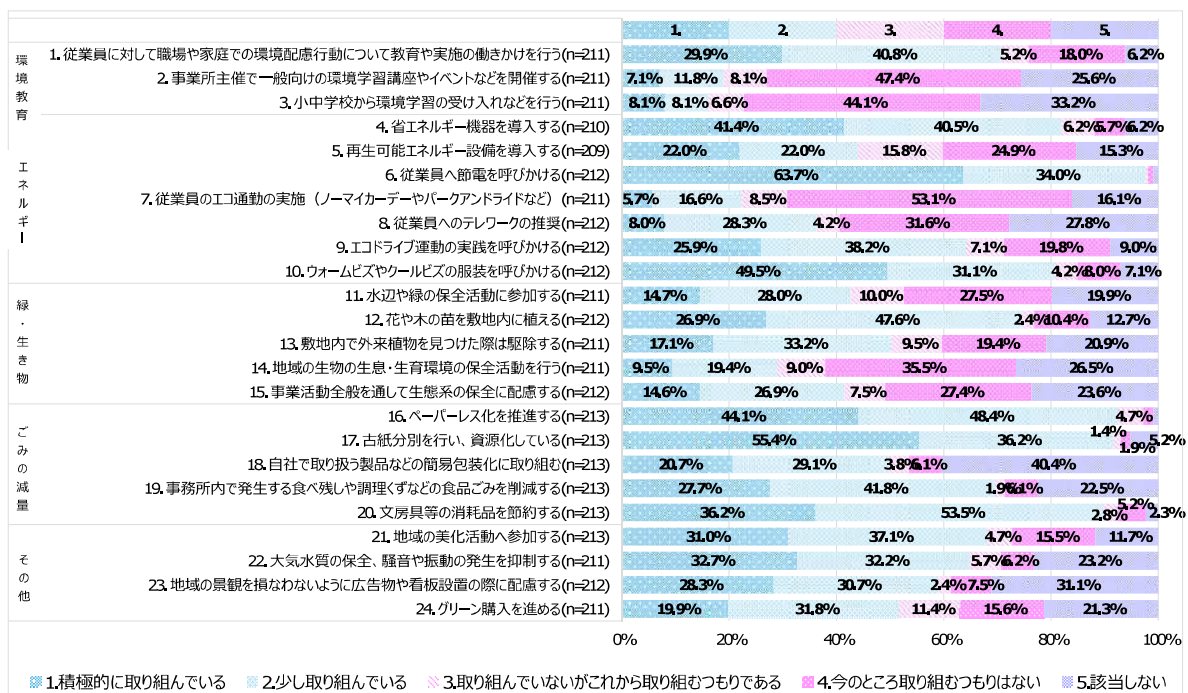
以下に問 1～問 17 の結果を示す。

環境全般について

貴事業所における環境に関連する取組状況について、それぞれ 1 つずつ選んで○をつけてください。また、「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～エのうち最も当てはまるものを 1 つ選んで、記入してください。

【問 1】

上段:度数 下段: %		合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないがこれから取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	該当しない
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	211 100.0%	63 29.9%	86 40.8%	11 5.2%	38 18.0%	13 6.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	211 100.0%	15 7.1%	25 11.8%	17 8.1%	100 47.4%	54 25.6%
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	211 100.0%	17 8.1%	17 8.1%	14 6.6%	93 44.1%	70 33.2%
エネルギー	4. 省エネルギー機器を導入する	210 100.0%	87 41.4%	85 40.5%	13 6.2%	12 5.7%	13 6.2%
	5. 再生可能エネルギー設備を導入する	209 100.0%	46 22.0%	46 22.0%	33 15.8%	52 24.9%	32 15.3%
	6. 従業員へ節電を呼びかける	212 100.0%	135 63.7%	72 34.0%	1 0.5%	2 0.9%	2 0.9%
	7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）	211 100.0%	12 5.7%	35 16.6%	18 8.5%	112 53.1%	34 16.1%
	8. 従業員へのテレワークの推奨	212 100.0%	17 8.0%	60 28.3%	9 4.2%	67 31.6%	59 27.8%
	9. エコドライブ運動の実践を呼びかける	212 100.0%	55 25.9%	81 38.2%	15 7.1%	42 19.8%	19 9.0%
	10. ウォームピズやクールピズの服装を呼びかける	212 100.0%	105 49.5%	66 31.1%	9 4.2%	17 8.0%	15 7.1%
緑・生き物	11. 水辺や緑の保全活動に参加する	211 100.0%	31 14.7%	59 28.0%	21 10.0%	58 27.5%	42 19.9%
	12. 花や木の苗を敷地内に植える	212 100.0%	57 26.9%	101 47.6%	5 2.4%	22 10.4%	27 12.7%
	13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する	211 100.0%	36 17.1%	70 33.2%	20 9.5%	41 19.4%	44 20.9%
	14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う	211 100.0%	20 9.5%	41 19.4%	19 9.0%	75 35.5%	56 26.5%
	15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	212 100.0%	31 14.6%	57 26.9%	16 7.5%	58 27.4%	50 23.6%
ごみの減量	16. ペーパーレス化を推進する	213 100.0%	94 44.1%	103 48.4%	10 4.7%	4 1.9%	2 0.9%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	213 100.0%	118 55.4%	77 36.2%	3 1.4%	4 1.9%	11 5.2%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	213 100.0%	44 20.7%	62 29.1%	8 3.8%	13 6.1%	86 40.4%
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	213 100.0%	59 27.7%	89 41.8%	4 1.9%	13 6.1%	48 22.5%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	213 100.0%	77 36.2%	114 53.5%	6 2.8%	11 5.2%	5 2.3%
その他	21. 地域の美化活動へ参加する	213 100.0%	66 31.0%	79 37.1%	10 4.7%	33 15.5%	25 11.7%
	22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する	211 100.0%	69 32.7%	68 32.2%	12 5.7%	13 6.2%	49 23.2%
	23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する	212 100.0%	60 28.3%	65 30.7%	5 2.4%	16 7.5%	66 31.1%
	24. グリーン購入を進める	211 100.0%	42 19.9%	67 31.8%	24 11.4%	33 15.6%	45 21.3%



問 1 の結果概要

【環境教育】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『1.従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う』が 29.9%と最も高い結果となった。

【エネルギー】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『6.従業員へ節電を呼びかける』が 63.7%と最も高く、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』が 5.7%と最も低い結果となった。

【緑・生き物】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『12.花や木の苗を敷地内に植える』が 26.9%と最も高く、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』が 9.5%と最も低い結果となった。

【ごみの減量】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『17.古紙分別を行い、資源化している』が 55.4%と最も高く、『18.自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む』が 20.7%と最も低い結果となった。

【その他】

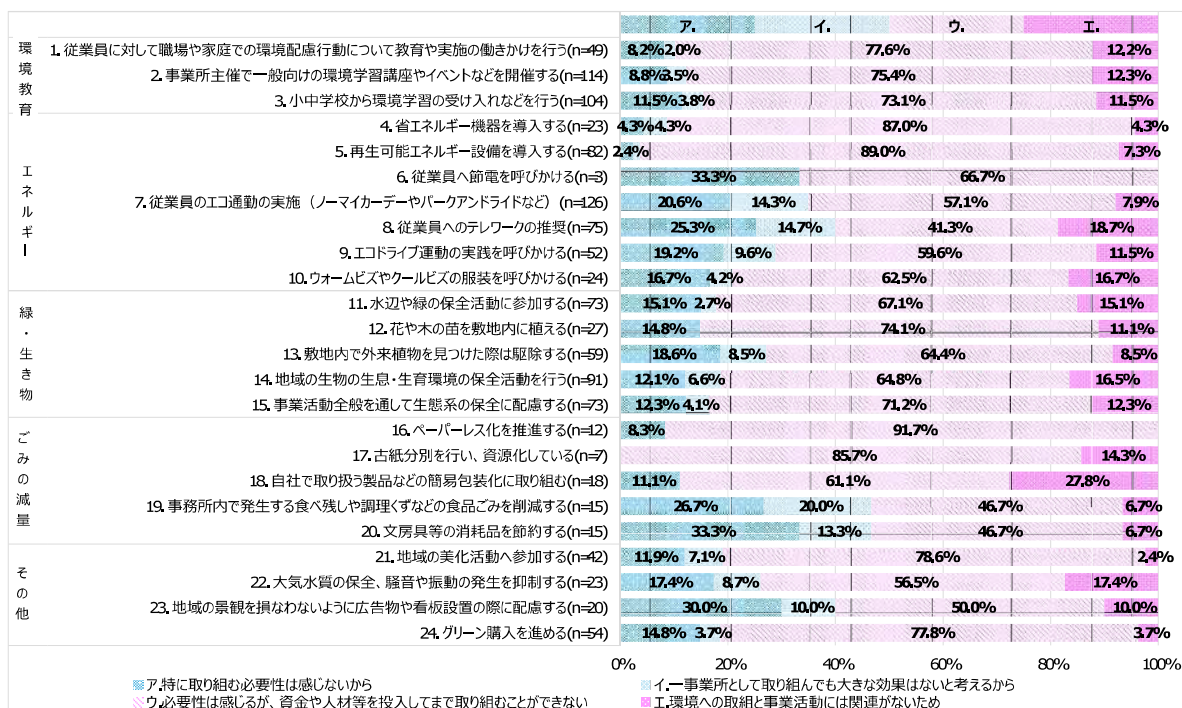
- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『22.大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する』が 32.7%と最も高く、『24.グリーン購入を進める』が 19.9%と最も低い結果となった。

【全項目】

- 「1.積極的に取り組んでいる」回答率は『6.従業員へ節電を呼びかける』（63.7%）、『17.古紙分別を行い、資源化している』（55.4%）が上位 2 項目となった。
- 「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値を項目で比較すると、【エネルギー】や【ごみの減量】、【その他】の項目はほとんど 50%以上であるが、【環境学習】、【緑・生き物】の項目は 50%を下回る項目が過半数を占めていた。

「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %		合計	特に取り組む 必要性は感じ ないから	一事業所とし て取り組んでも 大きな効果は ないと考えるか ら	必要性は感じ るが、資金や 人材等を投入 してまで取り組 むことができな い	環境への取組 と事業活動に は関連がない ため
環 境 教 育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	49 100.0%	4 8.2%	1 2.0%	38 77.6%	6 12.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	114 100.0%	10 8.8%	4 3.5%	86 75.4%	14 12.3%
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	104 100.0%	12 11.5%	4 3.8%	76 73.1%	12 11.5%
エ ネ ル ギ ー	4. 省エネルギー機器を導入する	23 100.0%	1 4.3%	1 4.3%	20 87.0%	1 4.3%
	5. 再生可能エネルギー設備を導入する	82 100.0%	2 2.4%	1 1.2%	73 89.0%	6 7.3%
	6. 従業員へ節電を呼びかける	3 100.0%	1 33.3%	- 0.0%	2 66.7%	- 0.0%
	7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）	126 100.0%	26 20.6%	18 14.3%	72 57.1%	10 7.9%
	8. 従業員へのテレワークの推奨	75 100.0%	19 25.3%	11 14.7%	31 41.3%	14 18.7%
	9. エコドライブ運動の実践を呼びかける	52 100.0%	10 19.2%	5 9.6%	31 59.6%	6 11.5%
	10. ウォームピズやクールピズの服装を呼びかける	24 100.0%	4 16.7%	1 4.2%	15 62.5%	4 16.7%
緑 ・ 生 き 物	11. 水辺や緑の保全活動に参加する	73 100.0%	11 15.1%	2 2.7%	49 67.1%	11 15.1%
	12. 花や木の苗を敷地内に植える	27 100.0%	4 14.8%	- 0.0%	20 74.1%	3 11.1%
	13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する	59 100.0%	11 18.6%	5 8.5%	38 64.4%	5 8.5%
	14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う	91 100.0%	11 12.1%	6 6.6%	59 64.8%	15 16.5%
	15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	73 100.0%	9 12.3%	3 4.1%	52 71.2%	9 12.3%
ご み の 減 量	16. ペーパーレス化を推進する	12 100.0%	1 8.3%	- 0.0%	11 91.7%	- 0.0%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	7 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	6 85.7%	1 14.3%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	18 100.0%	2 11.1%	- 0.0%	11 61.1%	5 27.8%
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	15 100.0%	4 26.7%	3 20.0%	7 46.7%	1 6.7%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	15 100.0%	5 33.3%	2 13.3%	7 46.7%	1 6.7%
そ の 他	21. 地域の美化活動へ参加する	42 100.0%	5 11.9%	3 7.1%	33 78.6%	1 2.4%
	22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する	23 100.0%	4 17.4%	2 8.7%	13 56.5%	4 17.4%
	23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する	20 100.0%	6 30.0%	2 10.0%	10 50.0%	2 10.0%
	24. グリーン購入を進める	54 100.0%	8 14.8%	2 3.7%	42 77.8%	2 3.7%



「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答した場合の理由の概要

【環境教育】

- 特に取組の進んでいない『2.事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する』、『3.小中学校から環境学習の受け入れなどを行う』はいずれも「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が70%以上となった。また、「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」がいずれも10.0%以上となった。

【エネルギー】

- 『5.再生可能エネルギー設備を導入する』は「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が89.0%となった。
- 特に取組の進んでいない『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』、『8.従業員へのテレワークの推奨』はいずれも「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が40%以上となった。また、いずれも「ア.特に取り組む必要性は感じないから」が20%以上、8.は「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」が18.7%となっており、従業員の実態と取組の不整合があり取組を進められる状況が整っていないことが示唆される。また、いずれも「イ.一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから」が14%以上となった。

【緑・生き物】

- 特に取組の進んでいない『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』、『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』は「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」が60%以上、「エ.環境への取組と事業活動には関連がないため」がいずれも10.0%以上となった。

【ごみの減量】

- 「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高くなった。

【その他】

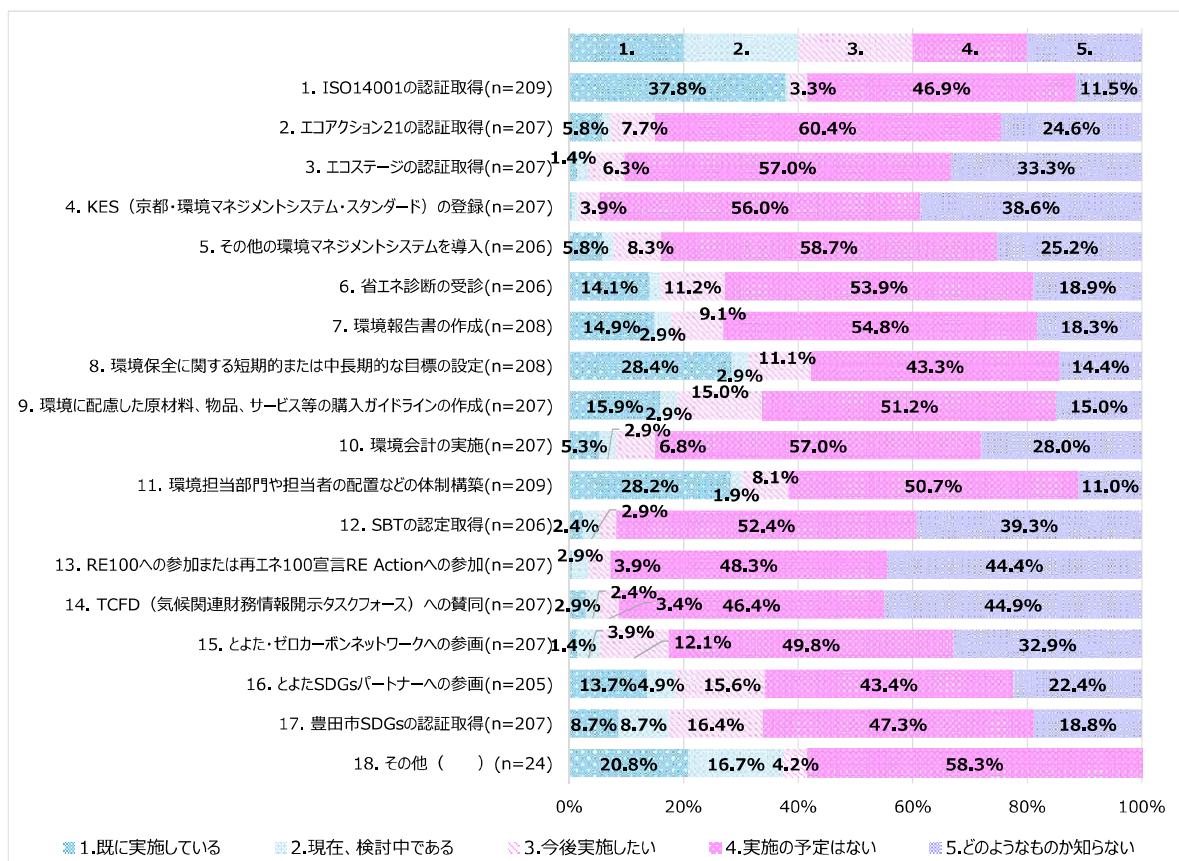
- 「イ.一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから」の回答率が比較的高い結果となった。

【全項目】

- ほとんどの項目において「ウ.必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない」の回答率が高い傾向が示された。

貴事業所では、環境に関する経営方針や管理手法を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまるものを 1 つずつ選んで○をつけてください。また、「1 既に実施している」を回答された場合は、実施によって得られた効果を下表の【効果の選択肢】の A～ケのうち最も当てはまるものを 1 つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	既に実施している	現在、検討中である	今後実施したい	実施の予定はない	どのようなものか知らない
1. ISO14001の認証取得	209 100.0%	79 37.8%	1 0.5%	7 3.3%	98 46.9%	24 11.5%
2. エコアクション21の認証取得	207 100.0%	12 5.8%	3 1.4%	16 7.7%	125 60.4%	51 24.6%
3. エコステージの認証取得	207 100.0%	3 1.4%	4 1.9%	13 6.3%	118 57.0%	69 33.3%
4. KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録	207 100.0%	1 0.5%	2 1.0%	8 3.9%	116 56.0%	80 38.6%
5. その他の環境マネジメントシステムを導入	206 100.0%	12 5.8%	4 1.9%	17 8.3%	121 58.7%	52 25.2%
6. 省エネ診断の受診	206 100.0%	29 14.1%	4 1.9%	23 11.2%	111 53.9%	39 18.9%
7. 環境報告書の作成	208 100.0%	31 14.9%	6 2.9%	19 9.1%	114 54.8%	38 18.3%
8. 環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定	208 100.0%	59 28.4%	6 2.9%	23 11.1%	90 43.3%	30 14.4%
9. 環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成	207 100.0%	33 15.9%	6 2.9%	31 15.0%	106 51.2%	31 15.0%
10. 環境会計の実施	207 100.0%	11 5.3%	6 2.9%	14 6.8%	118 57.0%	58 28.0%
11. 環境担当部門や担当者の配置などの体制構築	209 100.0%	59 28.2%	4 1.9%	17 8.1%	106 50.7%	23 11.0%
12. SBTの認定取得	206 100.0%	5 2.4%	6 2.9%	6 2.9%	108 52.4%	81 39.3%
13. RE100への参加または再エネ100宣言RE Actionへの参加	207 100.0%	1 0.5%	6 2.9%	8 3.9%	100 48.3%	92 44.4%
14. TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同	207 100.0%	6 2.9%	5 2.4%	7 3.4%	96 46.4%	93 44.9%
15. とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画	207 100.0%	3 1.4%	8 3.9%	25 12.1%	103 49.8%	68 32.9%
16. とよたSDGsパートナーへの参画	205 100.0%	28 13.7%	10 4.9%	32 15.6%	89 43.4%	46 22.4%
17. 豊田市SDGsの認証取得	207 100.0%	18 8.7%	18 8.7%	34 16.4%	98 47.3%	39 18.8%
18. その他（ ）	24 100.0%	5 20.8%	4 16.7%	1 4.2%	14 58.3%	- 0.0%

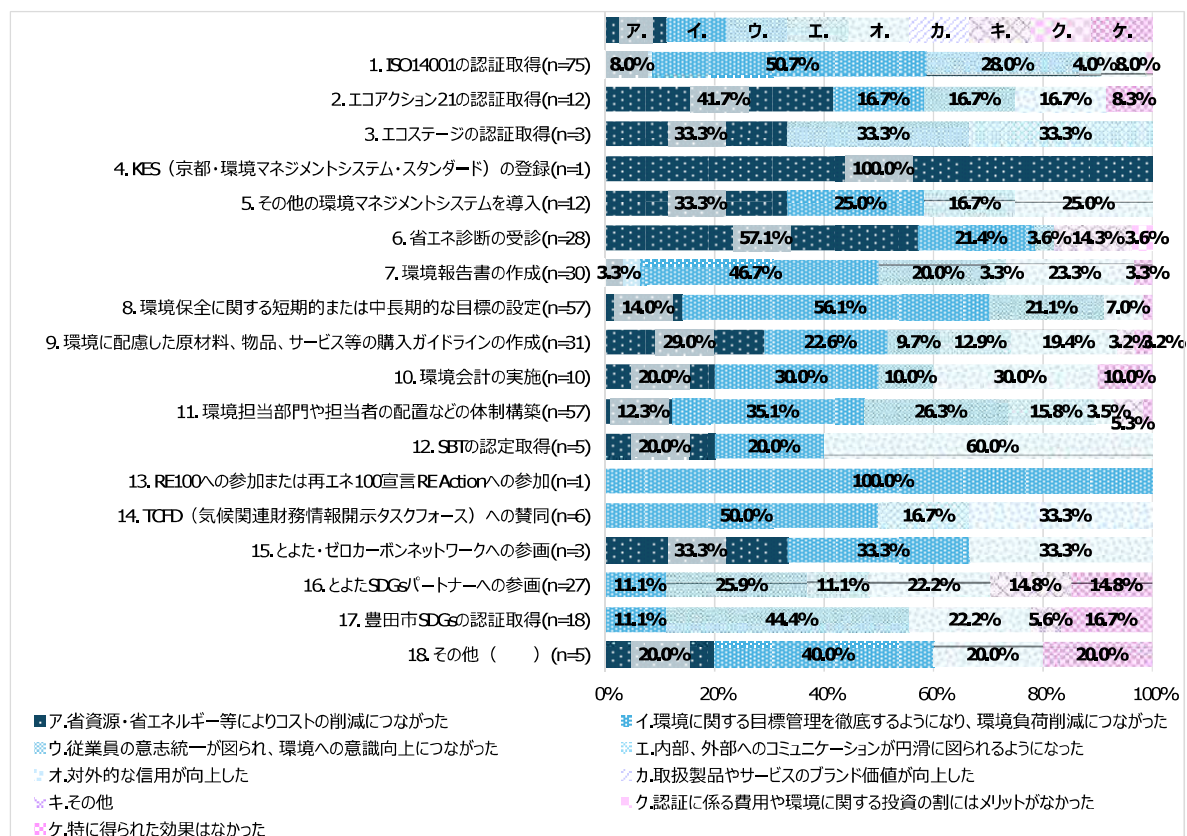


問 2 の結果概要

- 「1.既に実施している」と回答した割合は『1.ISO14001 の認証取得』が 37.8%と最も高く、次いで『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』が 28.4%と最も高い結果となった。
- 一方、『3.エコステージの認証取得』、『4.KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録』、『12.SBT の認定取得』、『13.RE100 への参加または再エネ 100 宣言 RE Action への参加』、『14.TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』は「1.既に実施している」の回答率が 5%未満と低い結果となった。これらの項目は「5.どのようなものか知らない」の回答率が 30%以上となっており、認識が広まっていないことが示唆される。
- 「2.現在、検討中である」または「3.今後実施したい」と回答した割合が 15%以上になっているのは『9.環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』、『16.とよた SDGs パートナーへの参画』、『17.豊田市 SDGs の認証取得』であった。

「1 既に実施している」を回答した場合の効果

上段:度数 下段: %	合計	省資源・省エネルギー等によりコストの削減につながった	環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった	従業員の意志統一が図られ、環境への意識向上につながった	内部、外部へのコミュニケーションが円滑に図られるようになった	対外的な信用が向上した	取扱製品やサービスのブランド価値が向上した	その他	認証に係る費用や環境に関する投資の割にはメリットがなかった	特に得られた効果はなかった
1. ISO14001の認証取得	75 100.0%	6 8.0%	38 50.7%	21 28.0%	3 4.0%	6 8.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 1.3%	- 0.0%
2. エコアクション21の認証取得	12 100.0%	5 41.7%	2 16.7%	2 16.7%	- 0.0%	2 16.7%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 8.3%
3. エコステージの認証取得	3 100.0%	1 33.3%	- 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
4. KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録	1 100.0%	1 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
5. その他の環境マネジメントシステムを導入	12 100.0%	4 33.3%	3 25.0%	- 0.0%	2 16.7%	3 25.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
6. 省エネ診断の受診	28 100.0%	16 57.1%	6 21.4%	1 3.6%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	4 14.3%	1 3.6%	- 0.0%
7. 環境報告書の作成	30 100.0%	1 3.3%	14 46.7%	6 20.0%	1 3.3%	7 23.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 3.3%
8. 環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定	57 100.0%	8 14.0%	32 56.1%	12 21.1%	- 0.0%	4 7.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 1.8%
9. 環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成	31 100.0%	9 29.0%	7 22.6%	3 9.7%	4 12.9%	6 19.4%	- 0.0%	1 3.2%	- 0.0%	1 3.2%
10. 環境会計の実施	10 100.0%	2 20.0%	3 30.0%	1 10.0%	- 0.0%	3 30.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 10.0%
11. 環境担当部門や担当者の配置などの体制構築	57 100.0%	7 12.3%	20 35.1%	15 26.3%	9 15.8%	2 3.5%	- 0.0%	3 5.3%	- 0.0%	1 1.8%
12. SBTの認定取得	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	3 60.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
13. RE100への参加または再エネ100宣言RE Actionへの参加	1 100.0%	- 0.0%	1 100.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
14. TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同	6 100.0%	- 0.0%	3 50.0%	- 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
15. とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	1 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%
16. とよたSDGsパートナーへの参画	27 100.0%	- 0.0%	3 11.1%	7 25.9%	3 11.1%	6 22.2%	- 0.0%	4 14.8%	- 0.0%	4 14.8%
17. 豊田市SDGsの認証取得	18 100.0%	- 0.0%	2 11.1%	8 44.4%	- 0.0%	4 22.2%	- 0.0%	1 5.6%	- 0.0%	3 16.7%
18. その他（ ）	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	1 20.0%



「1 既に実施している」を回答した場合の効果の概要

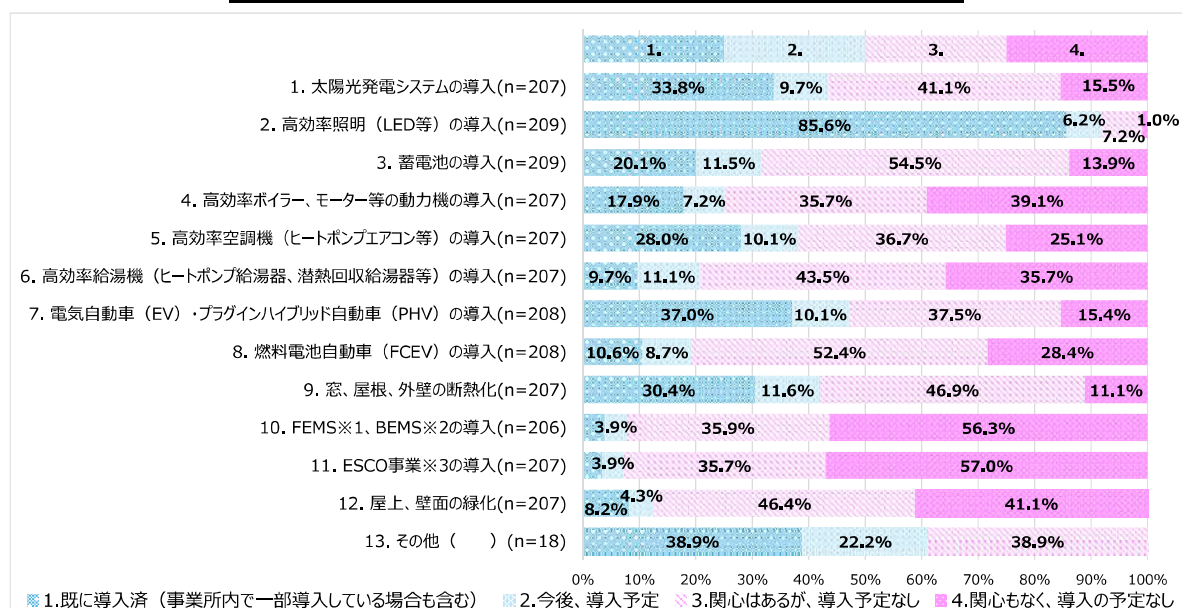
- 「イ.環境に関する目標管理を徹底するようになり、環境負荷削減につながった」の回答率が比較的高い結果となった。
- 「ア.省資源・省エネルギー等によりコストの削減につながった」の回答率が25%以上となったのは『2.エコアクション21の認証取得』、『3.エコステージの認証取得』、『4.KES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の登録』、『5.その他の環境マネジメントシステムを導入』、『6.省エネ診断の受診』、『9.環境に配慮した原材料、物品、サービス等の購入ガイドラインの作成』、『10.環境会計の実施』、『12.SBTの認定取得』、『15.とよた・ゼロカーボンネットワークへの参画』であった。
- 「ウ.従業員の意志統一が図られ、環境への意識向上につながった」の回答率が20%以上となったのは『1.ISO14001の認証取得』、『3.エコステージの認証取得』、『7.環境報告書の作成』、『8.環境保全に関する短期的または中長期的な目標の設定』、『11.環境担当部門や担当者の配置などの体制構築』、『16.とよたSDGsパートナーへの参画』、『17.豊田市SDGsの認証取得』であった。

気候変動について

貴事業所では、温室効果ガスの排出削減に効果のある再生可能エネルギー、省エネルギーに関する設備等を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまるものを 1

【問 3】 1 つずつ選んで○をつけてください。また、「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のアーケのうち最も当てはまるものを 1 つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %	合計	既に導入済 (事業所内で 一部導入して いる場合も含 む)	今後、導入予 定	関心はある が、導入予定 なし	関心もなく、導 入の予定なし
1. 太陽光発電システムの導入	207 100.0%	70 33.8%	20 9.7%	85 41.1%	32 15.5%
2. 高効率照明（LED等）の導入	209 100.0%	179 85.6%	13 6.2%	15 7.2%	2 1.0%
3. 蓄電池の導入	209 100.0%	42 20.1%	24 11.5%	114 54.5%	29 13.9%
4. 高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入	207 100.0%	37 17.9%	15 7.2%	74 35.7%	81 39.1%
5. 高効率空調機（ヒートポンプエアコン等）の導入	207 100.0%	58 28.0%	21 10.1%	76 36.7%	52 25.1%
6. 高効率給湯機（ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等）の導入	207 100.0%	20 9.7%	23 11.1%	90 43.5%	74 35.7%
7. 電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入	208 100.0%	77 37.0%	21 10.1%	78 37.5%	32 15.4%
8. 燃料電池自動車（FCEV）の導入	208 100.0%	22 10.6%	18 8.7%	109 52.4%	59 28.4%
9. 窓、屋根、外壁の断熱化	207 100.0%	63 30.4%	24 11.6%	97 46.9%	23 11.1%
10. FEMS※1、BEMS※2の導入	206 100.0%	8 3.9%	8 3.9%	74 35.9%	116 56.3%
11. ESCO事業※3の導入	207 100.0%	7 3.4%	8 3.9%	74 35.7%	118 57.0%
12. 屋上、壁面の緑化	207 100.0%	17 8.2%	9 4.3%	96 46.4%	85 41.1%
13. その他（ ）	18 100.0%	7 38.9%	4 22.2%	7 38.9%	- 0.0%

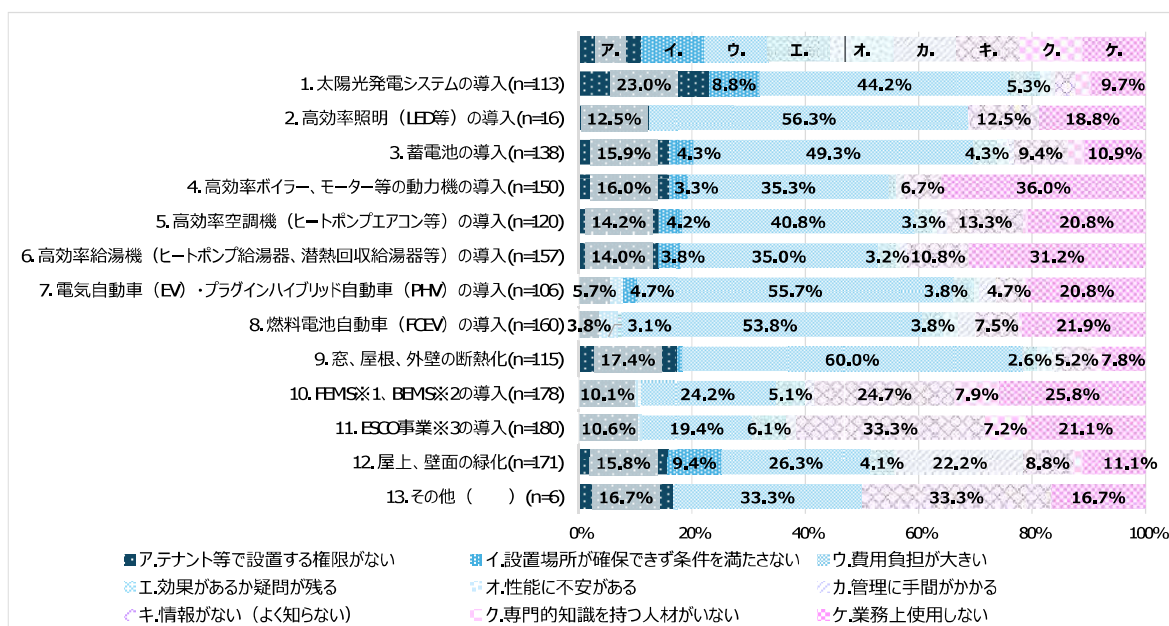


問3の結果概要

- 「1.既に導入済（事業所内で一部導入している場合も含む）」の回答率は『2.高効率照明（LED等）の導入』が85.6%と最も高い結果となった。
- 「2.今後、導入予定」は『3.蓄電池の導入』、『5.高効率空調機（ヒートポンプエアコン等）の導入』、『6.高効率給湯機（ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等）の導入』、『7.電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入』、『9.窓、屋根、外壁の断熱化』において10%以上と比較的高い結果となった。
- 「3.関心はあるが、導入予定なし」は『3.蓄電池の導入』、『8.燃料電池自動車（FCEV）の導入』において50%以上と高い結果となった。
- 「4.関心もなく、導入の予定なし」は『4.高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入』、『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』、『12.屋上、壁面の緑化』において40%以上と高い結果となった。

「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %	合計	テナント等で設置する権限がない	設置場所が確保できず条件を満たさない	費用負担が大きい	効果があるが疑問が残る	性能に不安がある	管理に手間がかかる	情報がない（よく知らない）	専門的知識を持つ人材がない	業務上使用しない
1. 太陽光発電システムの導入	113 100.0%	26 23.0%	10 8.8%	50 44.2%	6 5.3%	2 1.8%	1 0.9%	4 3.5%	3 2.7%	11 9.7%
2. 高効率照明（LED等）の導入	16 100.0%	2 12.5%	- 0.0%	9 56.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	2 12.5%	- 0.0%	3 18.8%
3. 蓄電池の導入	138 100.0%	22 15.9%	6 4.3%	68 49.3%	6 4.3%	3 2.2%	1 0.7%	13 9.4%	4 2.9%	15 10.9%
4. 高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入	150 100.0%	24 16.0%	5 3.3%	53 35.3%	2 1.3%	- 0.0%	2 1.3%	10 6.7%	- 0.0%	54 36.0%
5. 高効率空調機（ヒートポンプエアコン等）の導入	120 100.0%	17 14.2%	5 4.2%	49 40.8%	4 3.3%	1 0.8%	2 1.7%	16 13.3%	1 0.8%	25 20.8%
6. 高効率給湯機（ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等）の導入	157 100.0%	22 14.0%	6 3.8%	55 35.0%	5 3.2%	1 0.6%	2 1.3%	17 10.8%	- 0.0%	49 31.2%
7. 電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド自動車（PHV）の導入	106 100.0%	6 5.7%	5 4.7%	59 55.7%	4 3.8%	1 0.9%	3 2.8%	5 4.7%	1 0.9%	22 20.8%
8. 燃料電池自動車（FCEV）の導入	160 100.0%	6 3.8%	5 3.1%	86 53.8%	6 3.8%	4 2.5%	5 3.1%	12 7.5%	1 0.6%	35 21.9%
9. 窓、屋根、外壁の断熱化	115 100.0%	20 17.4%	1 0.9%	69 60.0%	3 2.6%	3 2.6%	2 1.7%	6 5.2%	2 1.7%	9 7.8%
10. FEMS※1、BEMS※2の導入	178 100.0%	18 10.1%	1 0.6%	43 24.2%	9 5.1%	- 0.0%	3 1.7%	44 24.7%	14 7.9%	46 25.8%
11. ESCO事業※3の導入	180 100.0%	19 10.6%	1 0.6%	35 19.4%	11 6.1%	- 0.0%	3 1.7%	60 33.3%	13 7.2%	38 21.1%
12. 屋上、壁面の緑化	171 100.0%	27 15.8%	16 9.4%	45 26.3%	7 4.1%	1 0.6%	38 22.2%	15 8.8%	3 1.8%	19 11.1%
13. その他（ ）	6 100.0%	1 16.7%	- 0.0%	2 33.3%	- 0.0%	- 0.0%	- 0.0%	2 33.3%	- 0.0%	1 16.7%



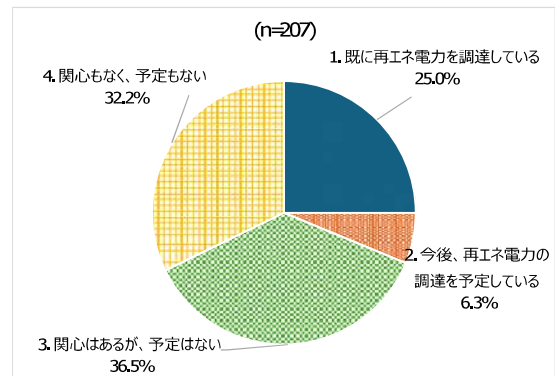
「3 関心はあるが、導入予定なし」「4 関心もなく、導入の予定なし」を回答した場合の理由の概要

- ・ いずれの項目においても「ウ.費用負担が大きい」の回答率が高い結果となった。
- ・ 『4.高効率ボイラー、モーター等の動力機の導入』、『5.高効率空調機(ヒートポンプエアコン等)の導入』、『6.高効率給湯機(ヒートポンプ給湯器、潜熱回収給湯器等)の導入』、『7.電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド自動車(PHV)の導入』、『8.燃料電池自動車(FCEV)の導入』、『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』は「ケ.業務上使用しない」が20%以上となった。
- ・ 『10.FEMS、BEMSの導入』、『11.ESCO事業の導入』は「キ.情報がない(よく知らない)」が20%以上となった。
- ・ 『1.太陽光発電システムの導入』、『9.窓、屋根、外壁の断熱化』は「ア.テナント等で設置する権限がない」が比較的高い結果となった。
- ・ 『12.屋上、壁面の緑化』は「カ.管理に手間がかかる」が22.2%と高い結果となった。

【問 4】

貴事業所では、再エネ電力を購入や発電することなどにより調達していますか。当てはまるものを 1つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 既に再エネ電力を調達している	52	25.0%
2. 今後、再エネ電力の調達を予定している	13	6.3%
3. 関心はあるが、予定はない	76	36.5%
4. 関心もなく、予定もない	67	32.2%
有効回答数	208	



問 4 の結果概要

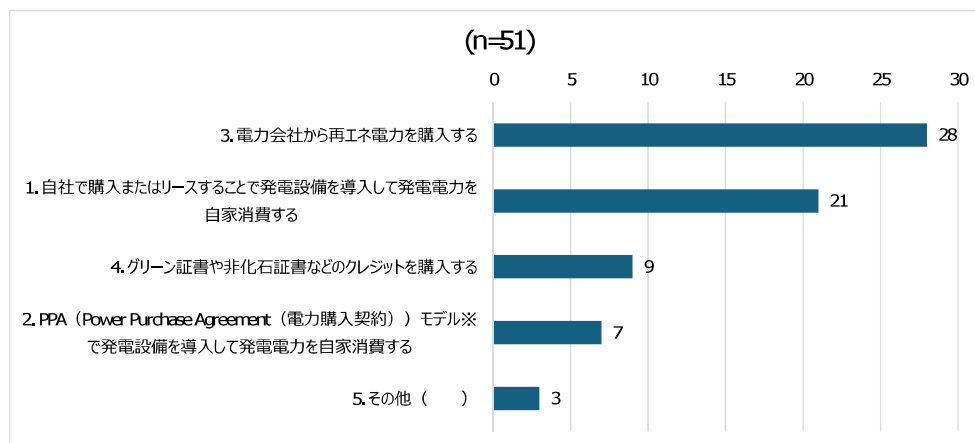
- ・ 「1.既に再エネ電力を調達している」の回答率は 25.0%となった。
- ・ 「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」の回答率は 6.3%と最も低い結果となった。
- ・ 「3.関心はあるが、予定はない」の回答率は 36.5%と最も高い結果となった。
- ・ 「4.関心もなく、予定もない」の回答率は 32.2%と全体の約 3 分の 1 となった。

【問 5】

問 4 で「1.既に再エネ電力を調達している」を回答された方は、どのように再エネ電力を調達していますか。問 4 で「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」、「3.関心はあるが、予定はない」を回答された方は、どのように再エネ電力を調達する予定または関心を持っていますか。当てはまるものを全て選んで○をつけてください。

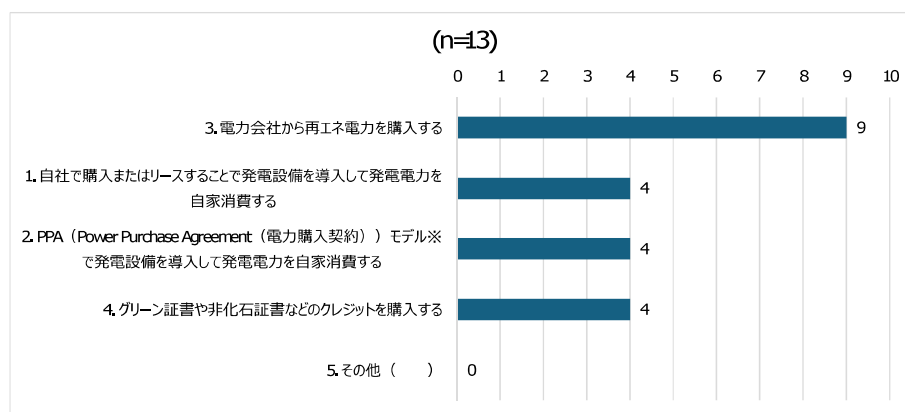
問 4 で「1.既に再エネ電力を調達している」を回答した場合の再エネ電力を調達方法

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	28	41.2%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	21	30.9%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	9	13.2%
2. PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費する	7	10.3%
5. その他（ ）	3	4.4%
合計	68	
有効回答数	51	



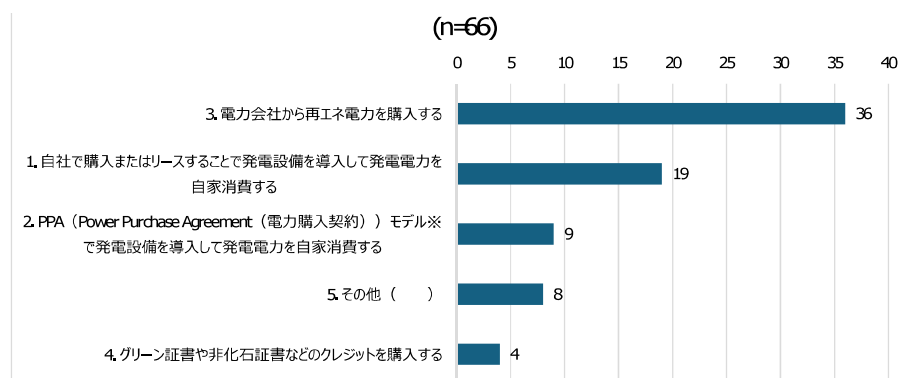
問 4 で「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」を回答した場合の再エネ電力の調達方法予定

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	9	42.9%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	4	19.0%
2. PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費する	4	19.0%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	4	19.0%
5. その他（ ）	0	0.0%
合計	21	
有効回答数	13	



問 4 で「3.関心はあるが、予定はない」を回答した場合の関心のある再エネ電力の調達方法

	回答数	割合
3. 電力会社から再エネ電力を購入する	36	47.4%
1. 自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する	19	25.0%
2. PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデル※で発電設備を導入して発電電力を自家消費する	9	11.8%
5. その他（ ）	8	10.5%
4. グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する	4	5.3%
合計	76	
有効回答数	66	

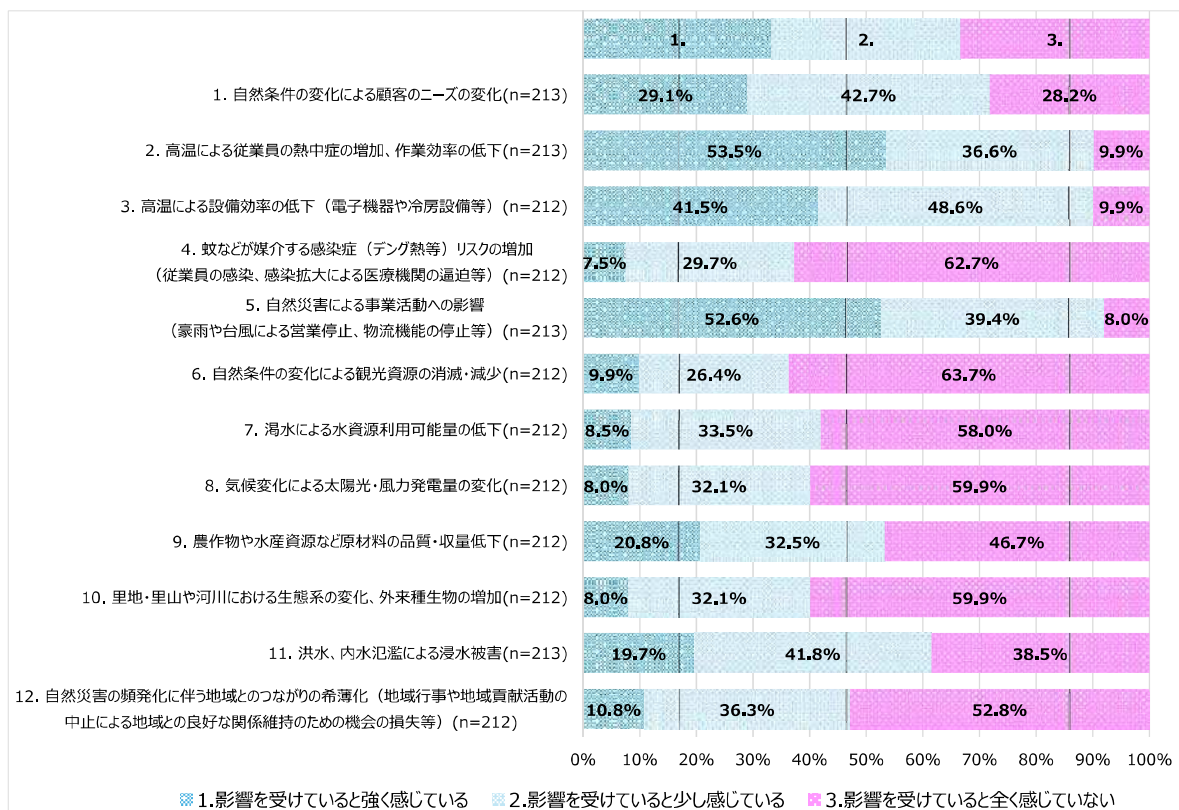


問 5 の結果概要

- 再エネ電力の調達状況、予定、関心いずれの調達方法についても『3.電力会社から再エネ電力を購入する』の回答率が最も高く 40%以上、次いで『1.自社で購入またはリースすることで発電設備を導入して発電電力を自家消費する』の回答率が高く 15%以上となった。
- 3 番目に多い調達方法は「1.既に再エネ電力を調達している」を回答した事業者は『4.グリーン証書や非化石証書などのクレジットを購入する』での調達が 13.2%となったが、「2.今後、再エネ電力の調達を予定している」、「3.関心はあるが、予定はない」を回答した事業者は『2.PPA（Power Purchase Agreement（電力購入契約））モデルで発電設備を導入して発電電力を自家消費する』が 3 番目に多い結果となった。

貴事業所が事業活動の中で受ける気候変動の影響について、貴事業所はどの程度影響を受けていると感じていますか。それぞれの項目について、当てはまるものを 1 つずつ 選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	影響を受けて いると強く感じ ている	影響を受けて いると少し感じ ている	影響を受けて いると全く感じ ていない
1. 自然条件の変化による顧客のニーズの変化	213 100.0%	62 29.1%	91 42.7%	60 28.2%
2. 高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下	213 100.0%	114 53.5%	78 36.6%	21 9.9%
3. 高温による設備効率の低下（電子機器や冷房設備等）	212 100.0%	88 41.5%	103 48.6%	21 9.9%
4. 蚊などが媒介する感染症（デング熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）	212 100.0%	16 7.5%	63 29.7%	133 62.7%
5. 自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）	213 100.0%	112 52.6%	84 39.4%	17 8.0%
6. 自然条件の変化による観光資源の消滅・減少	212 100.0%	21 9.9%	56 26.4%	135 63.7%
7. 渇水による水資源利用可能量の低下	212 100.0%	18 8.5%	71 33.5%	123 58.0%
8. 気候変化による太陽光・風力発電量の変化	212 100.0%	17 8.0%	68 32.1%	127 59.9%
9. 農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下	212 100.0%	44 20.8%	69 32.5%	99 46.7%
10. 里地・里山や河川における生態系の変化、外来種生物の増加	212 100.0%	17 8.0%	68 32.1%	127 59.9%
11. 洪水、内水氾濫による浸水被害	213 100.0%	42 19.7%	89 41.8%	82 38.5%
12. 自然災害の頻発化に伴う地域とのつながりの希薄化（地域行事や地域貢献活動の中止による地域との良好な関係維持のための機会の損失等）	212 100.0%	23 10.8%	77 36.3%	112 52.8%



問 6 の結果概要

- 「1.影響を受けていると強く感じている」の回答率が高い項目は『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』が 53.5%、『5.自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）』が 52.6%となった。
- 「3.影響を受けていると全く感じていない」の回答率が高い項目は『4.蚊などが媒介する感染症（デング熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）』が 62.7%、『6.自然条件の変化による観光資源の消滅・減少』が 63.7%となった。

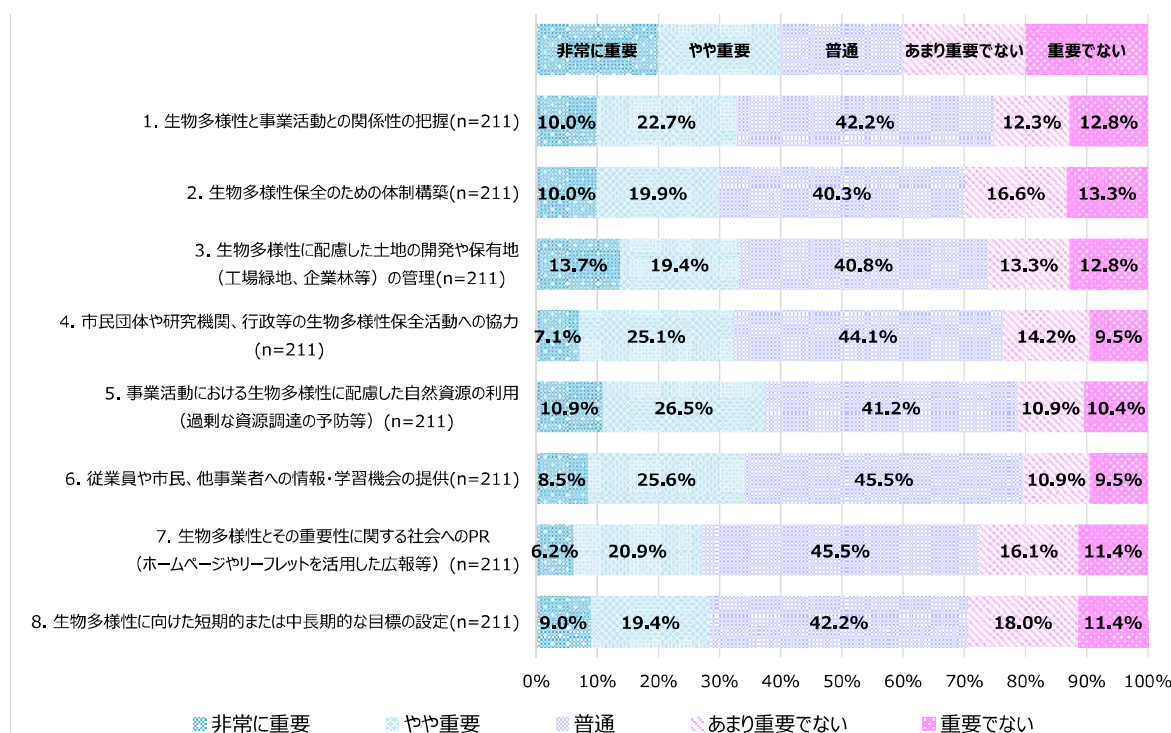
生物多様性について

生物多様性※保全に関する取組について、貴事業所はどの程度重要だと考えますか。それぞれの項目について、当てはまるものを 1 つずつ 選んで○をつけてください。

【問 7】

※生物多様性：多様な生物が複雑にかかわりあって様々な環境に合わせて生息・生育していること。

上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない
1. 生物多様性と事業活動との関係性の把握	211 100.0%	21 10.0%	48 22.7%	89 42.2%	26 12.3%	27 12.8%
2. 生物多様性保全のための体制構築	211 100.0%	21 10.0%	42 19.9%	85 40.3%	35 16.6%	28 13.3%
3. 生物多様性に配慮した土地の開発や保有地（工場緑地、企業林等）の管理	211 100.0%	29 13.7%	41 19.4%	86 40.8%	28 13.3%	27 12.8%
4. 市民団体や研究機関、行政等の生物多様性保全活動への協力	211 100.0%	15 7.1%	53 25.1%	93 44.1%	30 14.2%	20 9.5%
5. 事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達等の予防等）	211 100.0%	23 10.9%	56 26.5%	87 41.2%	23 10.9%	22 10.4%
6. 従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供	211 100.0%	18 8.5%	54 25.6%	96 45.5%	23 10.9%	20 9.5%
7. 生物多様性とその重要性に関する社会へのPR（ホームページやリーフレットを活用した広報等）	211 100.0%	13 6.2%	44 20.9%	96 45.5%	34 16.1%	24 11.4%
8. 生物多様性に向けた短期的または中長期的な目標の設定	211 100.0%	19 9.0%	41 19.4%	89 42.2%	38 18.0%	24 11.4%



問 7 の結果概要

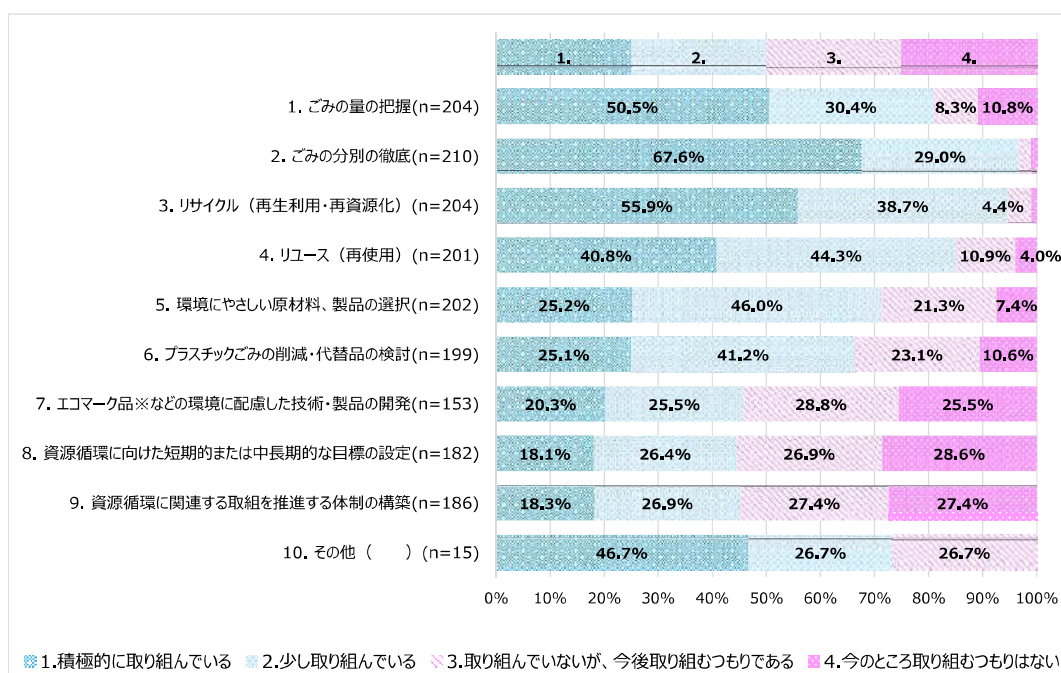
- 「1.非常に重要」の回答率は『3.生物多様性に配慮した土地の開発や保有地（工場緑地、企業林等）の管理』が 13.7%と最も高い結果となった。
- 「1.非常に重要」または「2.やや重要」と回答した割合が高い項目は『5.事業活動における生物多様性に配慮した自然資源の利用（過剰な資源調達等の予防等）』、『6.従業員や市民、他事業者への情報・学習機会の提供』となった。

- 一方、「5.重要でない」の回答率は『2.生物多様性保全のための体制構築』が 13.3%と最も高い結果となった。
- 「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」と回答した割合が高い項目は『2.生物多様性保全のための体制構築』(29.9%)、『8.生物多様性に向けた短期的または中長期的な目標の設定』(29.4%)となった。

資源循環について

【問 8】 貴事業所では、資源循環に関連してどのような取組を行っていますか。
それぞれの取組について、当てはまる取組状況を 1 つずつ 選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. ごみの量の把握	204 100.0%	103 50.5%	62 30.4%	17 8.3%	22 10.8%
2. ごみの分別の徹底	210 100.0%	142 67.6%	61 29.0%	5 2.4%	2 1.0%
3. リサイクル（再生利用・再資源化）	204 100.0%	114 55.9%	79 38.7%	9 4.4%	2 1.0%
4. リユース（再使用）	201 100.0%	82 40.8%	89 44.3%	22 10.9%	8 4.0%
5. 環境にやさしい原材料、製品の選択	202 100.0%	51 25.2%	93 46.0%	43 21.3%	15 7.4%
6. プラスチックごみの削減・代替品の検討	199 100.0%	50 25.1%	82 41.2%	46 23.1%	21 10.6%
7. エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発	153 100.0%	31 20.3%	39 25.5%	44 28.8%	39 25.5%
8. 資源循環に向けた短期的または中長期的な目標の設定	182 100.0%	33 18.1%	48 26.4%	49 26.9%	52 28.6%
9. 資源循環に関連する取組を推進する体制の構築	186 100.0%	34 18.3%	50 26.9%	51 27.4%	51 27.4%
10. その他（ ）	15 100.0%	7 46.7%	4 26.7%	4 26.7%	- 0.0%



問 8 の結果概要

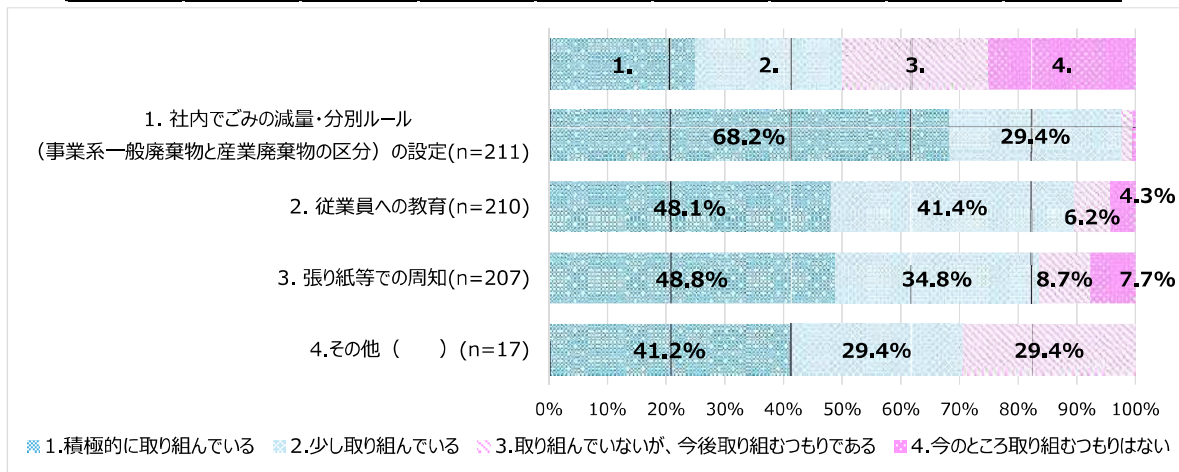
- 「1.積極的に取り組んでいる」と回答した割合が高い項目は『2.ごみの分別の徹底』が 67.6%と、『3.リサイクル（再生利用・再資源化）』で 55.9%なった。
- 「3.取り組んでいないが、今後取り組むつもりである」と回答した割合が高い項目は『7.エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発』が 28.8%、『9.資源循環に関連する取組を推進する体制の構築』が 27.4%となった。

【問 9】

貴事業所では、廃棄物の適正処理に関連してどのような取組を行っていますか。

それぞれの取組について、当てはまる取組状況を 1 つずつ 選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. 社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定	211 100.0%	144 68.2%	62 29.4%	4 1.9%	1 0.5%
2. 従業員への教育	210 100.0%	101 48.1%	87 41.4%	13 6.2%	9 4.3%
3. 張り紙等での周知	207 100.0%	101 48.8%	72 34.8%	18 8.7%	16 7.7%
4. その他（ ）	17 100.0%	7 41.2%	5 29.4%	5 29.4%	- 0.0%



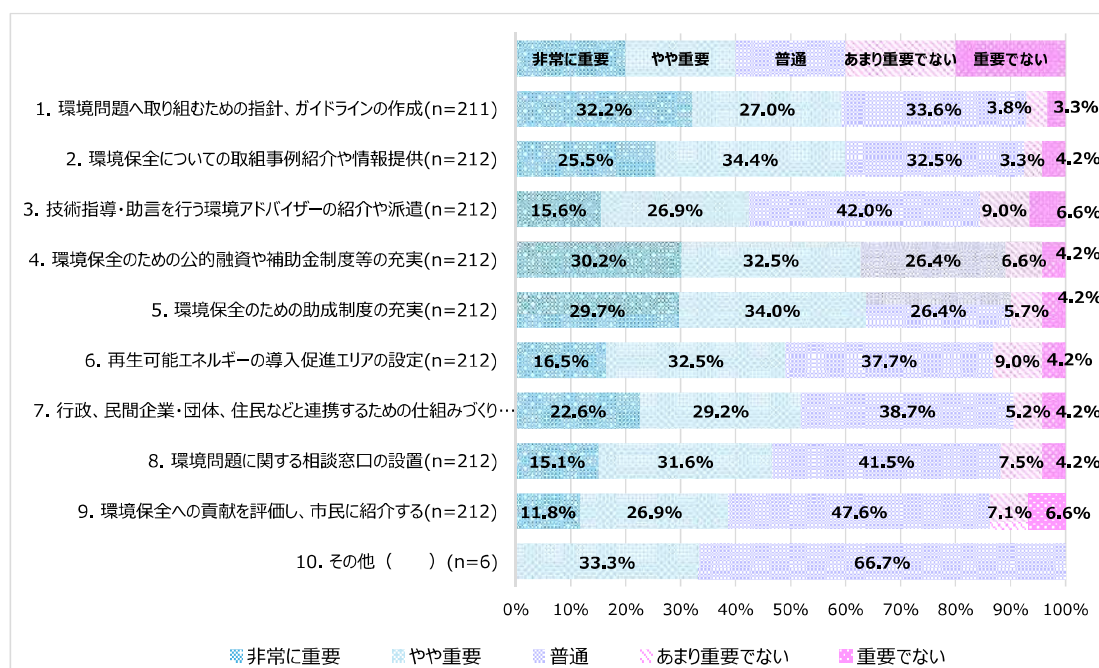
問 9 の結果概要

- 「1.積極的に取り組んでいる」の回答率は『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』が 68.2%と最も高い結果となった。
- 「1.積極的に取り組んでいる」と「2.少し取り組んでいる」をあわせた回答率は『1.社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定』において最も高く 97.6%、次いで『2.従業員への教育』で 89.5%、さらに『3.張り紙等での周知』で 83.6%と比較的取組が進んでいることが示された。

市の環境への取組について

環境保全に関して市が更に進める必要がある対策について、貴事業所はどの程度重要だ【問 10】と考えますか。それぞれの項目について、当てはまるものを 1 つずつ 選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %	合計	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない
1. 環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成	211 100.0%	68 32.2%	57 27.0%	71 33.6%	8 3.8%	7 3.3%
2. 環境保全についての取組事例紹介や情報提供	212 100.0%	54 25.5%	73 34.4%	69 32.5%	7 3.3%	9 4.2%
3. 技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣	212 100.0%	33 15.6%	57 26.9%	89 42.0%	19 9.0%	14 6.6%
4. 環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実	212 100.0%	64 30.2%	69 32.5%	56 26.4%	14 6.6%	9 4.2%
5. 環境保全のための助成制度の充実	212 100.0%	63 29.7%	72 34.0%	56 26.4%	12 5.7%	9 4.2%
6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	212 100.0%	35 16.5%	69 32.5%	80 37.7%	19 9.0%	9 4.2%
7. 行政、民間企業・団体、住民などと連携するための仕組みづくり	212 100.0%	48 22.6%	62 29.2%	82 38.7%	11 5.2%	9 4.2%
8. 環境問題に関する相談窓口の設置	212 100.0%	32 15.1%	67 31.6%	88 41.5%	16 7.5%	9 4.2%
9. 環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する	212 100.0%	25 11.8%	57 26.9%	101 47.6%	15 7.1%	14 6.6%
10. その他 ()	6 100.0%	- 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	- 0.0%	- 0.0%



問 10 の結果概要

- 「1.非常に重要」の回答率上位 2 項目は『1.環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成』(32.2%)、『4.環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実』(30.2%)となった。
- 「1.非常に重要」または「2.やや重要」と回答した割合が高い項目は融資や補助金、助成制度の充実に関する項目 (4.、5.) となった。

- ・ 一方、「5.重要でない」の回答率上位2項目は『3.技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣』（6.6%）、『9.環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する』（6.6%）となった。
- ・ 「5.重要でない」または「4.あまり重要ではない」と回答した割合が高い項目は『3.技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣』、『9.環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する』となった。

【問 11】 今後の豊田市の環境行政に対するご意見など（自由記入）

- ・ 結果（原文まま）
- ・ 市が主催する年間計画（参加型イベント等）を年度初めに展開いただけると、参加計画が立てやすい。
- ・ 業種ごとの経済効果が得られた取組事例（市外、国外含む）の紹介・情報提供を増やしてほしい。
- ・ 環境問題は、市民一人ひとりの意識と行動が大切なので教育や啓発活動が重要と思います。
- ・ 仕入先を意識した補助金とサポートをお願いしたい。
- ・ 環境保全に関する取組に対する補助金を増やしてほしい。
- ・ 補助金を増やしてほしい。
- ・ EV自動車への補助金制度がありますが、同様に、EVバイク導入にも補助金を付けて頂きたい。
- ・ 環境特区を制定して、モデル都市を通じた取り組みから成果のある取り組みを他のエリアへ広げてほしい（一企業の努力だけでは環境にかかるコストがなかなか捻出できないので）
- ・ 補助金及び助成金額は増やしてほしい
- ・ カーボンニュートラル等の補助金が製造業に限られており、弊社は建設業で補助金を活用できず自社で賄った。
- ・ エコ減税等メリットを打ち出してのアピール
- ・ 他部署では環境保全に対する重要性が低い気がする ・ 不要なポスターやチラシなどが一方的に届きゴミになる
- ・ どういったことを行えばどういった補助金が出るのかのリストが欲しい。
- ・ 環境保全、廃棄物対策、省エネ活動に関するセミナーや勉強会を開催して欲しい
- ・ 経営分岐点を割りそうな現在、最低賃金に対応するのが精一杯で環境問題にも貢献したい気持ちはあるが、倒産しては本末転倒だと苦慮しております。
- ・ 自然共生の分野で取り組める内容があれば検討を進めたく、情報があればご教示よろしくお願いします。

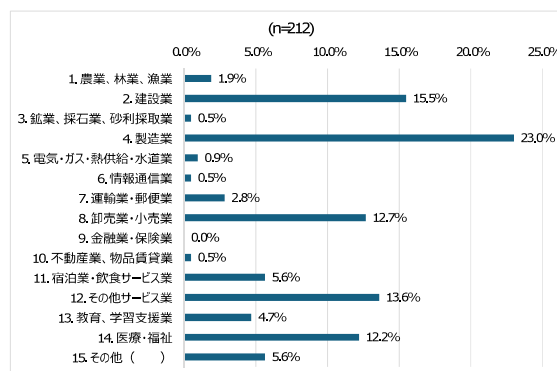
問 11 の結果概要

- ・ 市からの情報提供や補助金項目の追加・増加を希望する意見が多くなった。

貴事業所について

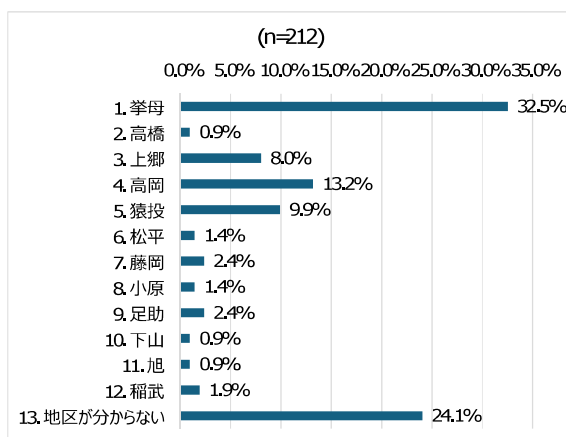
【問 12】 主な業種について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 農業、林業、漁業	4	1.9%
2. 建設業	33	15.5%
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	1	0.5%
4. 製造業	49	23.0%
5. 電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.9%
6. 情報通信業	1	0.5%
7. 運輸業・郵便業	6	2.8%
8. 卸売業・小売業	27	12.7%
9. 金融業・保険業	0	0.0%
10. 不動産業、物品賃貸業	1	0.5%
11. 宿泊業・飲食サービス業	12	5.6%
12. その他サービス業	29	13.6%
13. 教育、学習支援業	10	4.7%
14. 医療・福祉	26	12.2%
15. その他（ ）	12	5.6%
合計	213	
有効回答数	212	



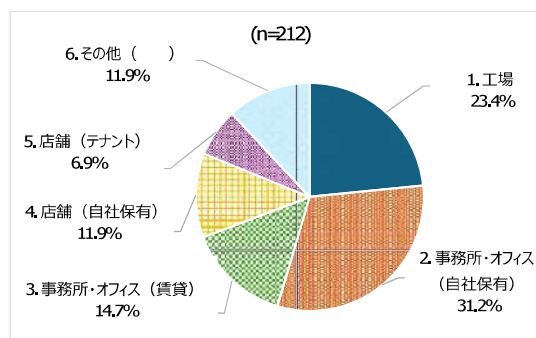
【問 13】 事業所の所在地について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 挙母	69	32.5%
2. 高橋	2	0.9%
3. 上郷	17	8.0%
4. 高岡	28	13.2%
5. 猿投	21	9.9%
6. 松平	3	1.4%
7. 藤岡	5	2.4%
8. 小原	3	1.4%
9. 足助	5	2.4%
10. 下山	2	0.9%
11. 旭	2	0.9%
12. 稲武	4	1.9%
13. 地区が分からない	51	24.1%
有効回答数	212	



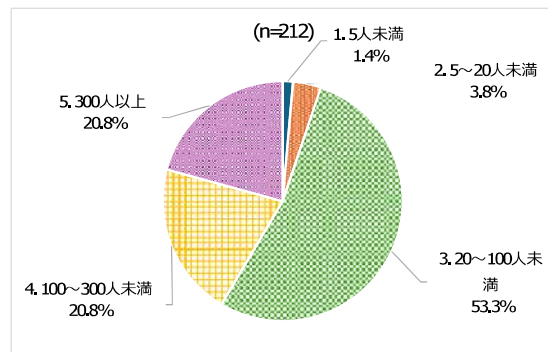
【問 14】 事業所の主な事業形態について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 工場	51	23.4%
2. 事務所・オフィス（自社保有）	68	31.2%
3. 事務所・オフィス（賃貸）	32	14.7%
4. 店舗（自社保有）	26	11.9%
5. 店舗（テナント）	15	6.9%
6. その他（ ）	26	11.9%
合計	218	
有効回答数	212	



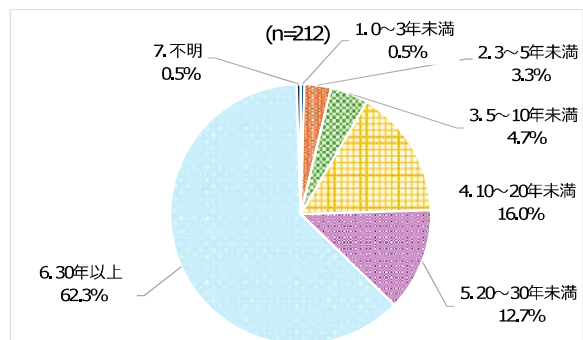
【問 15】 従業員数（役員、パート、アルバイト等含む事業所内で実際に働いている人数）について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

	回答数	割合
1. 5人未満	3	1.4%
2. 5～20人未満	8	3.8%
3. 20～100人未満	113	53.3%
4. 100～300人未満	44	20.8%
5. 300人以上	44	20.8%
有効回答数	212	



【問 16】 事業年数（支店や工場などは豊田市で事業を始めた年数）について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

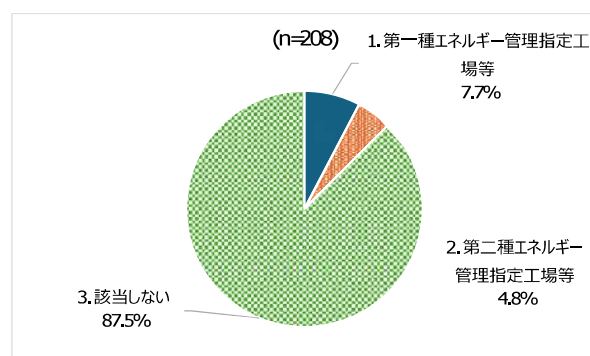
	回答数	割合
1. 0～3年未満	1	0.5%
2. 3～5年未満	7	3.3%
3. 5～10年未満	10	4.7%
4. 10～20年未満	34	16.0%
5. 20～30年未満	27	12.7%
6. 30年以上	132	62.3%
7. 不明	1	0.5%
有効回答数	212	



【問 17】 エネルギー指定管理※の有無について、当てはまるものを 1 つ選んで○をつけてください。

※省エネ法に基づく年度間エネルギー使用量（原油換算値kℓ）による区分

	回答数	割合
1. 第一種エネルギー管理指定工場等	16	7.7%
2. 第二種エネルギー管理指定工場等	10	4.8%
3. 該当しない	182	87.5%
有効回答数	208	



3.3 詳細集計結果

以下にクロス集計結果を示す。

表 2 クロス集計一覧

No.	表頭	表側
1	問 1（環境に関連する取組状況）	問 12（業種）
2	問 1（環境に関連する取組状況）	問 15（従業員数）
3	問 4（再エネ電力調達状況）	問 10（市の施策重要度）の 6.再エネ導入促進 エリアの設定
4	問 6（気候変動影響）	問 12（業種）

(1) 業種と環境に関連する取組状況の関係（問1×問12のクロス集計）

結果概要（回答者数が10件未満の業種を除く）

【環境教育】

- いずれの環境に関連する取組項目についても「14.医療・福祉」の取り組んでいる割合が他の業種と比較して低い傾向が示された。

【エネルギー】

- 『4.省エネルギー機器を導入する』、『5.再生可能エネルギー設備を導入する』について「11.宿泊業・飲食サービス業」、「12.その他サービス業」、「14.医療・福祉」、「15.その他」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『6.従業員へ節電を呼びかける』、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』について業種による取組状況の傾向は見られない。
- 『8.従業員へのテレワークの推奨』については他の取組よりも取組状況が業種により大きく差が出ている。

			問1 環境に関連する取組状況						
			合計	環境教育					
				1, 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	2, 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントを開催する	3, 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う			
			取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	
	2. 建設業	(n=33)	71.9%	28.1%	15.6%	84.4%	3.1%	96.9%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	###	0.0%	###	
	4. 製造業	(n=49)	89.8%	10.2%	26.5%	73.5%	14.3%	85.7%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	16.7%	83.3%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	70.4%	29.6%	11.1%	88.9%	18.5%	81.5%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	66.7%	33.3%	16.7%	83.3%	41.7%	58.3%	
	12. その他サービス業	(n=29)	58.6%	41.4%	13.8%	86.2%	24.1%	75.9%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	30.0%	70.0%	20.0%	80.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	44.0%	56.0%	3.8%	96.2%	3.8%	96.2%	
	15. その他()	(n=12)	41.7%	58.3%	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%	

			問1 環境に関連する取組状況														
			合計	4. 省エネルギー機器を導入する		5. 再生可能エネルギー設備を導入する		6. 従業員へ節電を呼びかける		7. 従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）		8. 従業員へのテレワークの推奨		9. エコドライブ運動の実践を呼びかける		10. ウォームビズやクールビズの服装を呼びかける	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問12業種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%
	2. 建設業	(n=33)	87.1%	12.9%	41.9%	58.1%	96.9%	3.1%	16.1%	83.9%	36.6%	63.4%	78.1%	21.9%	87.5%	12.5%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	###	0.0%	###	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	4. 製造業	(n=49)	98.0%	2.0%	73.5%	26.5%	100.0%	0.0%	30.6%	69.4%	55.1%	44.9%	79.6%	20.4%	87.8%	12.2%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%	14.3%	85.7%	83.3%	16.7%	66.7%	33.3%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	88.9%	11.1%	48.1%	51.9%	96.3%	3.7%	29.6%	70.4%	37.5%	62.5%	63.0%	37.0%	85.2%	14.8%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	58.3%	41.7%	25.0%	75.0%	100.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	50.0%	50.0%	
	12. その他サービス業	(n=29)	65.5%	34.5%	20.7%	79.3%	96.6%	3.4%	20.7%	79.3%	20.0%	80.0%	65.5%	34.5%	93.1%	6.9%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	30.0%	70.0%	0.0%	100.0%	40.0%	60.0%	80.0%	20.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	73.1%	26.9%	24.0%	76.0%	100.0%	0.0%	15.4%	84.6%	8.0%	92.0%	42.3%	57.7%	57.7%	42.3%	
	15. その他（ ）	(n=12)	63.6%	36.4%	9.1%	90.9%	91.7%	8.3%	8.3%	91.7%	18.2%	81.8%	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%	

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」または「5.該当なし」

* 「無回答」を除く

結果概要（回答者数が10件未満の業種を除く）

【緑・生き物】

- 業種によって取組割合の差が大きい取組は『11.水辺や緑の保全活動に参加する』、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』、『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』である。

【ごみの減量】

- 『16.ペーパーレス化を推進する』、『20.文房具等の消耗品を節約する』について「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。『18.自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む』については「2.建設業」、「12.その他サービス業」、「13.教育、学習支援業」、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『17.古紙分別を行い、資源化している』、『19.事務所で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する』について業種による取組状況の傾向は見られない。

			問1 環境に関連する取組状況										
			緑・生き物										
			合計	11. 水辺や緑の保全活動に参加する		12. 花や木の苗を敷地内に植える		13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する		14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う		15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問 1 2 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	2. 建設業	(n=33)	43.8%	56.3%	78.1%	21.9%	59.4%	40.6%	40.6%	59.4%	53.1%	46.9%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	0.0%	###	100.0%	0.0%	0.0%	###	0.0%	###	0.0%	###	
	4. 製造業	(n=49)	59.2%	40.8%	81.6%	18.4%	47.9%	52.1%	36.7%	63.3%	61.2%	38.8%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	33.3%	66.7%	50.0%	50.0%	16.7%	83.3%	0.0%	100.0%	16.7%	83.3%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	37.0%	63.0%	55.6%	44.4%	48.1%	51.9%	7.4%	92.6%	29.6%	70.4%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	33.3%	66.7%	83.3%	16.7%	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	25.0%	75.0%	
	12. その他サービス業	(n=29)	37.9%	62.1%	62.1%	37.9%	48.3%	51.7%	31.0%	69.0%	31.0%	69.0%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	50.0%	50.0%	90.0%	10.0%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	50.0%	50.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	20.0%	80.0%	96.2%	3.8%	46.2%	53.8%	8.0%	92.0%	15.4%	84.6%	
	15. その他（ ）	(n=12)	27.3%	72.7%	36.4%	63.6%	63.6%	36.4%	18.2%	81.8%	36.4%	63.6%	

			問1 環境に関連する取組状況										
			合計	ごみの減量									
				16. ペーパーレス化を推進する		17. 古紙分別を行い、資源化している		18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む		19. 事務所で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する		20. 文房具等の消耗品を節約する	
			取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
問 1 2 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	100.0%	0.0%	
	2. 建設業	(n=33)	93.8%	6.3%	100.0%	0.0%	37.5%	62.5%	71.9%	28.1%	90.6%	9.4%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	4. 製造業	(n=49)	100.0%	0.0%	91.8%	8.2%	69.4%	30.6%	73.5%	26.5%	93.9%	6.1%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	-	-	-	-	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	83.3%	16.7%	100.0%	0.0%	16.7%	83.3%	50.0%	50.0%	83.3%	16.7%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	100.0%	0.0%	92.6%	7.4%	77.8%	22.2%	74.1%	25.9%	88.9%	11.1%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	58.3%	41.7%	91.7%	8.3%	66.7%	33.3%	
	12. その他サービス業	(n=29)	89.7%	10.3%	86.2%	13.8%	44.8%	55.2%	58.6%	41.4%	89.7%	10.3%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	100.0%	0.0%	20.0%	80.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	88.5%	11.5%	88.5%	11.5%	23.1%	76.9%	73.1%	26.9%	96.2%	3.8%	
	15. その他（ ）	(n=12)	91.7%	8.3%	91.7%	8.3%	25.0%	75.0%	58.3%	41.7%	91.7%	8.3%	

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」または「5.該当なし」

*「無回答」を除く

結果概要（回答者数が10件未満の業種を除く）

【その他】

- 『21.地域の美化活動へ参加する』について「4.製造業」で取り組んでいる割合が高く、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『22.大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する』については「11.宿泊業・飲食サービス業」で取り組んでいる割合が低い。
- 『23.地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する』について「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が高く、「11.宿泊業・飲食サービス業」や「15.その他」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。
- 『24.グリーン購入を進める』について「13.教育、学習支援業」で取り組んでいる割合が高く、「14.医療・福祉」で取り組んでいる割合が低い傾向が示された。

			問1 環境に関連する取組状況								
			合計	その他							
				21. 地域の美化活動へ参加する		22. 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する		23. 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する		24. グリーン購入を進める	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問 1 2 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	
	2. 建設業	(n=33)	78.1%	21.9%	78.1%	21.9%	53.1%	46.9%	71.9%	28.1%	
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	-	-	100.0%	0.0%	-	-	-	-	
	4. 製造業	(n=49)	81.6%	18.4%	93.9%	6.1%	61.2%	38.8%	79.6%	20.4%	
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	83.3%	16.7%	66.7%	33.3%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	66.7%	33.3%	61.5%	38.5%	55.6%	44.4%	42.3%	57.7%	
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	58.3%	41.7%	25.0%	75.0%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	
	12. その他サービス業	(n=29)	55.2%	44.8%	55.2%	44.8%	55.2%	44.8%	35.7%	64.3%	
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	70.0%	30.0%	60.0%	40.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%	
	14. 医療・福祉	(n=26)	50.0%	50.0%	34.6%	65.4%	73.1%	26.9%	15.4%	84.6%	
	15. その他（ ）	(n=12)	50.0%	50.0%	54.5%	45.5%	45.5%	54.5%	25.0%	75.0%	

凡例 取り組んでいる：「1.積極的に取り組んでいる」または「2.少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「3.あまり取り組んでいない」または「4.まったく取り組んでいない」または「5.該当なし」

* 「無回答」を除く

(2) 環境に関連する取組状況と従業員数の関係（問1×問15のクロス集計）

結果概要（回答者数が10件未満の項目を除く）

【環境教育】

- 『1.従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う』について、「5,300人以上」の事業所の取り組んでいる割合が最も高く、「3.20～100人未満」と「4,100～300人未満」の事業所の取り組んでいる割合は同程度となった。
- 『2.事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する』、『3.小中学校から環境学習の受け入れなどを行う』について、従業員数が多いほど取り組んでいる割合が高い傾向が示された。

			問1 環境に関連する取組状況								
			合計	環境教育							
				1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う		2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する		3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う			
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない		
従業員数	1. 5人未満	(n=3)	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%			
	2. 5～20人未満	(n=8)	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	25.0%	75.0%			
	3. 20～100人未満	(n=113)	65.5%	34.5%	11.5%	88.5%	12.4%	87.6%			
	4. 100～300人未満	(n=44)	65.1%	34.9%	18.6%	81.4%	14.0%	86.0%			
	5. 300人以上	(n=44)	93.2%	6.8%	38.6%	61.4%	25.0%	75.0%			

結果概要（回答者数が10件未満の項目を除く）

【エネルギー】

- いずれの項目についても「5,300人以上」の事業所の取り組んでいる割合が最も高く、「3.20～100人未満」と「4,100～300人未満」の事業所の取り組んでいる割合は同程度となった。

		問1 環境に関連する取組状況																	
		合計		エネルギー		4. 省エネルギー機器を導入する		5. 再生可能エネルギー設備を導入する		6. 従業員へ節電を呼びかける		7. 従業員のエコ通勤の実施 (ノーマイカーデーやパーク アンドライドなど)		8. 従業員へのテレワークの推奨		9. エコドライブ運動の実践を呼 びかける		10. ウォームビズやクールビズの 服装を呼びかける	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
従業員数	1. 5人未満	(n=3)	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%			
	2. 5～20人未満	(n=8)	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	100.0%	0.0%	25.0%	75.0%	37.5%	62.5%	50.0%	50.0%	87.5%	12.5%			
	3. 20～100人未満	(n=113)	79.6%	20.4%	37.5%	62.5%	98.2%	1.8%	17.0%	83.0%	27.4%	72.6%	61.1%	38.9%	78.8%	21.2%			
	4. 100～300人未満	(n=44)	78.6%	21.4%	35.7%	64.3%	95.5%	4.5%	18.2%	81.8%	29.5%	70.5%	59.1%	40.9%	75.0%	25.0%			
	5. 300人以上	(n=44)	97.7%	2.3%	72.7%	27.3%	100.0%	0.0%	38.6%	61.4%	68.2%	31.8%	81.8%	18.2%	93.2%	6.8%			

結果概要（回答者数が10件未満の項目を除く）

【緑・生き物】

- 『11.水辺や緑の保全活動に参加する』、『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』について、従業員数が多いほど取り組んでいる割合が高い傾向が示された。
- 『12.花や木の苗を敷地内に植える』について、「4,100～300人未満」の事業所の取り組んでいる割合が最も高い結果となった。
- 『13.敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する』について、「3.20～100人未満」と「4,100～300人未満」、「5,300人以上」の事業所の取り組んでいる割合は同程度となった。
- 『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』について、「5,300人以上」の事業所の取り組んでいる割合が最も高いが、「3.20～100人未満」よりも「4,100～300人未満」の事業所の取り組んでいる割合が低い結果となった。

			問1 環境に関連する取組状況										
			合計	緑・生き物									
				11. 水辺や緑の保全活動に参加する		12. 花や木の苗を敷地内に植える		13. 敷地内で外来植物を見つけた際は駆除する		14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う		15. 事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
従業員数	1. 5人未満	(n=3)	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
	2. 5～20人未満	(n=8)	25.0%	75.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	25.0%	75.0%	
	3. 20～100人未満	(n=113)	33.6%	66.4%	69.9%	30.1%	48.2%	51.8%	29.2%	70.8%	36.3%	63.7%	
	4. 100～300人未満	(n=44)	46.5%	53.5%	86.0%	14.0%	51.2%	48.8%	16.3%	83.7%	37.2%	62.8%	
	5. 300人以上	(n=44)	67.4%	32.6%	81.8%	18.2%	54.5%	45.5%	41.9%	58.1%	65.9%	34.1%	

結果概要（回答者数が 10 件未満の項目を除く）

【ごみの減量】

- 『16.ペーパーレス化を推進する』、『17.古紙分別を行い、資源化している』、『20.文房具等の消耗品を節約する』について、「3.20～100 人未満」と「4.100～300 人未満」、「5.300 人以上」の事業所の取り組んでいる割合は同程度となった。
- 『18.自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む』について、「5.300 人以上」の事業所の取り組んでいる割合が最も高いが、「3.20～100 人未満」よりも「4.100～300 人未満」の事業所の取り組んでいる割合が低い結果となった。
- 『19.事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する』について、「4.100～300 人未満」の事業所の取り組んでいる割合が最も高く、「3.20～100 人未満」よりも「5.300 人以上」の事業所の取り組んでいる割合が低い結果となった。

		問1 環境に関連する取組状況											
		ごみの減量											
		合計	16. ペーパーレス化を推進する		17. 古紙分別を行い、資源化している		18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む		19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する		20. 文房具等の消耗品を節約する		
			取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	
従業員	1. 5人未満	(n=3)	66.7%	33.3%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	66.7%	33.3%	
	2. 5～20人未満	(n=8)	87.5%	12.5%	85.7%	14.3%	25.0%	75.0%	50.0%	50.0%	87.5%	12.5%	
	3. 20～100人未満	(n=113)	92.0%	8.0%	91.7%	8.3%	51.3%	48.7%	69.9%	30.1%	89.4%	10.6%	
	4. 100～300人未満	(n=44)	90.9%	9.1%	91.3%	8.7%	40.9%	59.1%	72.7%	27.3%	86.4%	13.6%	
	5. 300人以上	(n=44)	97.7%	2.3%	97.7%	2.3%	61.4%	38.6%	68.2%	31.8%	95.5%	4.5%	

結果概要（回答者数が 10 件未満の項目を除く）

【その他】

- いずれの項目についても、「5.300 人以上」の事業所の取り組んでいる割合が最も高く、「3.20～100 人未満」と「4.100～300 人未満」の事業所の取り組んでいる割合は同程度となった。

		問1 環境に関連する取組状況									
		その他									
		合計		21, 地域の美化活動へ参加する		22, 大気水質の保全、騒音や振動の発生を抑制する		23, 地域の景観を損なわないように広告物や看板設置の際に配慮する		24, グリーン購入を進める	
				取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
従業員	1. 5人未満	(n=3)		33.3%	66.7%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
	2. 5～20人未満	(n=8)		50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	37.5%	62.5%	37.5%	62.5%
	3. 20～100人未満	(n=113)		63.7%	36.3%	58.0%	42.0%	56.6%	43.4%	48.6%	51.4%
	4. 100～300人未満	(n=44)		68.2%	31.8%	60.5%	39.5%	55.8%	44.2%	47.7%	52.3%
	5. 300人以上	(n=44)		84.1%	15.9%	90.9%	9.1%	75.0%	25.0%	70.5%	29.5%

凡例 取り組んでいる：「積極的に取り組んでいる」または「少し取り組んでいる」

取り組んでいない：「取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「今のところ取り組むつもりはない」または「該当しない」＊「無回答」を除く

(3) 再エネ導入促進エリアの設定重要度と再エネ電力調達状況の関係（問4×問10 6.のクロス集計）

結果概要

- 市の施策において『6.再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定』を重要視する事業者は再エネ電力の調達状況について『2.今後、再エネ電力の調達を予定している』割合が10.0%と重要視しない事業者よりも高い結果となった。

				問4 再エネ電力調達状況			
			合計	1. 既に再エネ電力を調達している	2. 今後、再エネ電力の調達を予定している	3. 関心はあるが、予定はない	4. 関心もなく、予定もない
問10 市の施策重要度	6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	重要である	(n=104)	33.0%	10.0%	37.0%	20.0%
		重要ではない	(n=108)	17.8%	2.8%	35.5%	43.9%

凡例 重要である：「1.非常に重要」または「2.やや重要」

重要ではない：「3.普通」、「4.あまり重要ではない」または「5.重要でない」 *「無回答」を除く

(4) 業種と気候変動影響の状況の関係 (問 6×問 12 のクロス集計)

結果概要

- 『1.自然条件の変化による顧客のニーズの変化』、『8.気候変化による太陽光・風力発電量の変化』、『12.自然災害の頻発化に伴う地域とのつながりの希薄化（地域行事や地域貢献活動の中止による地域との良好な関係維持のための機会の損失等）』については「4.製造業」において他業種と比較して「影響を受けていると強く感じている」割合が高い。
- 『2.高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下』、『11.洪水、内水氾濫による浸水被害』については「2.建設業」において他業種と比較して「影響を受けていると強く感じている」割合が高い。
- 「11.宿泊業・飲食サービス業」と「12.その他サービス業」は気候変動の「影響を受けていると強く感じている」項目が類似しており、『3.高温による設備効率の低下（電子機器や冷房設備等）』、『4.蚊などが媒介する感染症（デング熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）』、『6.自然条件の変化による観光資源の消滅・減少』、『7.渇水による水資源利用可能量の低下』、『9.農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下』、『11.洪水、内水氾濫による浸水被害』の割合が他業種よりも高い傾向が示された。

		問6 気候変動影響	気候変動影響																		
			合計	1、自然条件の変化による顧客のニーズの変化			2、高温による従業員の熱中症の増加、作業効率の低下			3、高温による設備効率の低下（電子機器や冷房設備等）			4、蚊などが媒介する感染症（デング熱等）リスクの増加（従業員の感染、感染拡大による医療機関の逼迫等）			5、自然災害による事業活動への影響（豪雨や台風による営業停止、物流機能の停止等）			6、自然条件の変化による観光資源の消滅、減少		
				影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない
問 12 業 種	1、農業、林業、漁業	(n=4)	0.0%	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%		
	2、建設業	(n=33)	25.0%	59.4%	15.6%	68.8%	31.3%	0.0%	21.9%	68.8%	9.4%	9.4%	31.3%	59.4%	50.0%	40.6%	9.4%	15.6%	31.3%	53.1%	
	3、鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	4、製造業	(n=49)	42.9%	40.8%	16.3%	61.2%	32.7%	6.1%	47.9%	47.9%	4.2%	2.0%	32.7%	65.3%	57.1%	38.8%	4.1%	6.1%	24.5%	69.4%	
	5、電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	6、情報通信業	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	7、運輸業・郵便業	(n=6)	33.3%	50.0%	16.7%	66.7%	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	66.7%	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	83.3%	
	8、卸売業・小売業	(n=27)	29.6%	48.1%	22.2%	37.0%	55.6%	7.4%	40.7%	37.0%	22.2%	3.7%	25.9%	70.4%	48.1%	3.7%	3.7%	33.3%	63.0%		
	9、金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	10、不動産業、物品賃貸業	(n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	11、宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	33.3%	25.0%	41.7%	58.3%	16.7%	25.0%	58.3%	33.3%	8.3%	16.7%	16.7%	66.7%	75.0%	25.0%	0.0%	41.7%	16.7%	41.7%	
	12、その他サービス業	(n=29)	34.5%	41.4%	24.1%	51.7%	41.4%	6.9%	55.2%	34.5%	10.3%	21.4%	32.1%	46.4%	55.2%	41.4%	3.4%	21.4%	39.3%	39.3%	
	13、教育、学習支援業	(n=10)	20.0%	30.0%	50.0%	40.0%	50.0%	10.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	10.0%	20.0%	70.0%	10.0%	10.0%	0.0%	30.0%	70.0%	
	14、医療・福祉	(n=26)	11.5%	34.6%	53.8%	38.5%	30.8%	30.8%	30.8%	61.5%	7.7%	7.7%	38.5%	53.8%	38.5%	42.3%	19.2%	3.8%	11.5%	84.6%	
	15、その他（ ）	(n=12)	16.7%	25.0%	58.3%	41.7%	41.7%	16.7%	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	25.0%	75.0%	50.0%	25.0%	0.0%	33.3%	66.7%		

		問6 気候変動影響																		
		合計	7. 渇水による水資源利用可能量の低下			8. 気候変化による太陽光・風力発電量の変化			9. 農作物や水産資源など原材料の品質・収量低下			10. 里地・里山や河川における生態系の変化、外来種生物の増加			11. 洪水、内水氾濫による浸水被害			12. 自然災害の頻発に伴う地域とつながりの希薄化（地域行事や地域貢献活動の中止による地域の良好な関係維持のための機会の損失等）		
			影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない	影響を受けていると強く感じている	影響を受けていると少し感じている	影響を受けていない
問 12 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	2. 建設業	(n=33)	6.3%	43.8%	50.0%	6.3%	43.8%	50.0%	21.9%	28.1%	50.0%	9.4%	37.5%	53.1%	21.9%	50.0%	28.1%	9.4%	46.9%	43.8%
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	4. 製造業	(n=49)	10.2%	28.6%	61.2%	18.4%	40.8%	40.8%	16.3%	30.6%	53.1%	8.2%	26.5%	65.3%	18.4%	46.9%	14.3%	30.6%	58.1%	58.1%
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	6. 情報通信業	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	16.7%	16.7%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	83.3%
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	7.4%	18.5%	74.1%	3.7%	33.3%	63.0%	25.9%	29.6%	44.4%	7.4%	29.6%	63.0%	18.5%	25.9%	55.6%	3.7%	33.3%	63.0%
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	83.3%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	8.3%	66.7%	16.7%	25.0%	58.3%	8.3%	41.7%	50.0%
	12. その他サービス業	(n=29)	10.7%	46.4%	42.9%	3.6%	28.6%	67.9%	21.4%	48.4%	32.1%	3.6%	60.7%	35.7%	20.7%	48.3%	31.0%	14.3%	28.6%	57.1%
	13. 教育・学習支援業	(n=10)	10.0%	20.0%	70.0%	0.0%	30.0%	70.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	50.0%	40.0%	10.0%	50.0%	0.0%	30.0%	70.0%	0.0%
	14. 医療・福祉	(n=26)	7.7%	30.8%	61.5%	11.5%	11.5%	76.9%	11.5%	19.2%	69.2%	3.8%	11.5%	84.6%	19.2%	38.5%	42.3%	11.5%	46.2%	42.3%
	15. その他（ ）	(n=12)	8.3%	33.3%	58.3%	0.0%	41.7%	58.3%	33.3%	25.0%	41.7%	0.0%	33.3%	66.7%	16.7%	41.7%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%

* 「わからない」「無回答」を除く

3.3.1 指標・経年比較

以下に経年比較・指標の算定結果を示す。

指標値「環境に関連する取組を行っている事業者の割合」は令和 6 年度において平成 28 年度、令和 2 年度から大きく向上した。要因として、後述の経年比較分析のとおり「1.積極的に取り組んでいる」の割合が大きく向上しているためである。全事業者の状況を把握するための回答数（約 380 件）を得られておらず（213 件）、過年度と比較して回答者に占める取組意識の高い事業者の割合が高いことが影響していると考えられるが、中小規模事業所においても取組は進んでいると言える。

（事業者の指標一覧）

項目	内容	H28 年度	R2 年度	R6 年度	比較
		n=704	n=1,070	n=213	
環境に関連する取組を行っている事業者の割合	環境取組項目のうち、過半数で「1.積極的に取り組んでいる」又は「2.少し取り組んでいる」と回答した事業者の割合	35.5%	30.6%	※51.2%	↗
生物多様性保全活動に取り組む企業の割合	「地域の生物の生息環境の保全活動を行う」という項目に関し、「積極的に取り組んでいる」又は「少し取り組んでいる」と回答した事業者の割合	15.1%	14.6%	28.9%	↗

※過年度実施時アンケートと同じ項目（項目番号 1～4、7、11、14～19、21～24）のみでの算定結果。全項目では 62.0%となる。

<事業所規模による分析>

指標値「環境に関連する取組を行っている事業者の割合」について事業所規模（常用雇用者数）により区分する場合、以下の結果となる。この結果から、大規模事業所における取組状況が中小規模事業所よりも進んでおり、大規模事業所の取組状況が指標値を押し上げていると読み取れる。

項目	内容	R6 年度			比較
		大規模 n=44	中小規模 n=169	全体 n=213	
環境に関連する取組を行っている事業者の割合	環境取組項目のうち、過半数で「1.積極的に取り組んでいる」又は「2.少し取り組んでいる」と回答した事業者の割合	※77.3%	※44.4%	※51.2%	↗

※過年度実施時アンケートと同じ項目（項目番号 1～4、7、11、14～19、21～24）のみでの算定結果。全項目では大規模事業所は 88.6%、中小規模事業所は 55.0%、全体で 62.0%となる。

(参考) アンケート対象者、回答者の内訳

	大規模事業者	中小規模事業者	全体
アンケート対象者数	58	442	500
回答者数	44	169	213

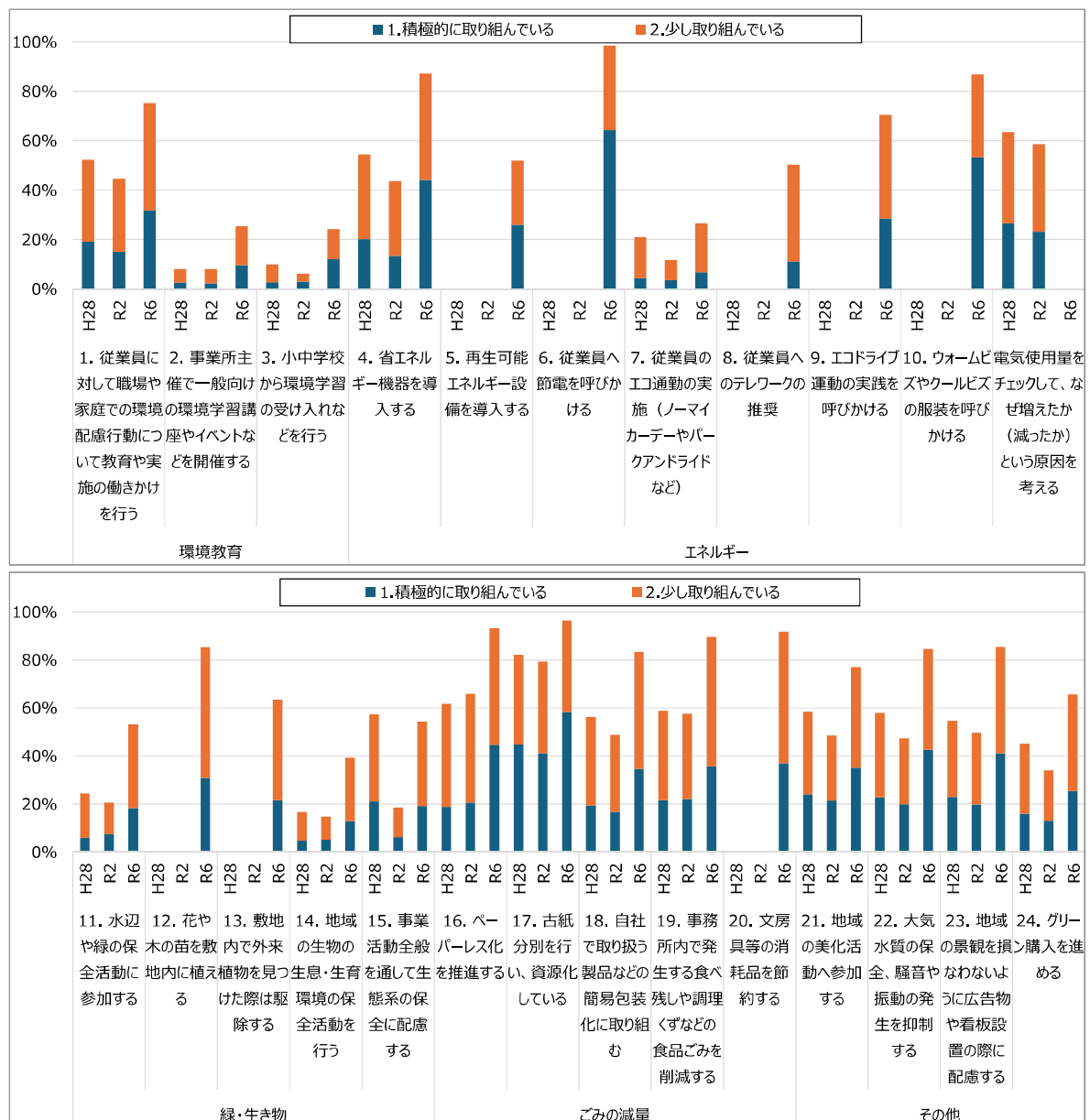
(経年比較)

過年度に実施されたアンケート調査との経年比較については設問項目の変更や R6 年度における回答者の対象変更等による影響が含まれる可能性があることに留意が必要である。

環境全般について

【問 1】

貴事業所における環境に関連する取組状況について、それぞれ 1 つずつ 選んで○をつけてください。また、「3 取り組んでいないがこれから取り組むつもりである」または「4 今のところ取り組むつもりはない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】の A～エのうち最も当てはまるものを 1 つ 選んで、記入してください。



結果概要

【環境教育】

- ・ いずれの項目も令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【エネルギー】

- ・ 比較可能な『4.省エネルギー機器を導入する』、『7.従業員のエコ通勤の実施（ノーマイカーデーやパークアンドライドなど）』ともに令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【緑・生き物】

- ・ 『11.水辺や緑の保全活動に参加する』、『14.地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う』については令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』については平成 28 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【ごみの減量】

- ・ いずれの項目も令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【その他】

- ・ いずれの項目も令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となった。

【全般】

- ・ 『15.事業活動全般を通して生態系の保全に配慮する』以外の比較可能なすべての項目について、令和 6 年度において「1.積極的に取り組んでいる」の割合が最も高い結果となっており、事業者の取組が進んでいることが示唆される。

環境に関連する取組状況と従業員数の関係の経年変化

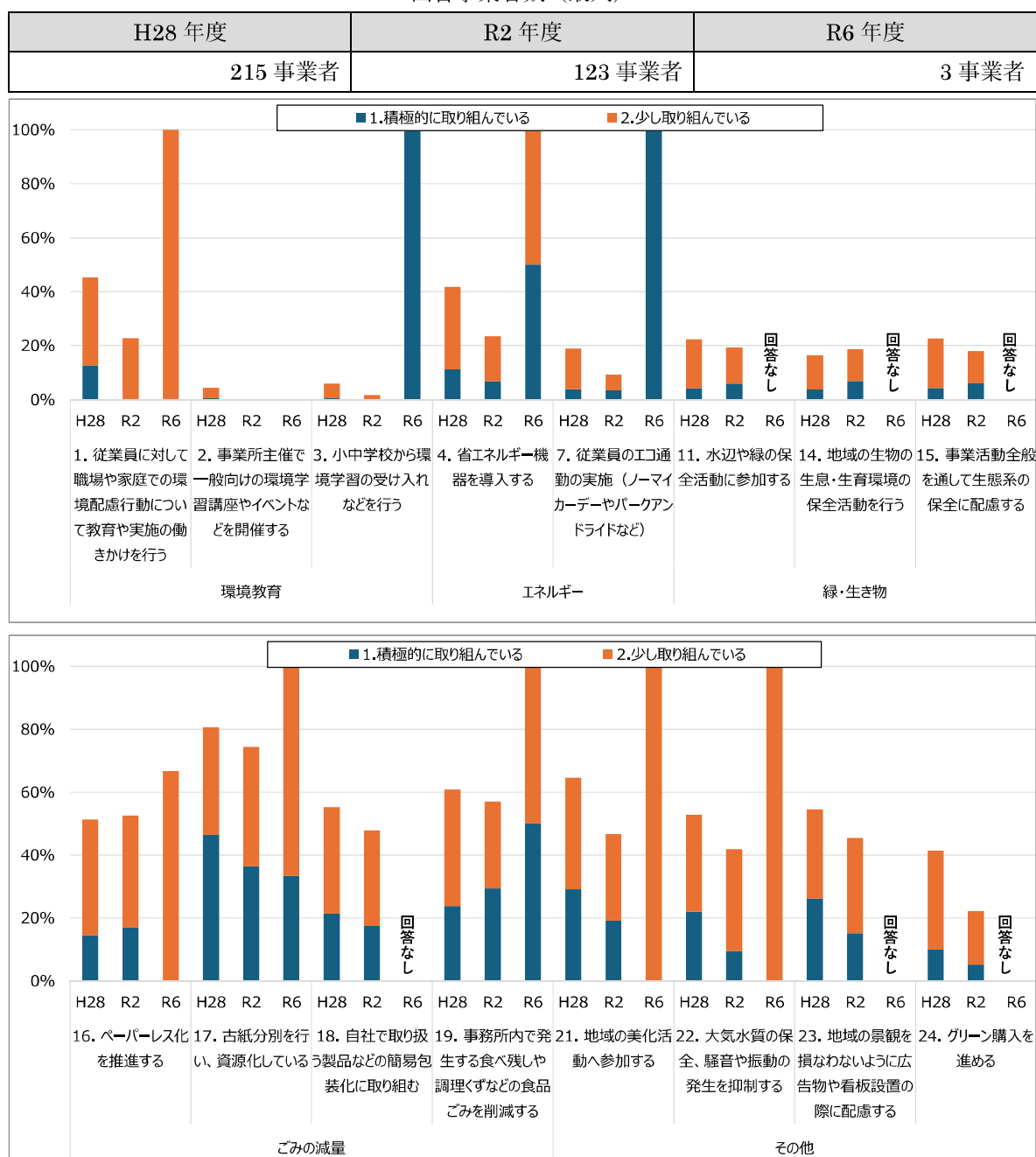
上記「環境全般について」のとおり環境に関連する取組状況について問う設問項目が変化しているため、複数年度において結果が得られた項目について従業員数区分別の経年変化を分析した。

概ねいずれの従業員数区分、項目においても R6 年度で取り組んでいる割合が最も高い結果となっているが、項目によっては H28 年度における割合が最も高い結果となるものもある。

【5 人未満(0～4 人)】

概ねすべての項目において R6 年度は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の回答割合が最も高い結果となった。

回答事業者数（最大）

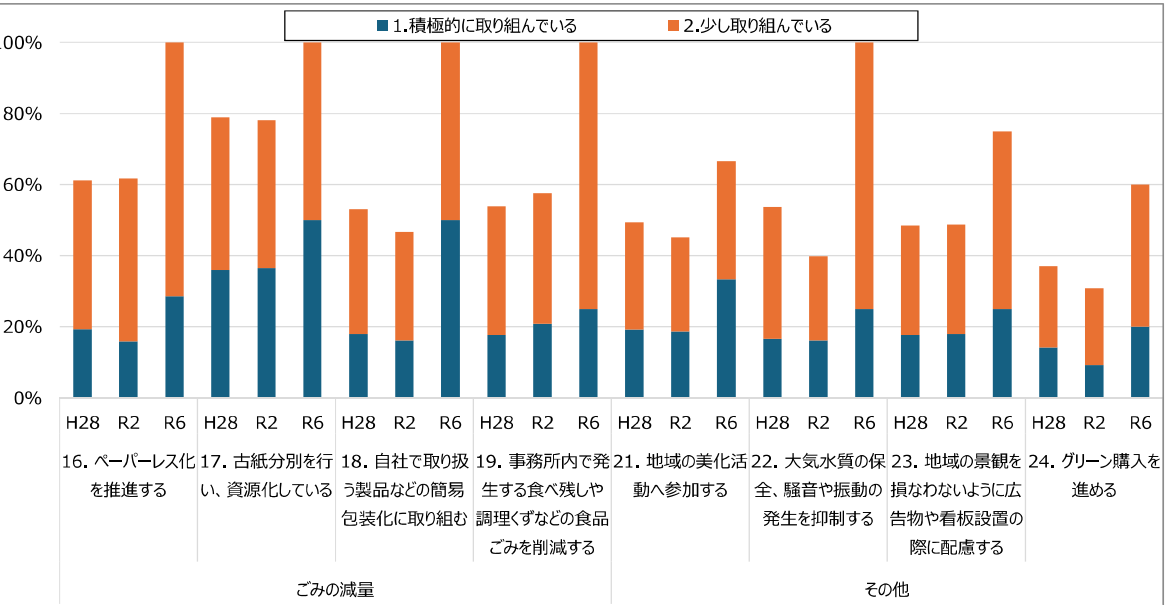
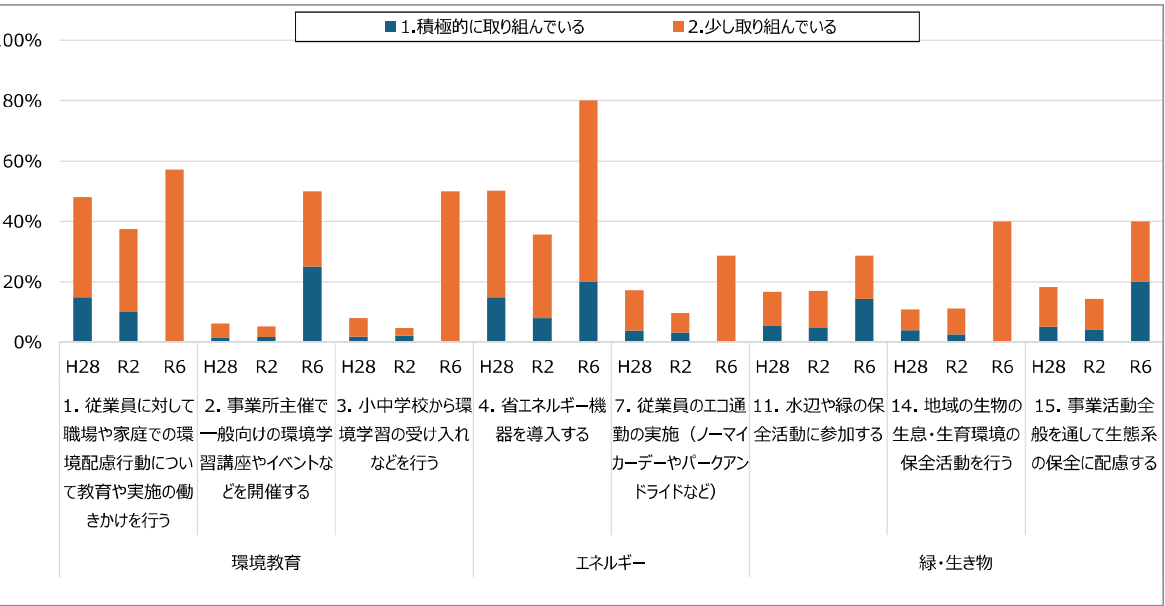


【5～20 人未満(5～9 人※)】

※H28 年度は従業員数区分が「5～10 人未満」、「10～30 人未満」で分けられているため、「5～10 人未満」を用いた。

すべての項目において R6 年度は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の回答割合が最も高い結果となった。

回答事業者数（最大）		
H28 年度	R2 年度	R6 年度
115 事業者	526 事業者	8 事業者



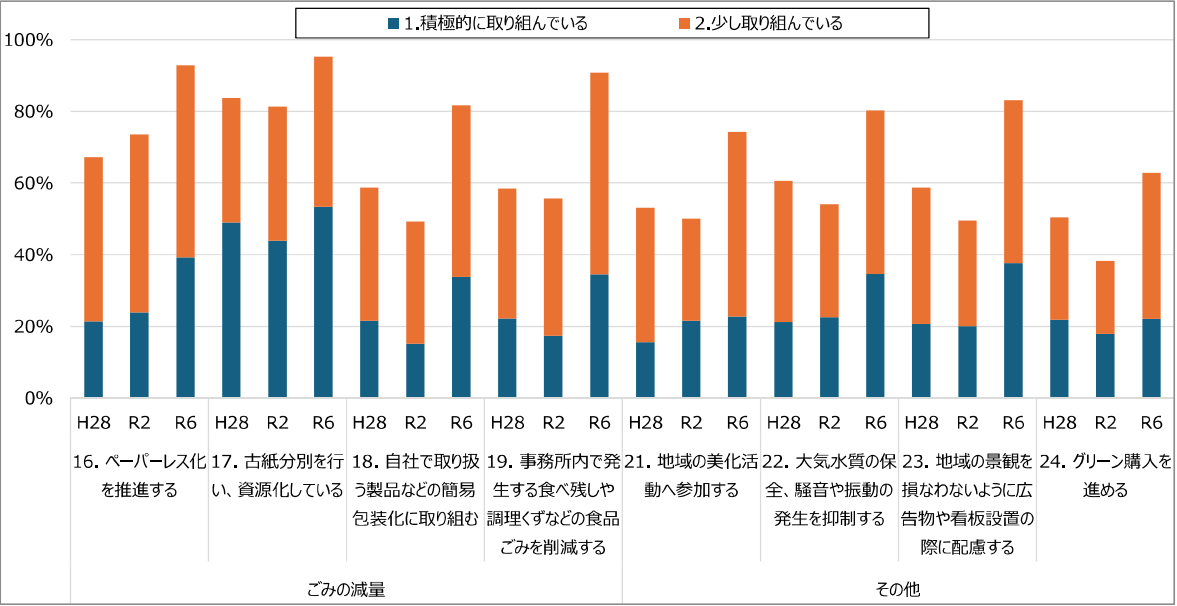
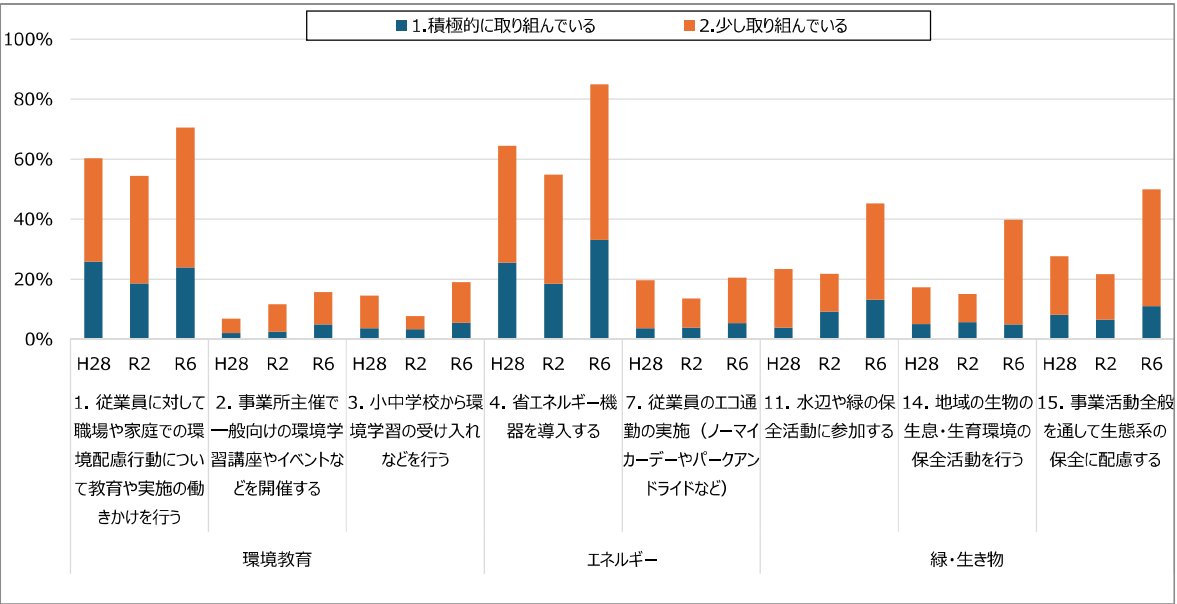
【20～100 人未満(10～99 人※)】

※H28 年度は従業員数区分が「10～30 人未満」、「30～50 人未満」、「50～100 人未満」に分けられているため、平均値を用いた。

すべての項目において R6 年度は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の回答割合が最も高い結果となった。

回答事業者数（最大）

H28 年度	R2 年度	R6 年度
250 事業者	343 事業者	113 事業者

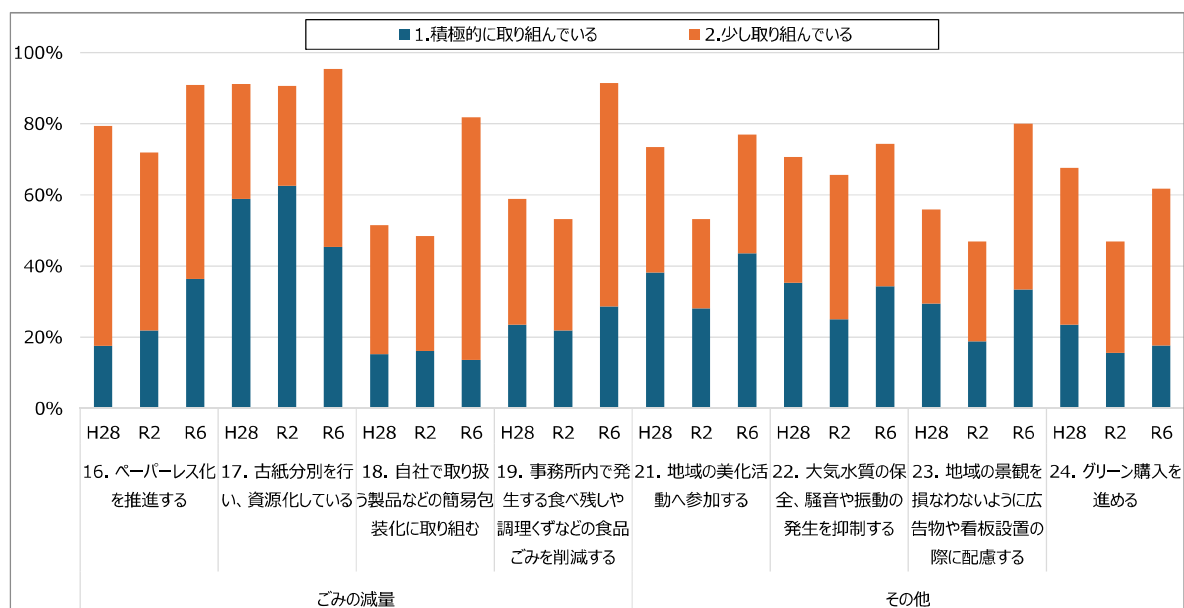
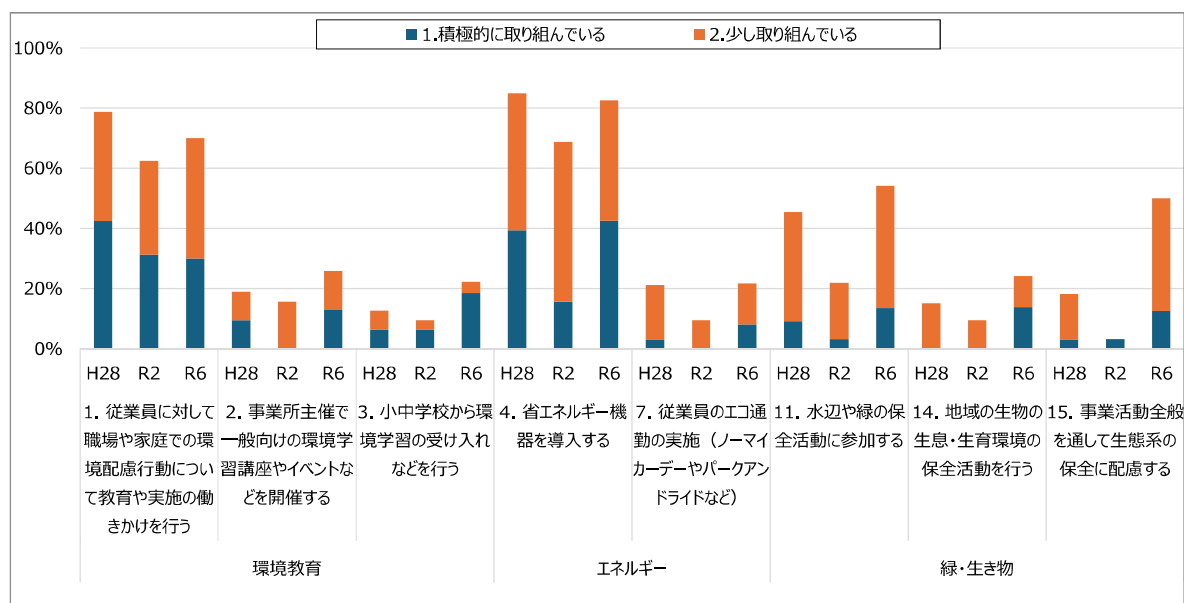


【100～300 人未満(100～299 人)】

概ねすべての項目において R6 年度は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の回答割合が最も高い結果となった。ただし、項目「1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う」、「24. グリーン購入を進める」においては過年度を下回る結果となった。

回答事業者数（最大）

H28 年度	R2 年度	R6 年度
34 事業者	32 事業者	44 事業者

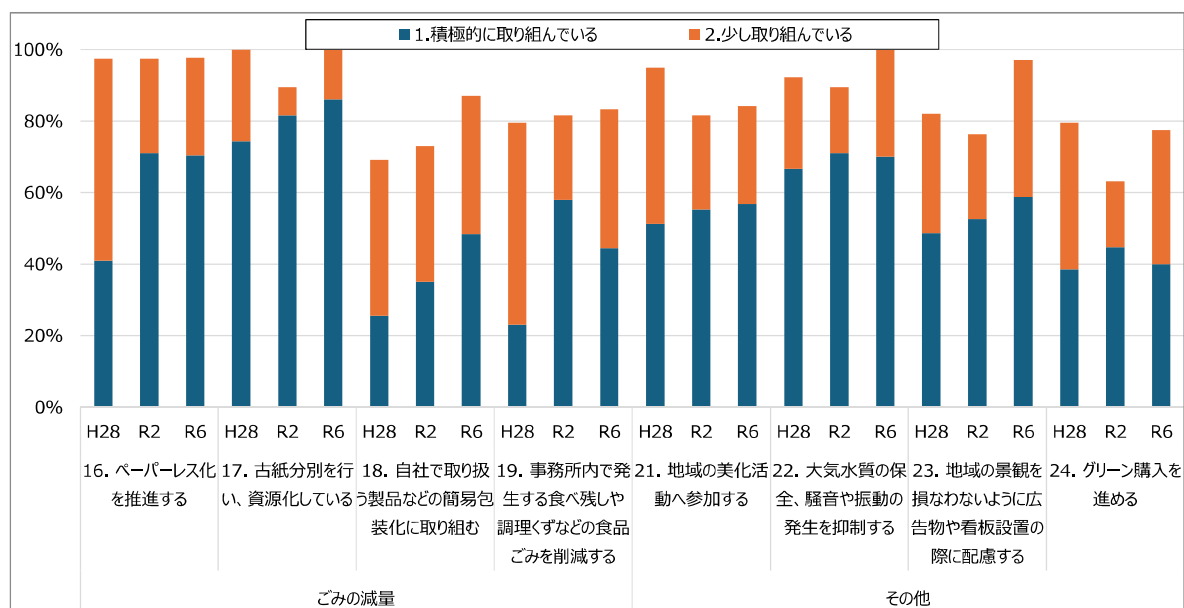
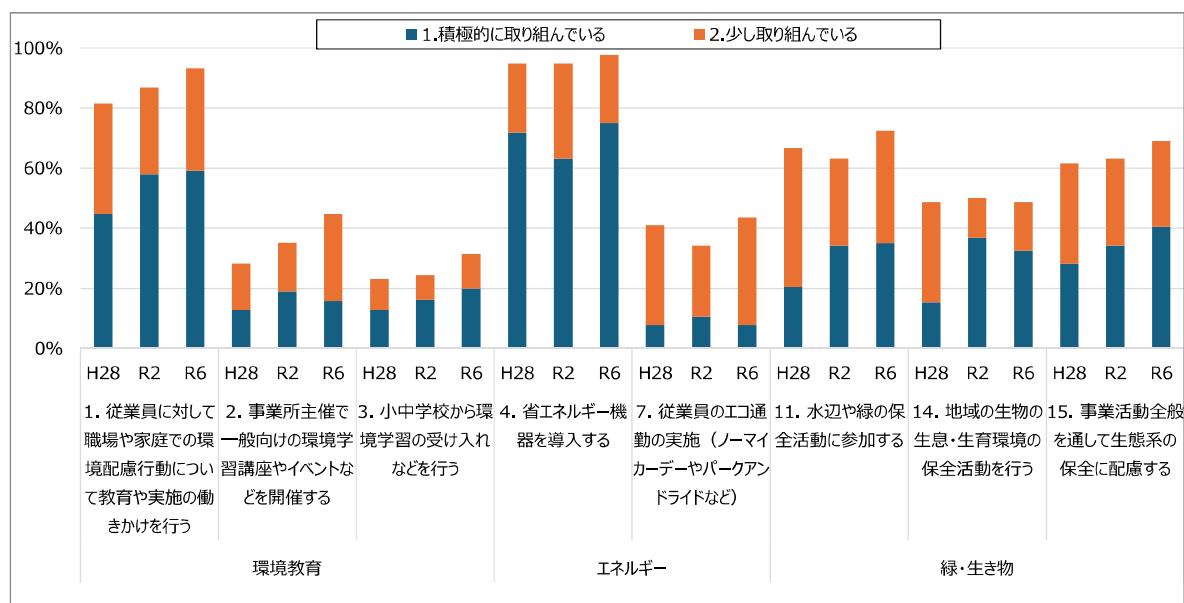


【300人以上】

概ねすべての項目において R6 年度は「1.積極的に取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の回答割合が最も高い結果となった。ただし、項目「14. 地域の生物の生息・生育環境の保全活動を行う」、「21. 地域の美化活動へ参加する」、「24. グリーン購入を進める」においては過年度を下回る結果となった。

回答事業者数（最大）

H28 年度	R2 年度	R6 年度
39 事業者	38 事業者	44 事業者



エネルギー関連設備導入状況と従業員数の関係の経年比較

以下から従業員数区分ごとの太陽光発電システムの導入比率の推移をみると、中小事業所（従業員数が300人未満）、大規模事業所（従業員数が300人以上）のいずれにおいても導入済みの比率が増えていることがわかる。

R6 年度

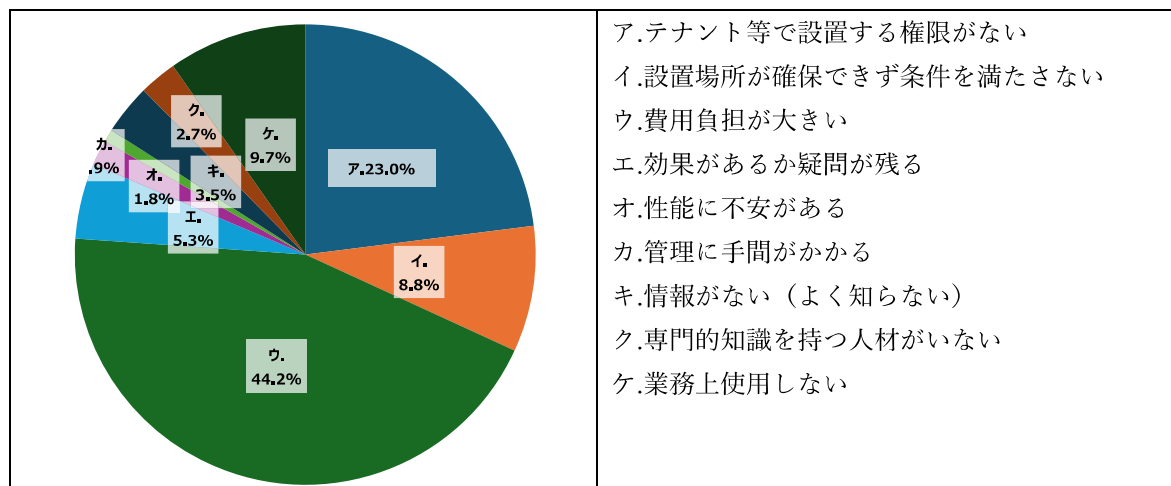
			問3 エネルギー関連設備導入状況			
			1. 太陽光発電システムの導入			
		合計	既に導入済（事業所内で一部導入している場合も含む）	今後、導入予定	関心はあるが、導入予定なし	関心もなく、導入の予定なし
従業員 15 人	1. 5人未満	(n=3)	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
	2. 5～20人未満	(n=8)	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%
	3. 20～100人未満	(n=113)	29.1%	5.5%	46.4%	19.1%
	4. 100～300人未満	(n=44)	23.8%	9.5%	54.8%	11.9%
	5. 300人以上	(n=44)	60.5%	23.3%	9.3%	7.0%

R2 年度

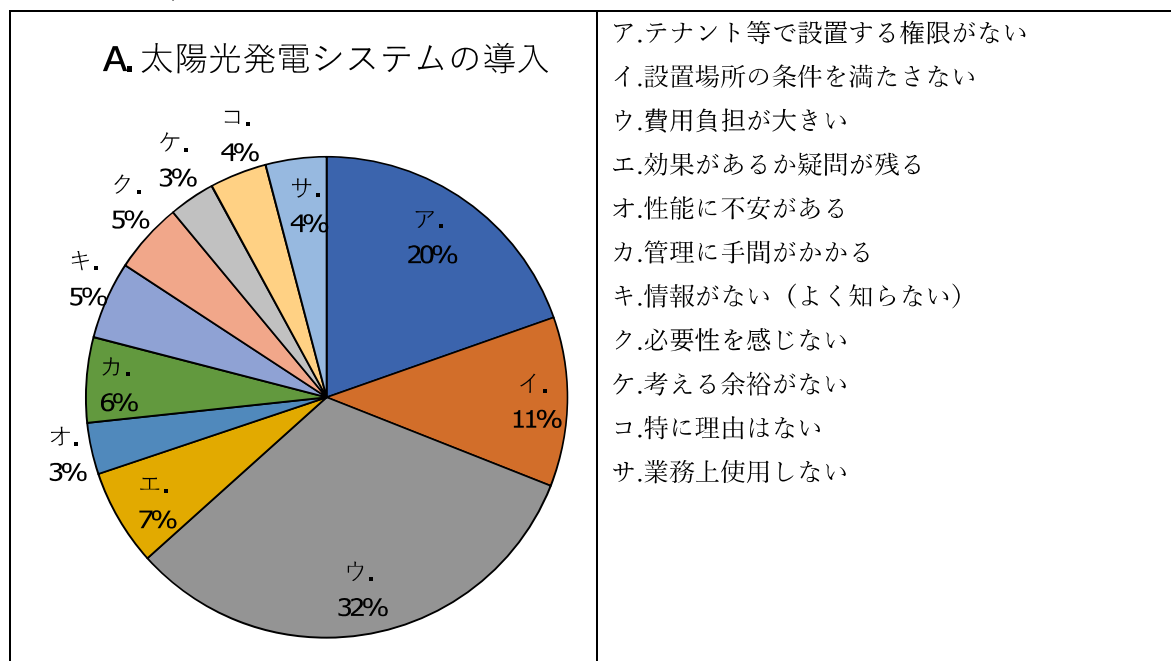
			問9			
			A. 太陽光発電システムの導入			
		合計	すでに導入済み（事業所内で一部導入している場合も含む）	今後、導入予定	関心はあるが、導入予定なし	関心もなく、導入の予定なし
従業員 15 人	1. 5人未満	(n=123)	5.4%	2.7%	63.1%	28.8%
	2. 5～20人未満	(n=526)	2.7%	3.1%	67.1%	27.0%
	3. 20～100人未満	(n=343)	8.0%	4.2%	72.0%	15.7%
	4. 100～300人未満	(n=32)	11.1%	3.7%	66.7%	18.5%
	5. 300人以上	(n=38)	37.0%	14.8%	48.1%	0.0%

一方、「3 関心はあるが、導入予定なし」、「4 関心もなく、導入の予定なし」と回答した事業者の理由に関して、「費用負担が大きい」と答える割合が 12%増加している。

R6 年度 (n=113)



R2 年度 (n=1,326)



4. 小中高生向けアンケート集計結果

アンケート調査の結果

4.1 結果の概要

小中高生向けアンケート結果の概要を示す。

表 3 小中高生向けアンケート結果概要

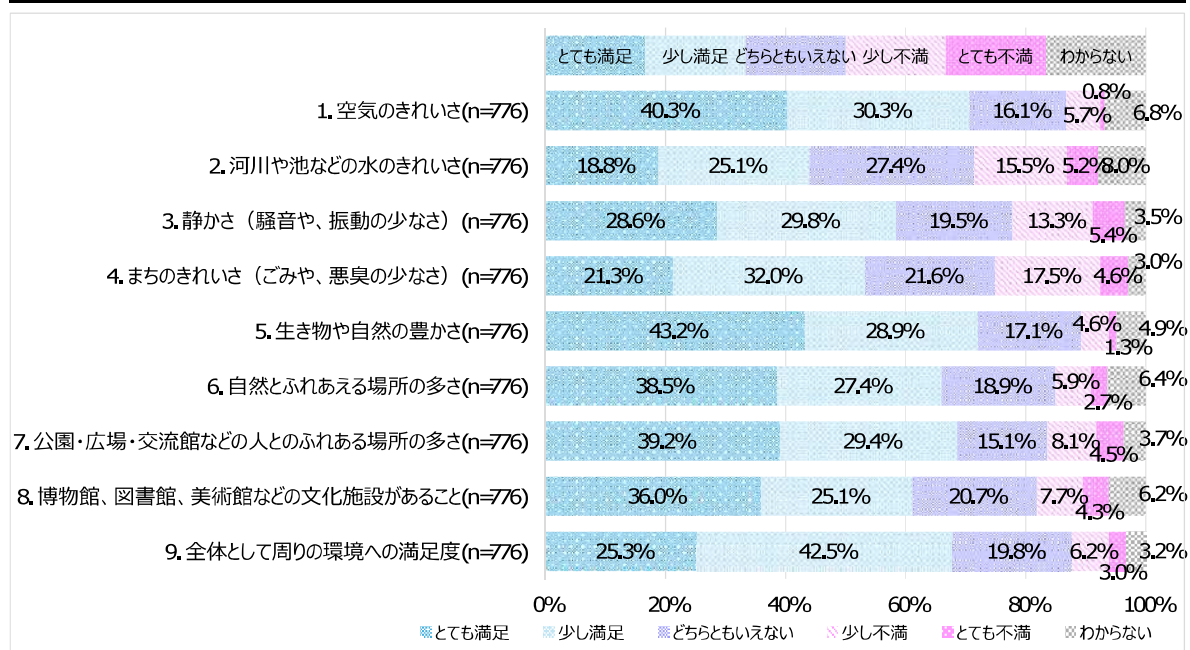
結果概要
【周辺環境の満足度について】 ➤ 『5.生き物や自然の豊かさ』の満足度は「1.とても満足」が43.2%と最も高い結果となった。一方、『3.静かさ（騒音や、振動の少なさ）』は「5.とても不満」が5.4%と最も不満度が高い結果となった。【問 1】
【環境に関する取組状況について】 ➤ 「1.取り組んでいる」回答率は『4.ごみのポイ捨てをしない』が91.0%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が11.3%と最も低い結果となった。【問 2】 ・ 取り組まない理由については、ほとんどの項目において「イ.そのような取組は行うのがめんどうである」回答率が高かった。
【環境に関する問題の認知度について】 ➤ 「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合が最も高い項目は『5.食品ロス』（90.7%）となった。 ➤ 一方、「4.聞いたことがない」と回答した割合が最も高い項目は『4.生物多様性が失われる』（16.0%）となった。【問 3】
【市に優先して取り組んでほしい取組について】 ➤ 回答した割合が高い項目は『1.まちや川、海が汚れることを防ぐ』（19.6%）、『4.地球温暖化防止に取り組む』（17.3%）となった。 ➤ 一方、回答数が少ない項目は『3.工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ』（8.3%）、『6.公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る』（11.6%）となった。【問 4】

4.2 単純集計結果

以下に問 1～問 5 の結果を示す。

【問 1】 家の周りの環境について、どのくらい満足していますか。1～9についてそれぞれの満足度として最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	とても満足	少し満足	どちらともいえない	少し不満	とても不満	わからない
1. 空気のきれいさ	776	313	235	125	44	6	53
	100.0%	40.3%	30.3%	16.1%	5.7%	0.8%	6.8%
2. 河川や池などの水のきれいさ	776	146	195	213	120	40	62
	100.0%	18.8%	25.1%	27.4%	15.5%	5.2%	8.0%
3. 静かさ（騒音や、振動の少なさ）	776	222	231	151	103	42	27
	100.0%	28.6%	29.8%	19.5%	13.3%	5.4%	3.5%
4. まちのきれいさ（ごみや、悪臭の少なさ）	776	165	248	168	136	36	23
	100.0%	21.3%	32.0%	21.6%	17.5%	4.6%	3.0%
5. 生き物や自然の豊かさ	776	335	224	133	36	10	38
	100.0%	43.2%	28.9%	17.1%	4.6%	1.3%	4.9%
6. 自然とふれあえる場所の多さ	776	299	213	147	46	21	50
	100.0%	38.5%	27.4%	18.9%	5.9%	2.7%	6.4%
7. 公園・広場・交流館などの人とのふれあえる場所の多さ	776	304	228	117	63	35	29
	100.0%	39.2%	29.4%	15.1%	8.1%	4.5%	3.7%
8. 博物館、図書館、美術館などの文化施設があること	776	279	195	161	60	33	48
	100.0%	36.0%	25.1%	20.7%	7.7%	4.3%	6.2%
9. 全体として周りの環境への満足度	776	196	330	154	48	23	25
	100.0%	25.3%	42.5%	19.8%	6.2%	3.0%	3.2%

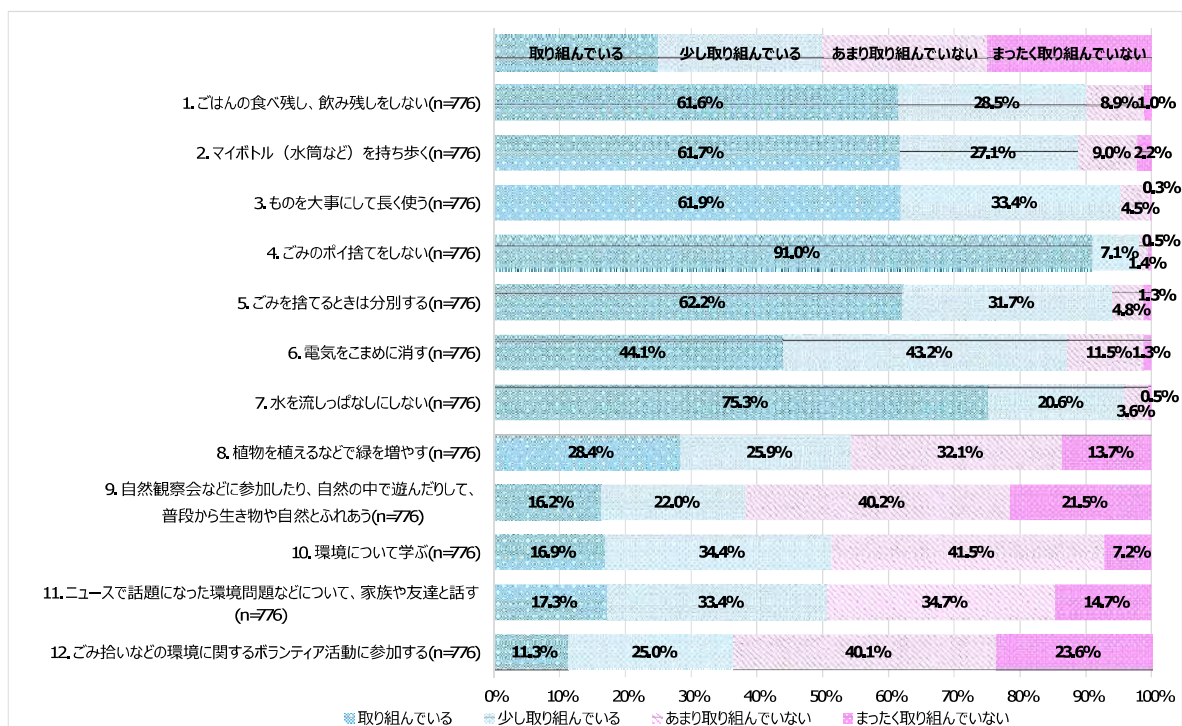


問 1 の結果概要

- 『5.生き物や自然の豊かさ』の満足度は「1.とても満足」が 43.2%と最も高い結果となった。一方、『3.静かさ（騒音や、振動の少なさ）』は「5.とても不満」が 5.4%と最も不満度が高い結果となった。
- 「1.とても満足」と「2.少し満足」の合計値は『5.生き物や自然の豊かさ』が 72.0%と最も高く、「5.とても不満」と「4.少し不満」の合計値は『4.まちのきれいさ（ごみや、悪臭の少なさ）』が 22.2%と最も高いことが示された。
- 『9.全体として周辺環境への満足度』は「1.とても満足」と「2.少し満足」の合計値が 67.8%と小中高生以外の市民における満足度（54.6%）より高い結果となった。

【問 2】 あなたの家庭ではよりよい環境づくりについて、普段どのようなことを行っていますか。最も当てはまるものを 1 つ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
1. ごはんの食べ残し、飲み残しをしない	776	478	221	69	8
	100.0%	61.6%	28.5%	8.9%	1.0%
2. マイボトル（水筒など）を持ち歩く	776	479	210	70	17
	100.0%	61.7%	27.1%	9.0%	2.2%
3. ものを大事にして長く使う	776	480	259	35	2
	100.0%	61.9%	33.4%	4.5%	0.3%
4. ごみのポイ捨てをしない	776	706	55	11	4
	100.0%	91.0%	7.1%	1.4%	0.5%
5. ごみを捨てるときは分別する	776	483	246	37	10
	100.0%	62.2%	31.7%	4.8%	1.3%
6. 電気をこまめに消す	776	342	335	89	10
	100.0%	44.1%	43.2%	11.5%	1.3%
7. 水を流しっぱなしにしない	776	584	160	28	4
	100.0%	75.3%	20.6%	3.6%	0.5%
8. 植物を植えるなどで緑を増やす	776	220	201	249	106
	100.0%	28.4%	25.9%	32.1%	13.7%
9. 自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう	776	126	171	312	167
	100.0%	16.2%	22.0%	40.2%	21.5%
10. 環境について学ぶ	776	131	267	322	56
	100.0%	16.9%	34.4%	41.5%	7.2%
11. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す	776	134	259	269	114
	100.0%	17.3%	33.4%	34.7%	14.7%
12. ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する	776	88	194	311	183
	100.0%	11.3%	25.0%	40.1%	23.6%

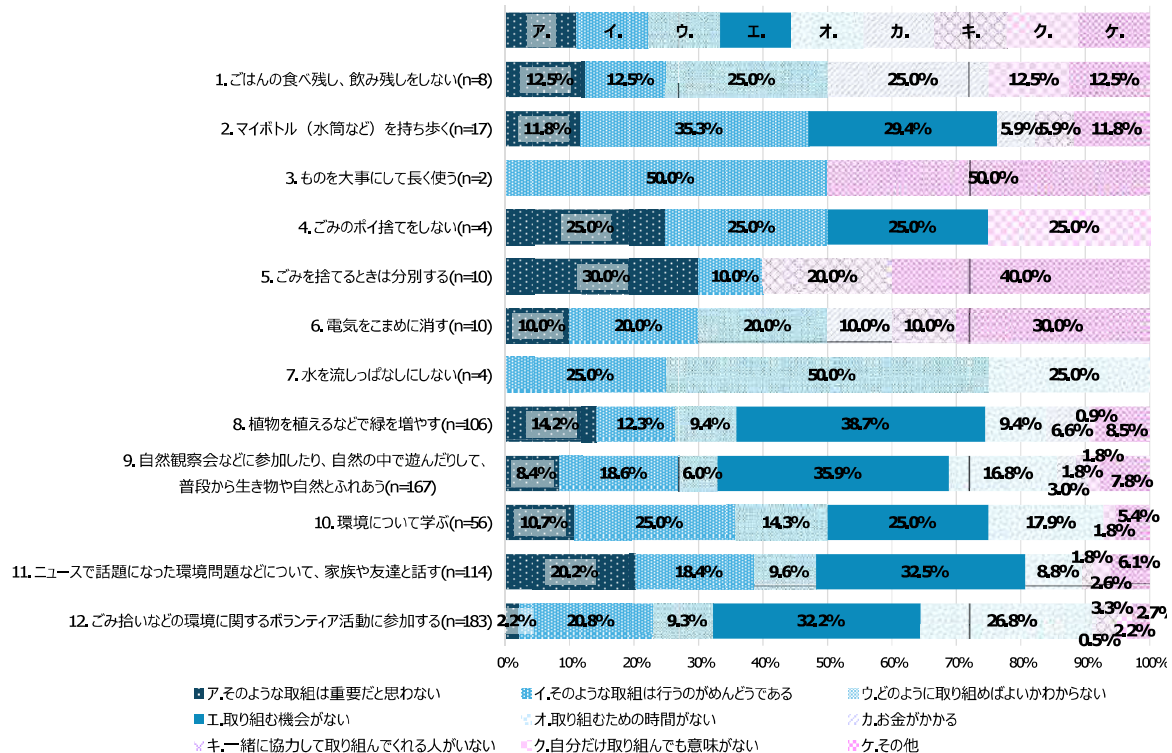


問 2 の結果概要

- 「1.取り組んでいる」回答率は『4.ごみのポイ捨てをしない』が 91.0%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が 11.3%と最も低い結果となった。
- 「1.取り組んでいる」、「2.少し取り組んでいる」の合計値についても『4.ごみのポイ捨てをしない』が 98.1%と最も高く、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』が 36.3%と最も低い結果となった。
- 一方、「4.まったく取り組んでいない」回答率は『9.自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう』が 21.5%と最も高い結果となった。

「まったく取り組んでいない」を回答した場合の理由

上段:度数 下段: %	合計	そのような取組は重要だと思わない	そのような取組は行うのがめんどろである	どのように取り組めばよいかわからない	取り組む機会がない	取り組むための時間がない	お金がかかる	一緒に協力して取り組んでくれる人がいない	自分だけ取り組んでも意味がない	その他
1. ごはんの食べ残し、飲み残しをしない	8 100.0%	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%
2. マイボトル（水筒など）を持ち歩く	17 100.0%	2 11.8%	6 35.3%	0 0.0%	5 29.4%	0 0.0%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	2 11.8%
3. ものを大事にして長く使う	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
4. ごみのポイ捨てをしない	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
5. ごみを捨てるときは分別する	10 100.0%	3 30.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	4 40.0%
6. 電気をこまめに消す	10 100.0%	1 10.0%	2 20.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	3 30.0%
7. 水を流しっぱなしにしない	4 100.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
8. 植物を植えるなどで緑を増やす	106 100.0%	15 14.2%	13 12.3%	10 9.4%	41 38.7%	10 9.4%	7 6.6%	0 0.0%	1 0.9%	9 8.5%
9. 自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう	167 100.0%	14 8.4%	31 18.6%	10 6.0%	60 35.9%	28 16.8%	5 3.0%	3 1.8%	3 1.8%	13 7.8%
10. 環境について学ぶ	56 100.0%	6 10.7%	14 25.0%	8 14.3%	14 25.0%	10 17.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	3 5.4%
11. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す	114 100.0%	23 20.2%	21 18.4%	11 9.6%	37 32.5%	10 8.8%	0 0.0%	2 1.8%	3 2.6%	7 6.1%
12. ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する	183 100.0%	4 2.2%	38 20.8%	17 9.3%	59 32.2%	49 26.8%	1 0.5%	6 3.3%	4 2.2%	5 2.7%



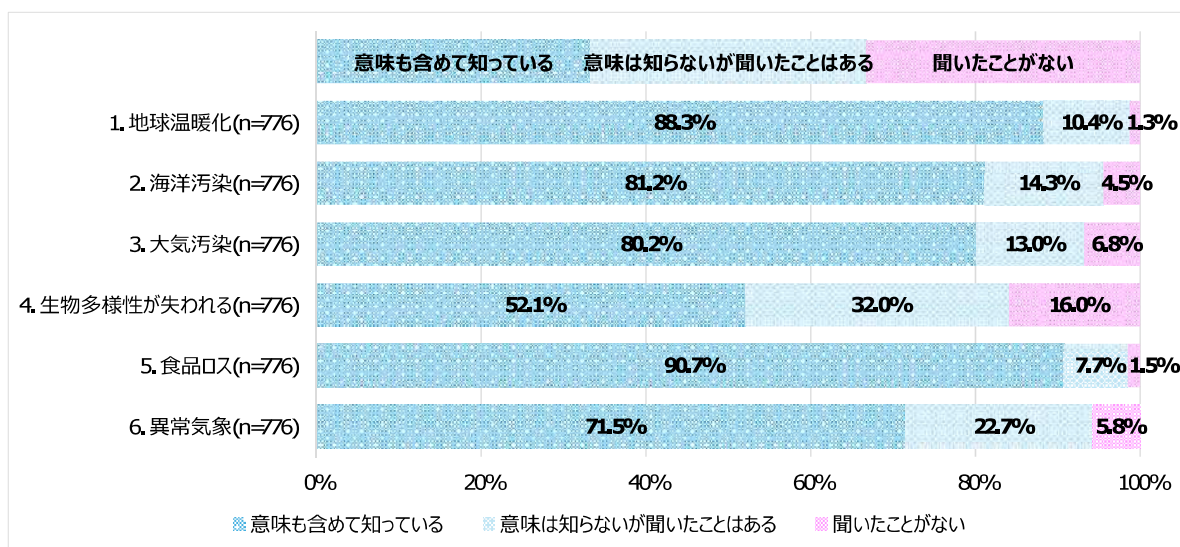
問 2 の結果概要

- 特に取組の進んでいない『8.植物を植えるなどで緑を増やす』、『9.自然観察会などに参加したり、自然の中で遊んだりして、普段から生き物や自然とふれあう』、『11.ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や友達と話す』、『12.ごみ拾いなどの環境に関するボランティア活動に参加する』はいずれも「E.取り組む機会がない」が最も高い結果となった。

【問3】

環境に関する問題について、あなたはどのくらい知っていますか。1～6についてそれぞれ最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

上段:度数 下段: %	合計	意味も含めて知っている	意味は知らないが聞いたことはある	聞いたことがない
1. 地球温暖化	776	685	81	10
	100.0%	88.3%	10.4%	1.3%
2. 海洋汚染	776	630	111	35
	100.0%	81.2%	14.3%	4.5%
3. 大気汚染	776	622	101	53
	100.0%	80.2%	13.0%	6.8%
4. 生物多様性が失われる	776	404	248	124
	100.0%	52.1%	32.0%	16.0%
5. 食品ロス	776	704	60	12
	100.0%	90.7%	7.7%	1.5%
6. 異常気象	776	555	176	45
	100.0%	71.5%	22.7%	5.8%

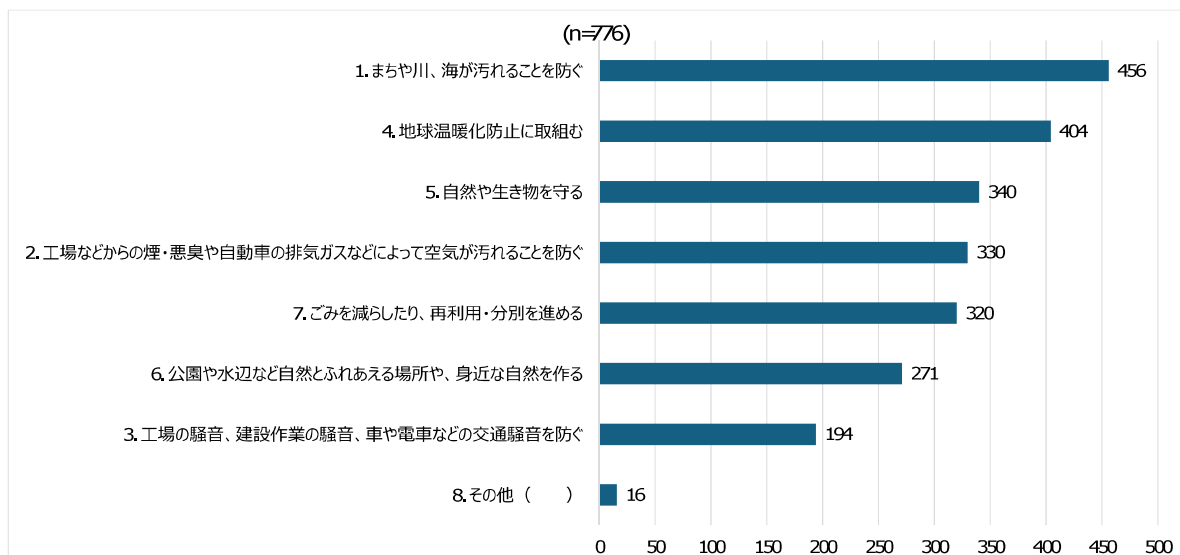


問3の結果概要

- 環境に関する問題について「1.言葉の意味も含めて知っている」と回答した割合が最も高い項目は『5.食品ロス』（90.7%）となった。
- 一方、「4.聞いたことがない」と回答した割合が最も高い項目は『4.生物多様性が失われる』（16.0%）となった。

【問 4】 よりよい環境をつくり守るために、豊田市にはどのようなことに優先して取り組んでほしいと思いますか。次の中から、当てはまるものを3つ選んでください。

	回答数	割合
1. まちや川、海が汚れることを防ぐ	456	19.6%
4. 地球温暖化防止に取り組む	404	17.3%
5. 自然や生き物を守る	340	14.6%
2. 工場などからの煙・悪臭や自動車の排気ガスなどによって空気が汚れることを防ぐ	330	14.2%
7. ごみを減らしたり、再利用・分別を進める	320	13.7%
6. 公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る	271	11.6%
3. 工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ	194	8.3%
8. その他（ ）	16	0.7%
合計	2331	
有効回答数	776	



問 4 の結果概要

- ・ 回答した割合が高い項目は『1.まちや川、海が汚れることを防ぐ』（19.6%）、『4.地球温暖化防止に取り組む』（17.3%）となった。
- ・ 一方、回答数が少ない項目は『3.工場の騒音、建設作業の騒音、車や電車などの交通騒音を防ぐ』（8.3%）、『6.公園や水辺など自然とふれあえる場所や、身近な自然を作る』（11.6%）となった。

【問5】 豊田市の環境について、率直に思っていることやご意見を書いてください。

結果（原文まま、抜粋）

- ・ 豊田市は森や川などの自然が豊かだけでもっと増やしてほしい
- ・ これからもポイ捨てしてる子がいたら優しく教えてあげるようにしたいから自分もポイ捨てをしないようにしたいです。
- ・ 工場が多いから空気が心配
- ・ 自然がいっぱいあってうれしい。
- ・ 工事とか車の音とかが少しうるさい
- ・ 僕は、豊田市運動公園「猿投公園」でゴミを拾っている人を見かけたことがあるのでこれからもその人たちには、続けてほしいし、僕もゴミを拾うなどかんきょうに優しいことをしたいなと思います。
- ・ 今知っておけば将来役に立つと思う。
- ・ 大人は移動する時に近くても車を使っている。
- ・ 近かったら歩いたり自転車で行って欲しい。
- ・ 電灯がなくて、通る時にくらい道がある。ボランティア活動が多い。
- ・ バイクなど車の音がうるさい。
- ・ 交流館のように、勉強スペースを増やしてほしい。"
- ・ 改善の機会があるとしたら、未来想像力をもっと高めてほしい
- ・ 環境問題を知らない人が多いと思うので、みんなが知れる機会を設けてほしい。
- ・ 学ぶ機会がほしい
- ・ 公園の数が多く、人と触れ合いやすい。
- ・ 学校で自然や環境を勉強する機会があまりなかったので、もっと学ぶ機会を増やして欲しいです。

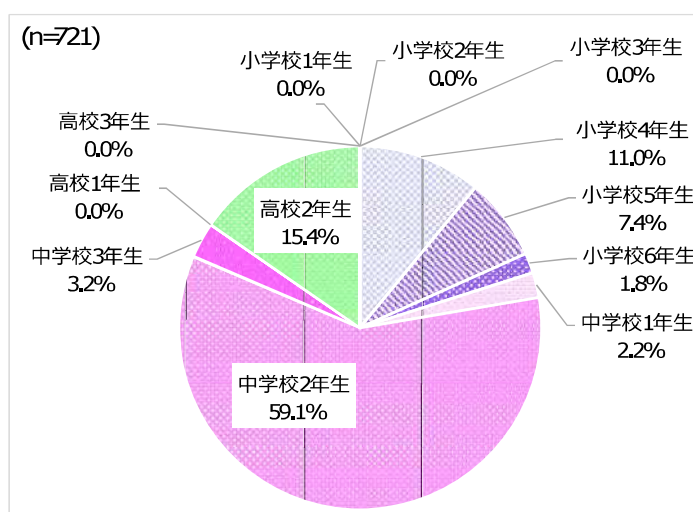
問5の結果概要

- ・ ごみのポイ捨てや環境美化活動、周辺環境に関する問題意識や関心を示す意見が多い結果となった。
- ・ 環境学習を希望する意見についても多い結果となった。

【問】 学年を入力してください。

例(れい)：1年

	回答数	割合
小学校1年	0	0.0%
小学校2年	0	0.0%
小学校3年	0	0.0%
小学校4年	79	11.0%
小学校5年	53	7.4%
小学校6年	13	1.8%
中学校1年	16	2.2%
中学校2年	426	59.1%
中学校3年	23	3.2%
高校1年生	0	0.0%
高校2年生	111	15.4%
高校3年生	0	0.0%
合計	721	



4.3 詳細集計結果

(1) 居住地域と周辺環境の満足度の関係（問1のクロス集計）

結果概要

(2) 小中高と市に優先して取り組んでほしいことの関係（問1のクロス集計）

結果概要									
- いずれの項目も小学生が最も満足度が高い結果となった。 『1.空気のきれいさ』、『5.生き物や自然の豊かさ』、『7.公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ』、『8.博物館、図書館、美術館などの文化施設があること』、『9.全体として周りの環境への満足度』は小学生ほど満足度が高い結果となった。									

問1 周辺環境の満足度									
	全体	1. 空気のきれいさ		2. 河川や池などの水のきれいさ		3. 静かさ（騒音や、振動の少なさ）		4. まちのきれいさ（ごみや、悪臭の少なさ）	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
小学校	(n=159)	82.4%	17.6%	57.7%	42.3%	64.4%	35.6%	66.2%	33.8%
中学校	(n=495)	75.1%	24.9%	43.9%	56.1%	59.0%	41.0%	49.9%	50.1%
高校	(n=122)	70.1%	29.9%	50.0%	50.0%	61.7%	38.3%	60.5%	39.5%

	全体	5. 生き物や自然の豊かさ		6. 自然とふれあえる場所の多さ		7. 公園・広場・交流館などの人とのふれあふ場所の多さ		8. 博物館、図書館、美術館などの文化施設があること		9. 全体として周りの環境への満足度	
		満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である	満足している	不満足である
小学校	(n=159)	84.1%	15.9%	81.6%	18.4%	80.9%	19.1%	72.2%	27.8%	77.6%	22.4%
中学校	(n=495)	74.5%	25.5%	66.8%	33.2%	71.7%	28.3%	65.4%	34.6%	68.6%	31.4%
高校	(n=122)	70.1%	29.9%	70.7%	29.3%	56.1%	43.9%	54.8%	45.2%	66.1%	33.9%

1 現行計画策定後の取組の総括

- ・区域全体では温室効果ガス排出量は順調に削減
- ・再エネ導入率も順調に上昇
- ・市役所の取組としては、温室効果ガス排出量は目標に達していない。

【主なまちの状態指標の評価】

	現行計画策定時	現行計画見直し時	最新年度	目指す方向	評価
市域全体の CO ₂ 排出量	345 万 t-CO ₂ (2014 年度)	315 万 t-CO ₂ (2018 年度)	266 万 t-CO ₂ (2021 年度)	↓	○
再エネ導入率	23% (2015 年度)	27% (2020 年度)	28.6% (2023 年度)	↑	○
市役所の CO ₂ 排出量	6.7 万 t (2013 年度)	4.3 万 t (2020 年度)	6.0 万 t (2023 年度)	↓	△※

※直線回帰の削減に達していない。理由は、暑熱対策でのエアコンの増設と感染対策による運用の非効率化、新設施設の稼働、廃棄物発電設備の計画停止などにより、エネルギー使用量が増加したことが主な要因。

2 中間見直し後の社会環境や情勢の変化

- ・グローバルでのカーボンニュートラルの主流化
- ・国の温暖化対策実行計画、エネルギー基本計画、GX2040 ビジョンの閣議決定。
 - 脱炭素分野の新たな市場創出・産業競争力強化／地域脱炭素の推進
- ・9 総の柱として位置づけ
 - カーボンニュートラルを念頭に置いた施策実施や、分野横断で推進する体制を構築

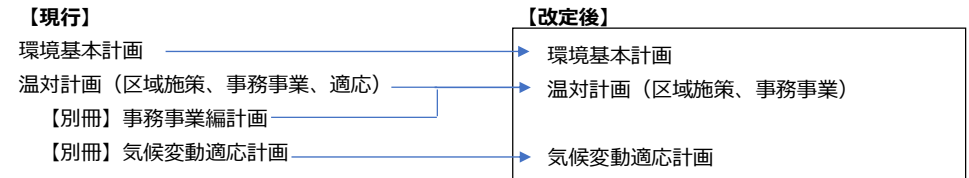
【参考】改定版脱炭素ロードマップ（作成中）



3 計画改定の概要（ポイント）

(1) 計画の構成

理解しやすい計画とするため、以下の通り計画の構成を変更



(2) 脱炭素シナリオの作成

AIM モデルに、豊田市の地域特性を加味し、豊田市の脱炭素シナリオを作成

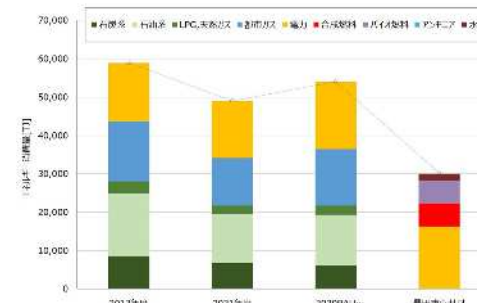


図 2050 年のエネルギー消費量（見通し）

【2050 年の姿】

【エネルギー消費量】

- ・電力は、約 6 割（省エネで減、電化で増）
- ・電化出来ない分野は、**合成燃料**、**バイオ燃料**、**水素**に転換。0.5%程度は化石燃料が残る想定

【温室効果ガス排出量】

- ・電力、水素、合成・バイオ燃料は排出量ゼロ
- ・化石燃料の使用等、残る温室効果ガスは**森林吸収**、**CCUS**等で吸収・回収

(3) 温室効果ガス排出削減目標

	区域施策	事務事業
2030 年度	5 0 %	5 5 %
2035 年度	6 3 %	6 6 %

※IPCC への整合を目指すため、各年度で定めた温室効果ガス排出割合を**下回る**ことを目標とする。

(4) 再エネ導入目標

2030 年度	+ 7 0 MW（再エネ率換算 3 1 %）
2035 年度	+ 1 1 0 MW（再エネ率換算 3 3 %）

(5) 強化する施策の内容

再生可能エネルギーの利用促進	・スマートハウス普及支援 【拡充】 ・太陽光発電設備の導入支援 【拡充】 ・地域共生型再エネの普及に向けた仕組みの検討 【新規】
新たなエネルギーや技術の普及促進	・水素社会の実現に向けた戦略を策定、具体的な支援 【新規】 ・ペロブスカイト等、次世代型太陽光電池の率先導入、普及に向けた啓発の実施 【新規】
様々な分野の事業連携による脱炭素化の促進	・脱炭素の取組推進による産業や交通における価値向上の取組を強化 【拡充】 ・脱炭素に取り組む主体が連携して行動できる仕組みの検討 【新規】
気候変動への適応	・激甚化・頻発化する自然災害への適応 【新規・拡充】 ・健康リスクの低減（熱中症対策）【新規・拡充】